

城陽市地域福祉に関する 市民アンケート調査結果報告書

**平成 29 年 (2017 年) 7 月
城陽市**

目次

I. 調査の概要	1
1 調査目的	3
2 実施要領	3
3 回収状況	3
4 報告書の見方.....	3
5 調査結果の概要.....	4
II. 調査の結果	7
1 基本的事項	9
〔1〕 性別	
〔2〕 年齢	
〔3〕 家族構成	
〔4〕 子ども、高齢者、介護・介助の必要な家族の有無	
〔5〕 職業	
〔6〕 世帯の年収	
〔7〕 世帯の年収の生活費に対する実感	
〔8〕 住宅の形態	
〔9〕 居住地域	
〔10〕 居住年数	
2 地域とのかかわりについて.....	18
〔1〕 「地域」の範囲	
〔2〕 近所付き合いの程度	
〔3〕 参加している地域活動	
〔4〕 参加していない理由	
〔5〕 地域の行事や活動の活発化に必要なこと	
3 地域の福祉について	29
〔1〕 福祉に対する関心	
〔2〕 関心のある福祉の分野	
〔3〕 地域の福祉に関する意識	
〔4〕 各福祉活動主体の認知	
〔5〕 福祉サービスの情報源	
〔6〕 福祉サービスに関する情報は得られているか	
〔7〕 福祉サービスの情報が得られない理由	
4 悩みや困りごとについて.....	64
〔1〕 生活上の困りごと	
〔2〕 悩みや不安の内容	
〔3〕 悩みや不安の相談先	
〔4〕 相談しない理由	

〔5〕 必要な支援	
5 地域での支え合いについて.....	69
〔1〕 支援や介助が必要な方を見かけたとき、気を配っていること	
〔2〕 手助けできること、手助けしてほしいこと	
〔3〕 災害時の対策	
6 ボランティア活動について.....	74
〔1〕 ボランティア活動への参加	
〔2〕 参加している活動の種類	
〔3〕 参加したい頻度	
〔4〕 参加していない理由	
7 社会全体や城陽市の福祉について.....	79
〔1〕 ノーマライゼーションへの理解	
〔2〕 障がいのある方と共生するために必要なこと	
〔3〕 今後の福祉のあり方	
〔4〕 互いに安心して暮らすために大切なこと	

I. 調査の概要

I. 調査の概要

1 調査目的

本調査は、平成 24 年（2012 年）3月に策定した「城陽市地域福祉計画」の計画年度が平成 24 年度（2012 年度）から平成 29 年度（2017 年度）までであることから、本市にお住まいの 18 歳以上の方々を対象に、地域福祉に関するご意見をおうかがいし、「城陽市地域福祉計画」の見直しの基礎資料とするために実施したものです。

2 実施要領

(1) 調査地域

城陽市内全域

(2) 調査対象及び標本抽出方法

市内在住の 18 歳以上の方から 2,000 人を無作為抽出

(3) 調査方法

郵送による配布・回収

(4) 調査基準日

平成 28 年（2016 年）11 月 1 日

(5) 調査時期

配布開始：平成 28 年（2016 年）11 月 26 日（土）

回収終了：平成 28 年（2016 年）12 月 16 日（金）

3 回収状況

有効回収数 975 件

有効回収率 48.8%

4 報告書の見方

- ・回答結果の割合「%」は有効回答数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものを集計しています。
- ・図表等の「N (NUMBER OF CASE)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。

5 調査結果の概要

(1) 地域とのかかわりについて

生活上の地域の範囲については、「城陽市全域」と考える人が最も多くなっています。

近所付き合いの程度については、「顔を合わせばあいさつをする程度」や「世間話や立ち話をする程度」が多く、「付き合いをしていない」はわずかにとどまっています。

参加している地域活動については、「自治会活動」への参加が最も多く、約4割となっています。一方、「参加していない」も約4割となっており、参加していない理由については、「学校や仕事で忙しい」が最も多くなっています。

地域の行事や活動の活発化に必要なことについては、「住民同士が困ったときに、今以上に支え合える関係をつくる」や「あいさつができる程度の顔見知りの関係を広げる」が多くなっています。

(2) 地域の福祉について

福祉に対する関心については、「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある』が約8割となっています。また、関心のある福祉の分野については「高齢者に関する福祉」が最も多く、約8割となっています。

地域の福祉に関する意識については、「地域の福祉サービスは充実している」と「地域には福祉に関心のある人が多い」は、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた『思う』と「どちらかというと思わない」と「そう思わない」を合わせた『思わない』が同程度となっています。また、「地域に福祉施設ができるのは困る」は、『思わない』が約6割となっています。さらに、「地域には他人に無関心な人が多い」は、『思う』が『思わない』に比べて多くなっています。

各福祉活動主体の認知については、自治会が最も高くなっており、「活動内容を知っている」が約6割となっています。

福祉サービスの情報源については「市役所」が最も多く、約5割となっています。また、福祉サービスに関する情報は得られているかについては、「あまり得ることができない」と「ほとんど得ることができない」を合わせた『得ることができない』が約6割となっており、福祉サービスの情報が得られない理由については、「福祉サービスに関するパンフレットや広報紙を見る機会が少ない」が最も多く、約5割となっています。

(3) 悩みや困りごとについて

生活上の困りごとについては、「ある（以前あった）」と「ない」が同程度となっています。

悩みや不安の内容については、「自分や家族の健康や病気のこと」が最も多くなっています。

悩みや不安の相談先については、「家族や親戚」が約5割と最も多くなっています。一方、相談しない理由については、「他の人に相談する必要を感じない」と「悩みや不安の解決につながりそうにない」が最も多くなっています。

また、仕事や生活に困っている方に対して必要な支援については、「自立に向けた相談の充実」が最も多く、約5割となっています。

(4) 地域での支え合いについて

支援や介助が必要な方を見かけたとき、気を配っていることについては、「車椅子や杖を持った人に道や建物の出入り口をゆずった」、「障がい者用駐車場に車を止めないようにした」、「エレベーターなどで代わりにボタンを押してあげた」が多く、約6割となっています。一方、「特に何もしなかった」はわずかにとどまっています。

手助けできることについては、「病気など緊急時に医者を呼ぶなどの手助け」が最も多く、約8割となっています。また、「話し相手や、相談ごとの相手」、「玄関前の掃除や植木の水やり、ごみ出しなど」、「買い物の代行や簡単な用事（手紙の投函、荷物の受け取りなど）」も多く、5割以上となっています。

一方、手助けしてほしいことについては、「病気など緊急時に医者を呼ぶなどの手助け」が最も多く、約5割となっています。

災害時の対策については、「災害時の情報をすみやかに伝達できるような情報伝達システムを充実する」、「日頃から隣近所が声をかけ合い、支え合うようにする」が多く、約6割となっています。

(5) ボランティア活動について

ボランティア活動への参加については、「参加していない」が多く、約6割となっており、参加していない理由については、「時間の余裕がない」が最も多く、約5割となっています。

また、参加している活動の種類については、「募金への寄付」が最も多く約5割となっています。

一方、「参加していないが機会があれば参加したい」を選んだ方がボランティア活動に参加したい頻度については、「行事などがあるとき、不定期に」が多く、約5割となっています。

(6) 社会全体や城陽市の福祉について

ノーマライゼーションへの理解については、「かなり進んでいる」と「ある程度進んでいる」を合わせた『進んでいる』に比べて「あまり進んでいない」と「まったく進んでいない」を合わせた『進んでいない』が多くなっています。

障がいのある方と共生するために必要なことについては、「職場や学校において障がいのある方のための適切な設備や環境を整える」が最も多くなっています。

今後の福祉のあり方については、「福祉は、行政と市民が協力しながら、地域で支え合う仕組みをつくるべき」が最も多く、約7割となっています。また、互いに安心して暮らすために大切なことについては、「福祉に関して気軽に相談できる窓口をつくること」が最も多く、約5割となっています。

Ⅱ. 調査の結果

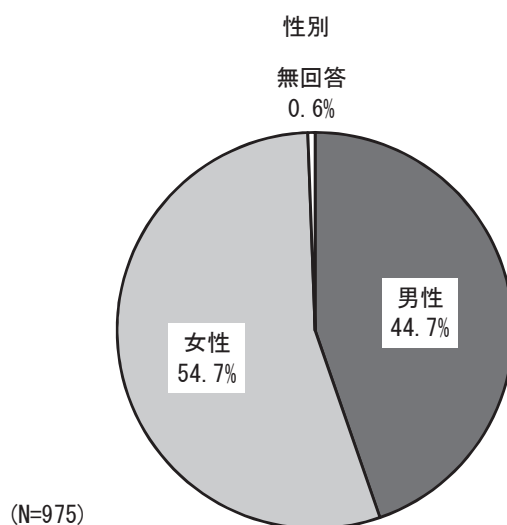
II. 調査の結果

1 基本的事項

〔1〕性別

問1 あなたの性別は。（下記から選んで○をつけてください）

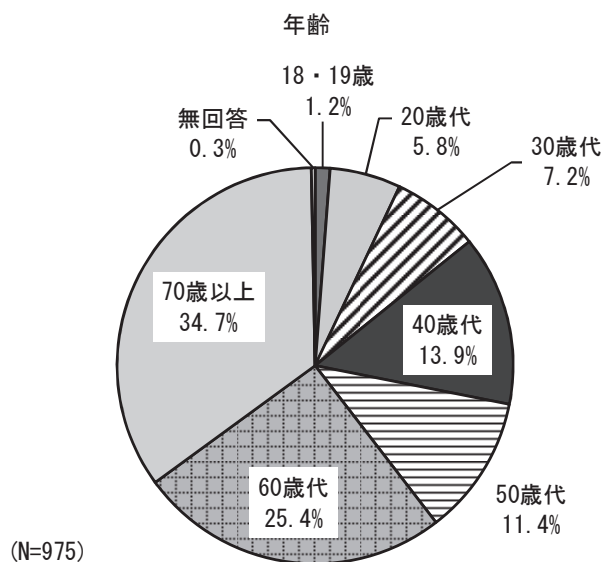
回答者の性別は、「男性」が44.7%、「女性」が54.7%となっています。



〔2〕年齢

問2 あなたの年齢は。（下記から選んで○をつけてください）

回答者の年齢は、「70歳以上」が34.7%で最も多く、次いで、「60歳代」が25.4%、「40歳代」が13.9%、「50歳代」が11.4%となっています。

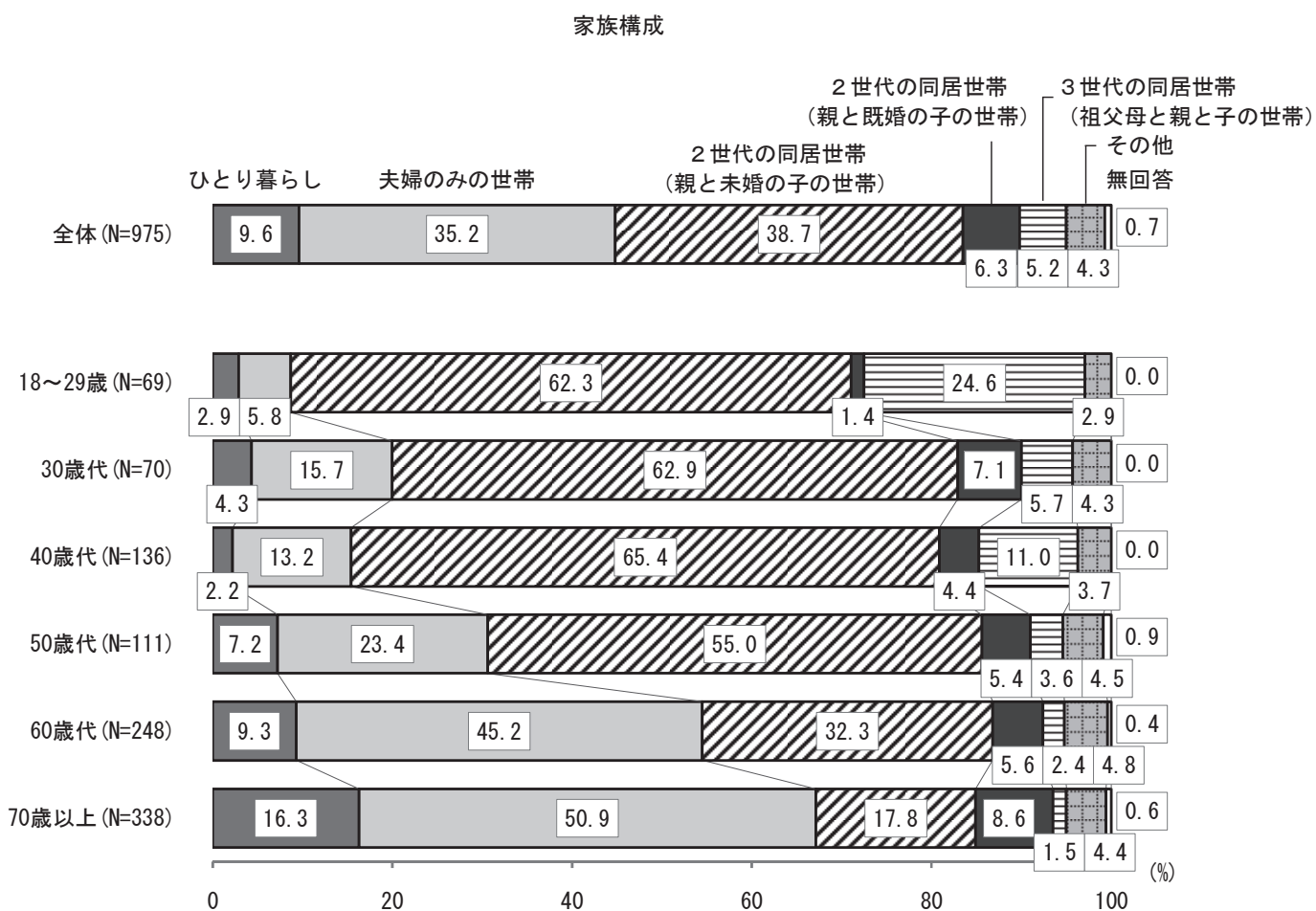


〔3〕 家族構成

問3 あなたの家族構成は。(下記から選んで○をつけてください)

回答者の家族構成は、全体では「2世代の同居世帯(親と未婚の子の世帯)」が38.7%と最も多く、次いで、「夫婦のみの世帯」が35.2%となっています。

年齢別にみると、50歳代以下では「2世代の同居世帯(親と未婚の子の世帯)」が5割以上となっています。また、60歳代以上で「夫婦のみの世帯」が全体に比べて特に多く、70歳以上では5割以上となっています。一方、18~29歳で「3世代の同居世帯(祖父母と親と子の世帯)」が全体に比べて特に多くなっています。

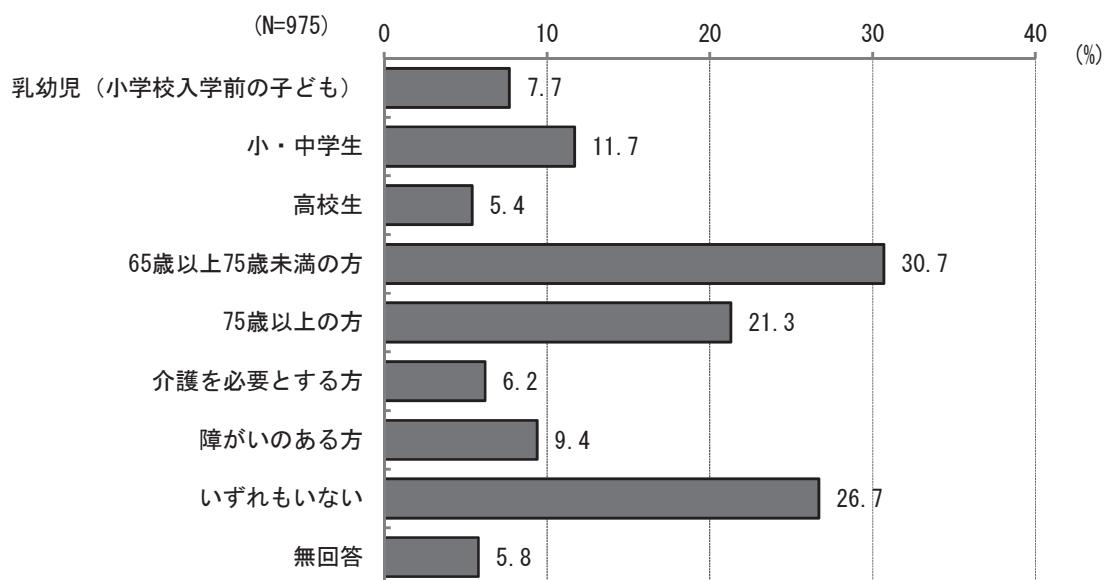


〔4〕子ども、高齢者、介護・介助の必要な家族の有無

問4 あなたが現在一緒に住んでいるご家族の中に、次のような方（あなた自身も含まず）はおられますか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

回答者の同居する家族の中に、子どもや高齢者、介護・介助の必要な方がいるかについては、「65歳以上75歳未満の方」が30.7%と最も多く、次いで、「75歳以上の方」が21.3%、「小・中学生」が11.7%となっています。また、「乳幼児（小学校入学前の子ども）」は7.7%、「介護を必要とする方」は6.2%、「障がいのある方」は9.4%となっています。一方、「いずれもない」は26.7%となっています。

子ども、高齢者、介護・介助の必要な家族の有無

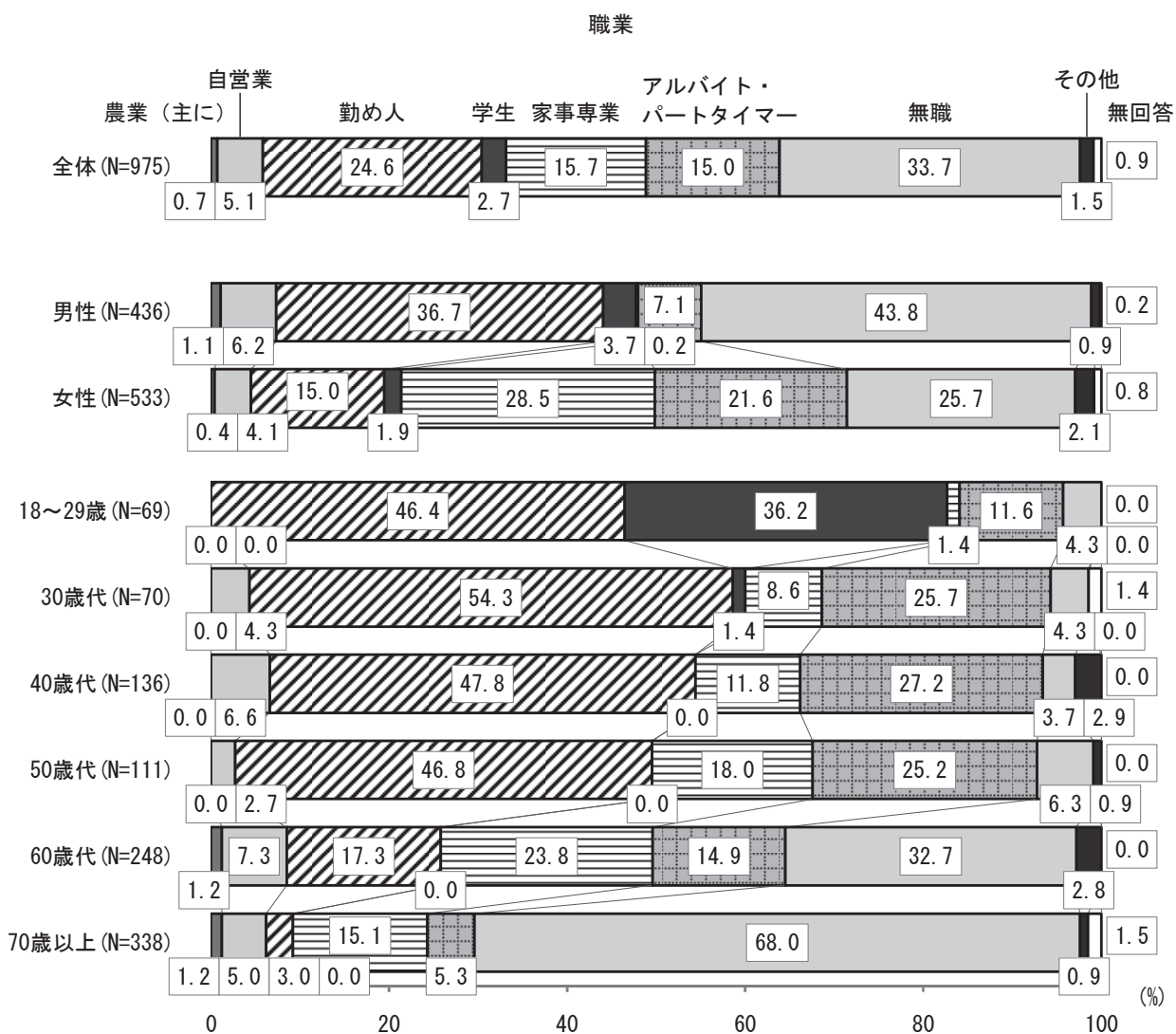


〔5〕 職業

問5 あなたの職業は。（下記から選んで○をつけてください）

回答者の職業は、全体では「勤め人」が24.6%と最も多く、次いで、「家事専業」が15.7%、「アルバイト・パートタイマー」が15.0%となっています。一方、「無職」は33.7%となっています。

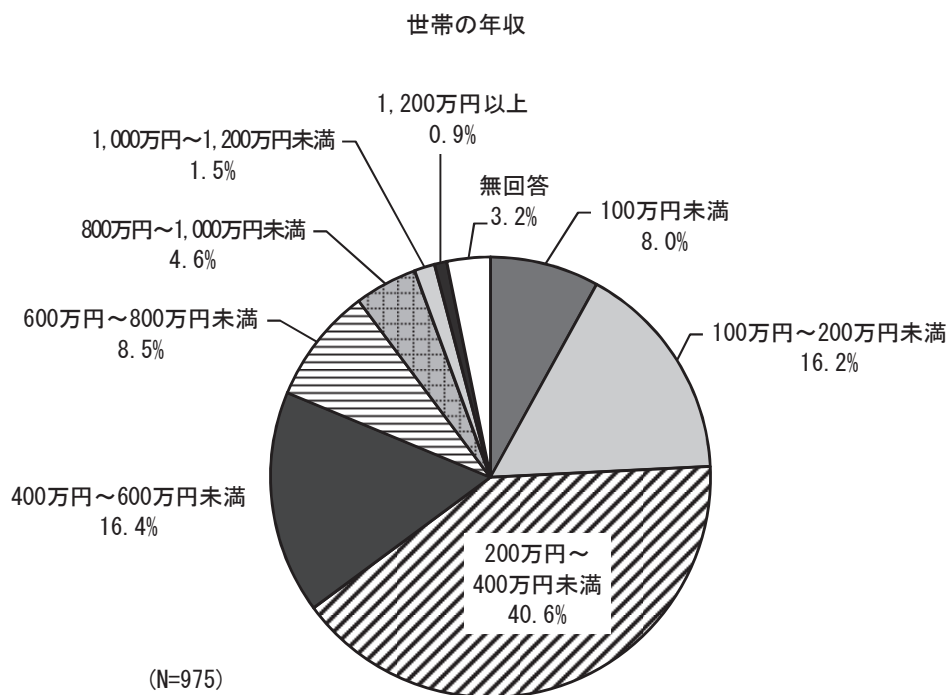
年齢別にみると、60歳代でも、「自営業」、「勤め人」と「アルバイト・パートタイマー」の合計が39.5%となっており、約4割の方が就労しています。



〔6〕世帯の年収

問6 あなたの世帯の過去1年間のおよその年収は。(下記から選んで○をつけてください)

回答者世帯の過去1年間のおよその年収は、「200万円～400万円未満」が40.6%と最も多く、次いで、「400万円～600万円未満」が16.4%、「100万円～200万円未満」が16.2%となっています。



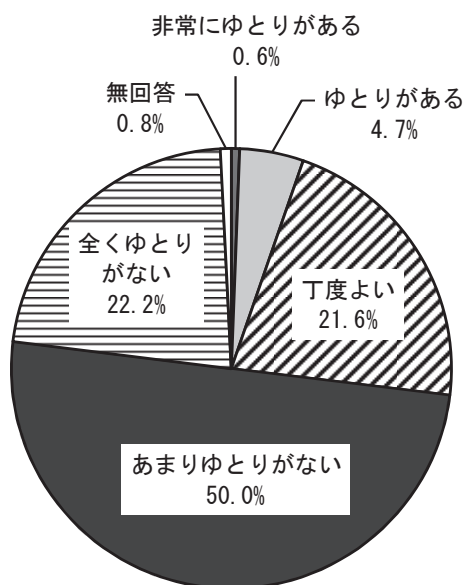
〔7〕世帯の年収の生活費に対する実感

問6-1 問6で回答いただいた収入は、現在の生活費に対してどのように考えていますか。
(下記から選んで○をつけてください)

回答者世帯の世帯年収が現在の生活費に対してどのように実感されているかについては、「あまりゆとりがない」が50.0%と最も多く、次いで、「全くゆとりがない」が22.2%、「丁度よい」が21.6%となっています。

「全くゆとりがない」と「あまりゆとりがない」を合わせた72.2%が『ゆとりがない』と考えています。

世帯の年収の生活費に対する実感

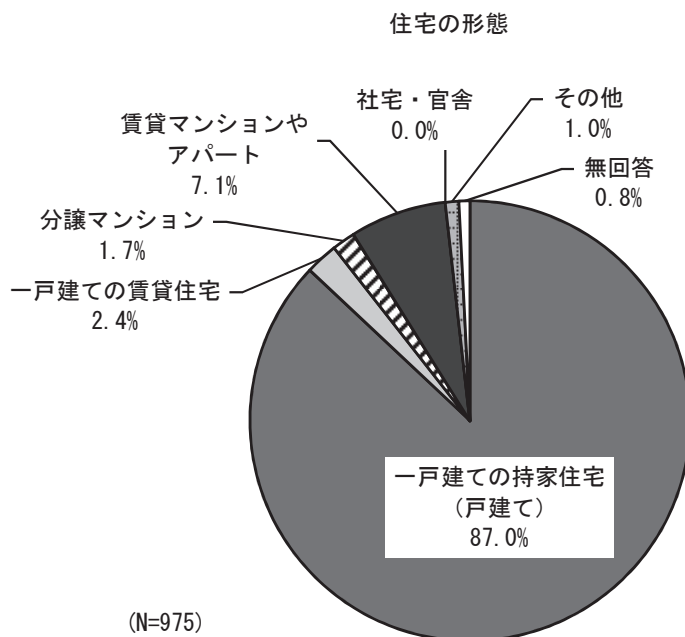


(N=944)

〔8〕住宅の形態

問7 あなたの住宅は。（下記から選んで○をつけてください）

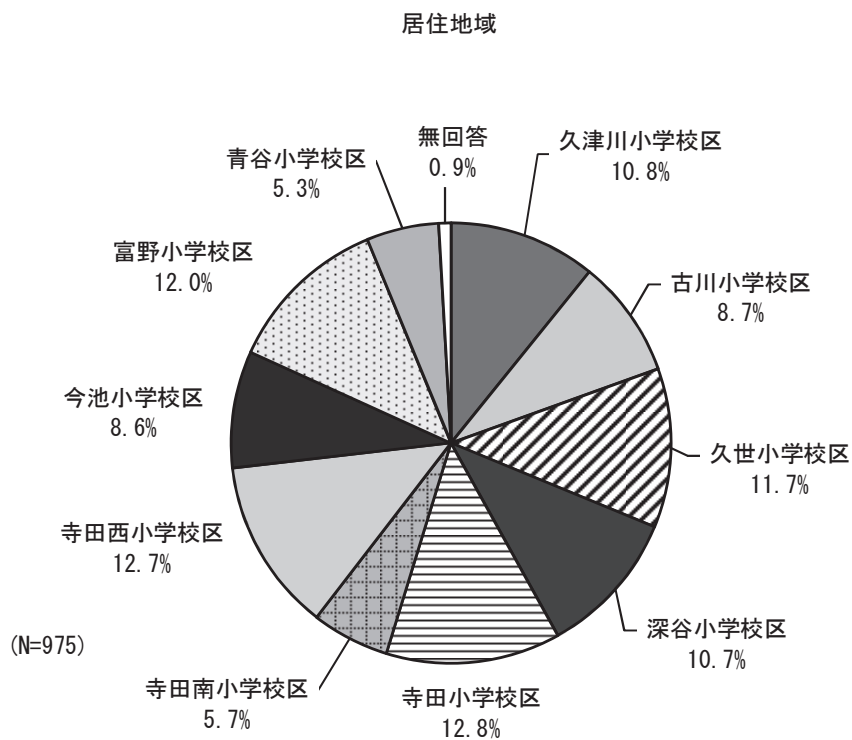
住宅の形態は、全体では「一戸建ての持家住宅（戸建て）」が87.0%と最も多く、次いで、「賃貸マンションやアパート」が7.1%となっています。



〔9〕 居住地域

問8 あなたのお住まいの小学校区は。（下記から選んで○をつけてください）

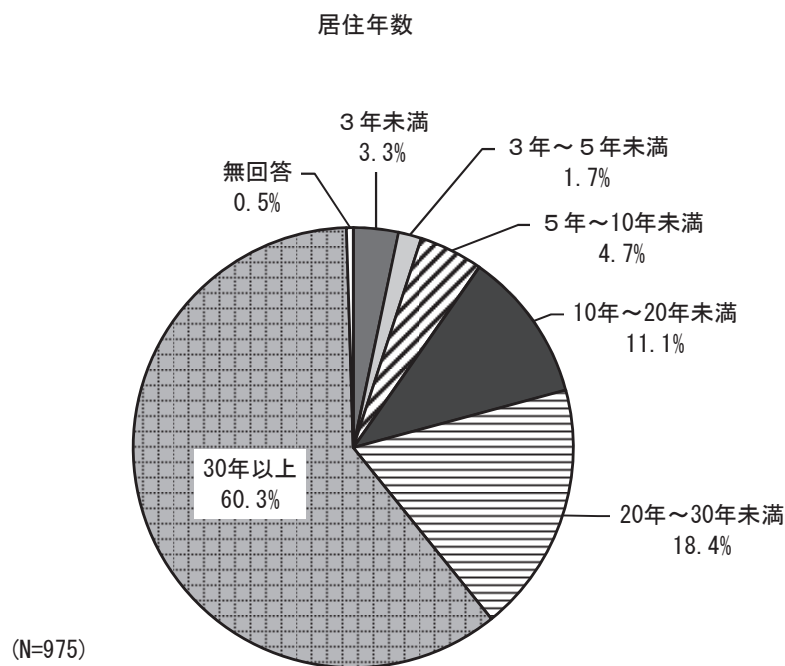
居住する小学校区は、「寺田小学校区」が12.8%で最も多く、次いで、「寺田西小学校区」が12.7%、「富野小学校区」が12.0%、「久世小学校区」が11.7%となっています。



〔10〕 居住年数

問9 あなたは城陽市にどれくらいの間、お住まいですか。（下記から選んで○をつけてください）

居住年数は、「30年以上」が60.3%と最も多く、次いで、「20年～30年未満」が18.4%、「10年～20年未満」が11.1%となっています。



2 地域とのかかわりについて

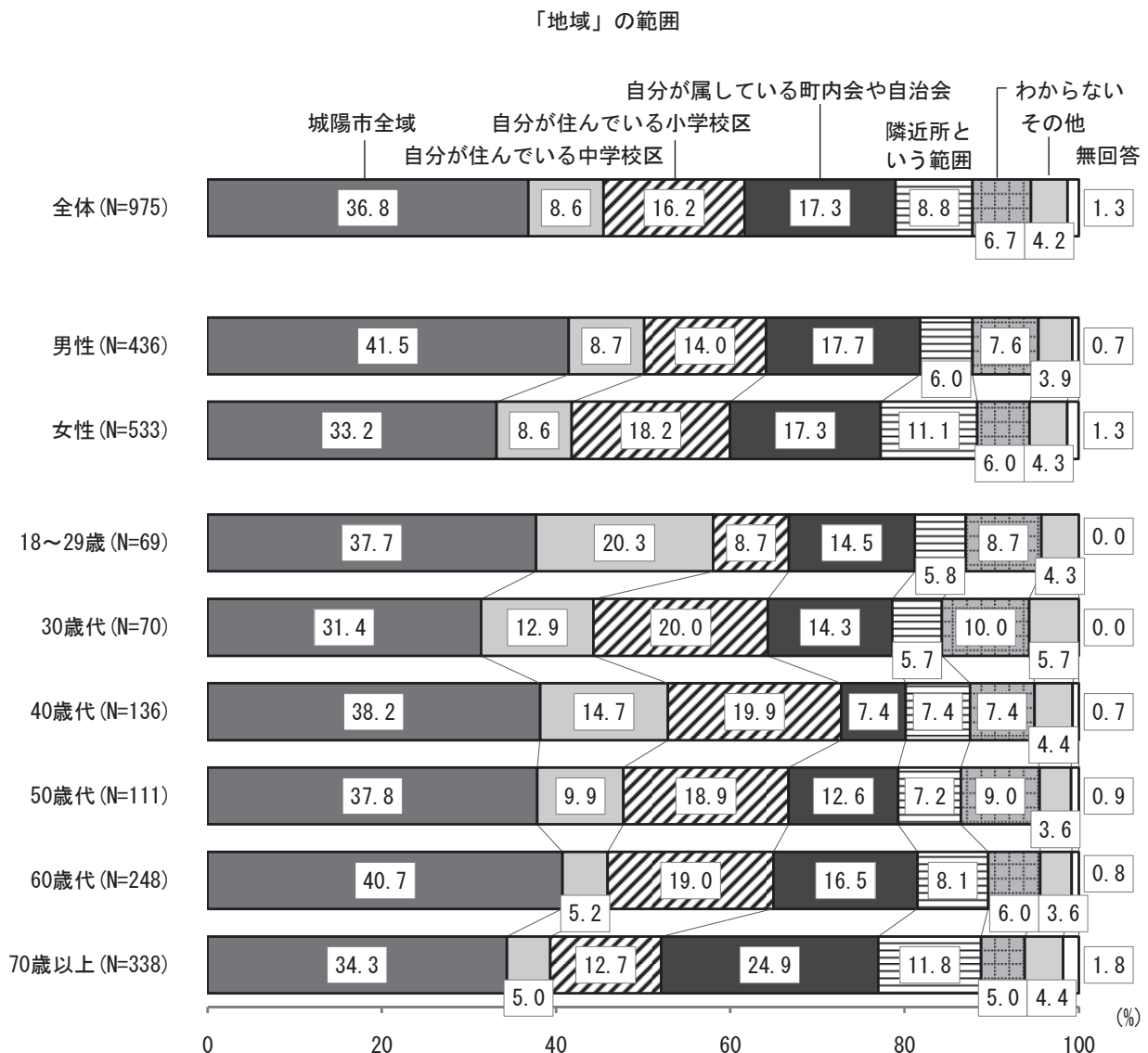
〔1〕「地域」の範囲

問10 あなたにとって「生活上の地域」とは、どの範囲のことをいいますか。当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

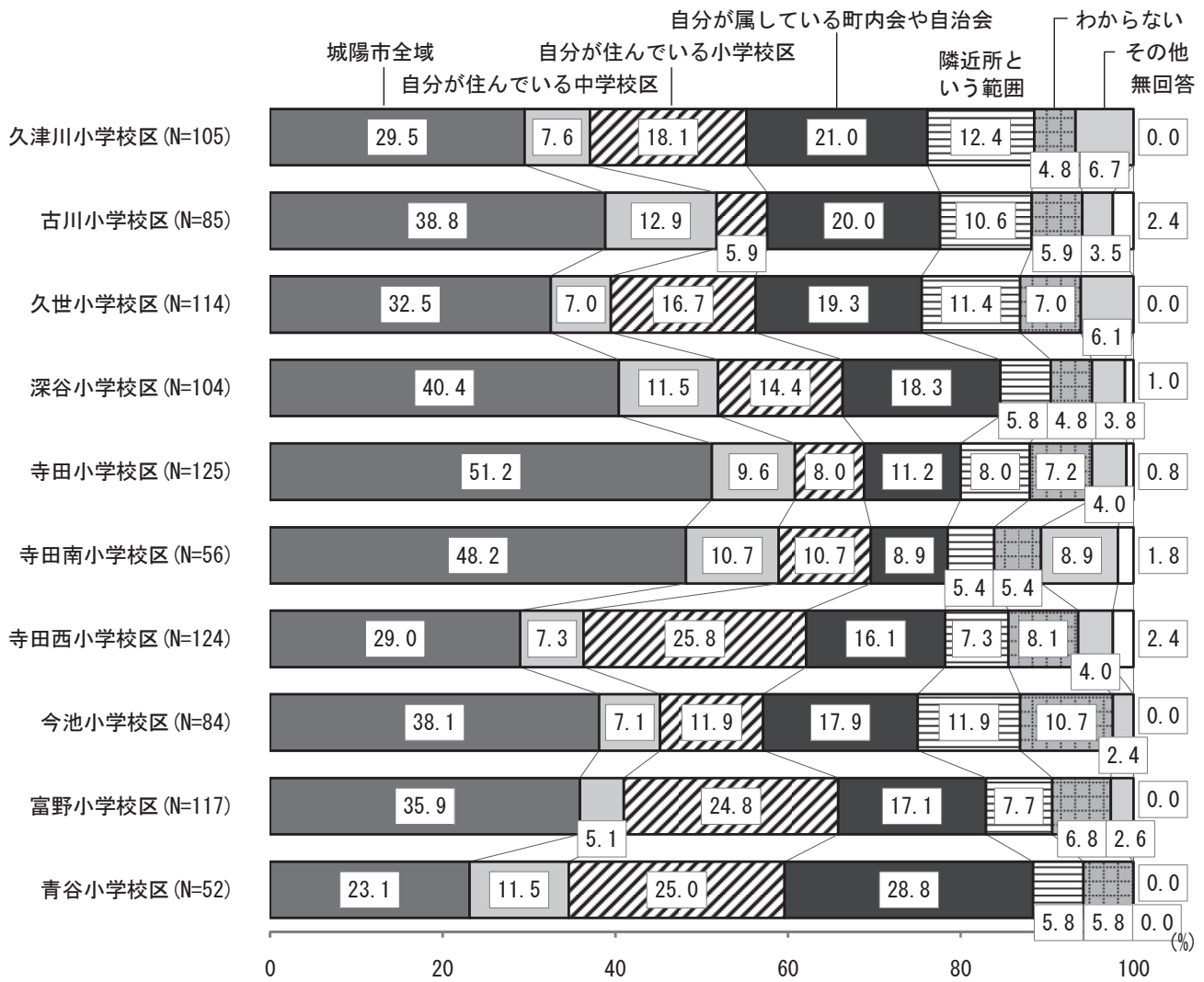
「生活上の地域」の範囲については、全体では「城陽市全域」が36.8%と最も多く、次いで、「自分が属している町内会や自治会」が17.3%、「自分が住んでいる小学校区」が16.2%となっています。

年齢別にみると、18～29歳で「自分が住んでいる中学校区」が全体に比べて特に多くなっています。

居住地域別にみると、寺田小学校区と寺田南小学校区では、「城陽市全域」が全体に比べて特に多くなっており、寺田小学校区では5割以上となっています。また、青谷小学校区では、「自分が属している町内会や自治会」が全体に比べて特に多くなっています。



「地域」の範囲（居住地域別）



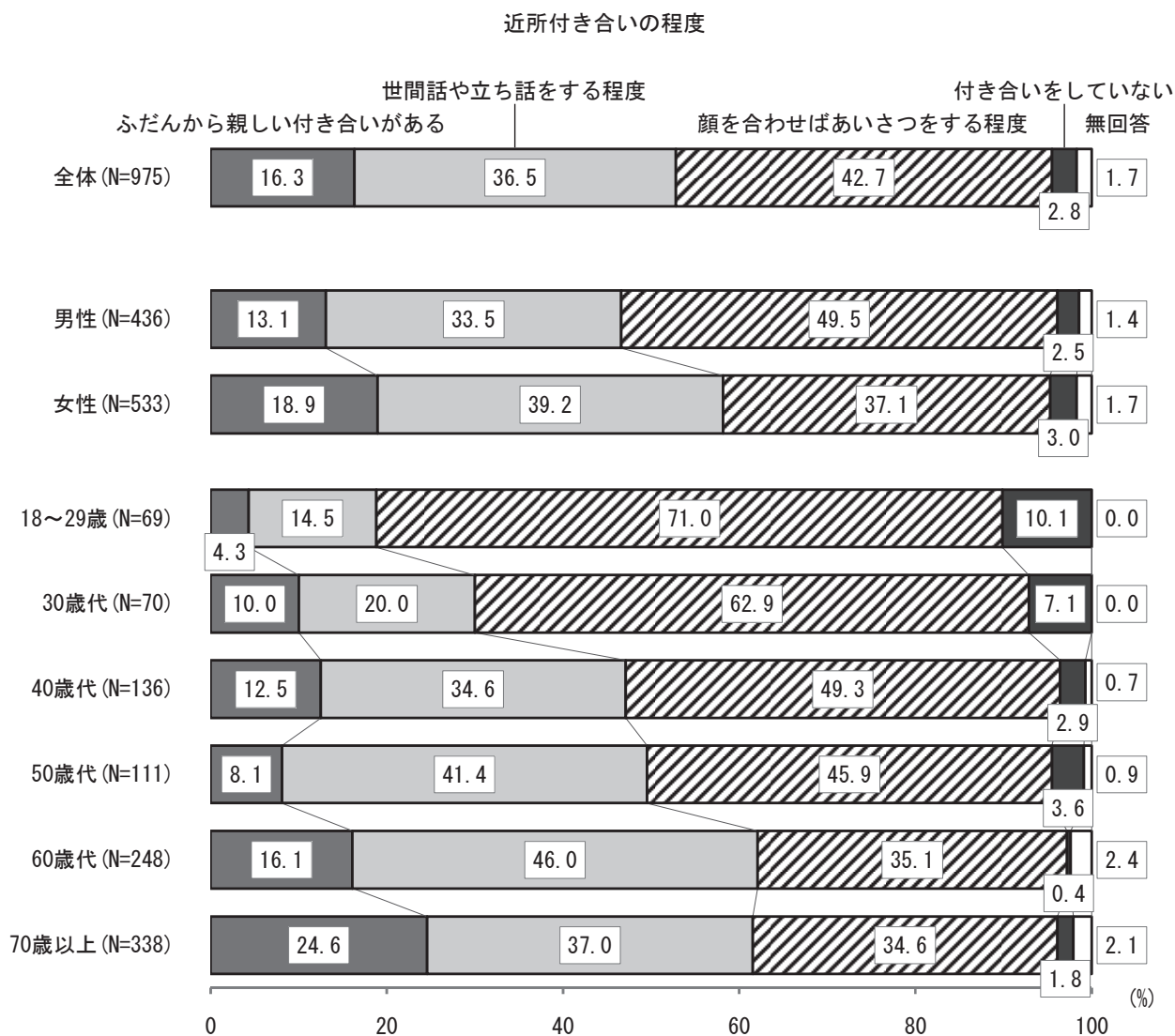
〔2〕近所付き合いの程度

問11 隣近所との付き合いをどの程度していますか。当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

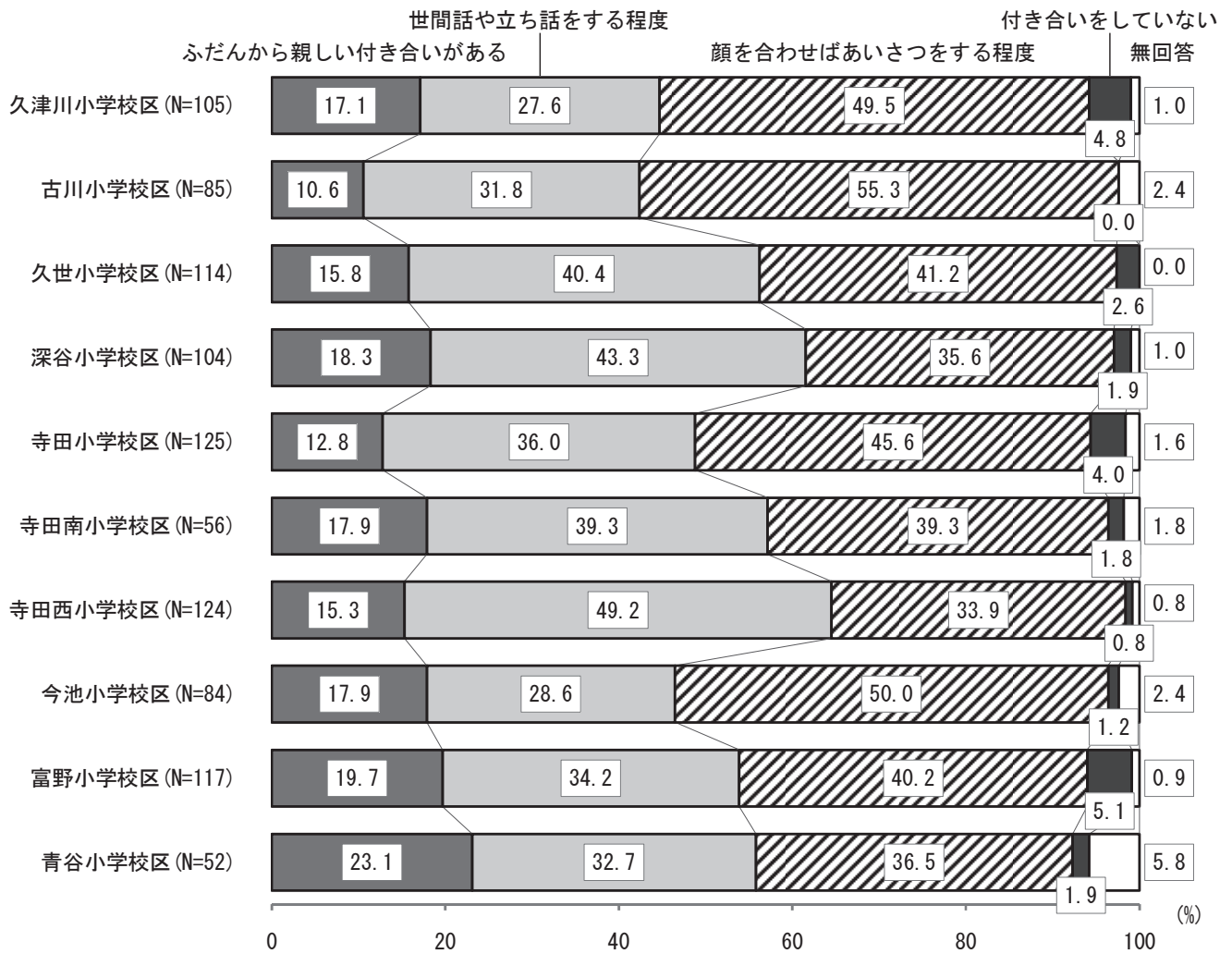
隣近所との付き合いの程度については、全体では、「顔を合わせばあいさつをする程度」が42.7%と最も多く、次いで「世間話や立ち話をする程度」が36.5%、「ふだんから親しい付き合いがある」が16.3%となっています。一方、「付き合いをしていない」は2.8%となっています。

年齢別にみると、若い年齢層ほど「顔を合わせばあいさつをする程度」が多くなっています。30歳代以下では「顔を合わせばあいさつをする程度」が全体に比べて特に多く、6割以上となっています。

居住地域別にみると、古川小学校区と今池小学校区では「顔を合わせばあいさつをする程度」が5割以上となっており、古川小学校区では全体に比べて特に多くなっています。また、寺田西小学校区で「世間話や立ち話をする程度」が全体に比べて特に多くなっています。



近所付き合いの程度（居住地域別）

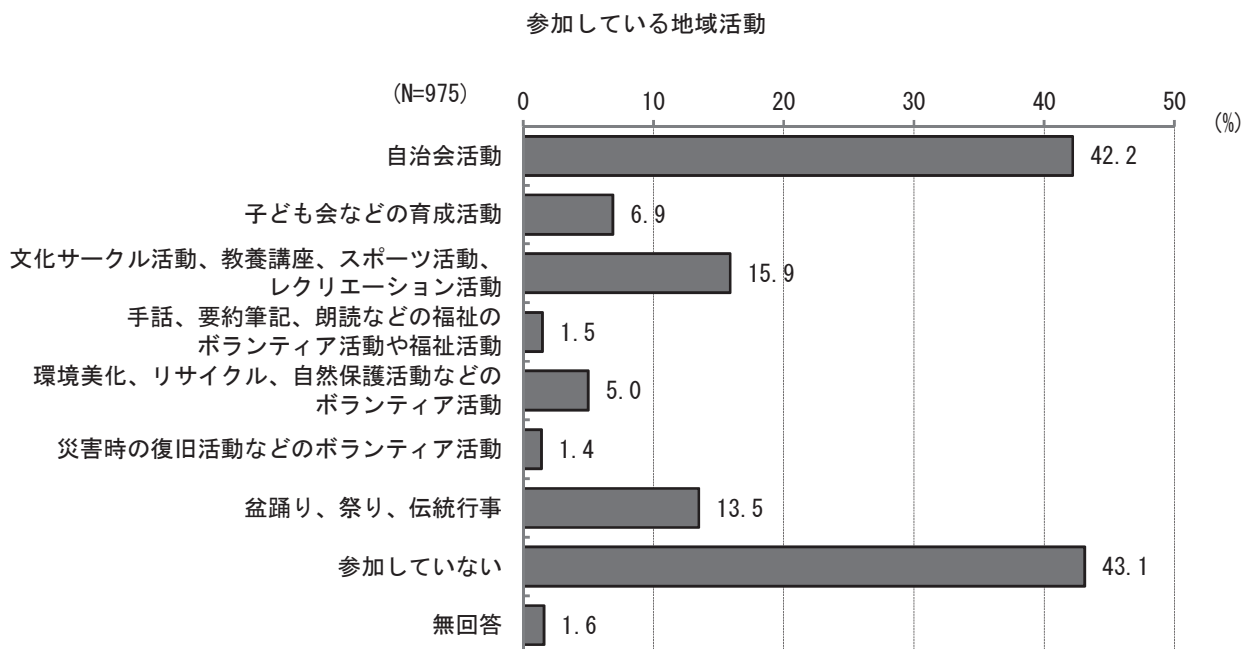


〔3〕 参加している地域活動

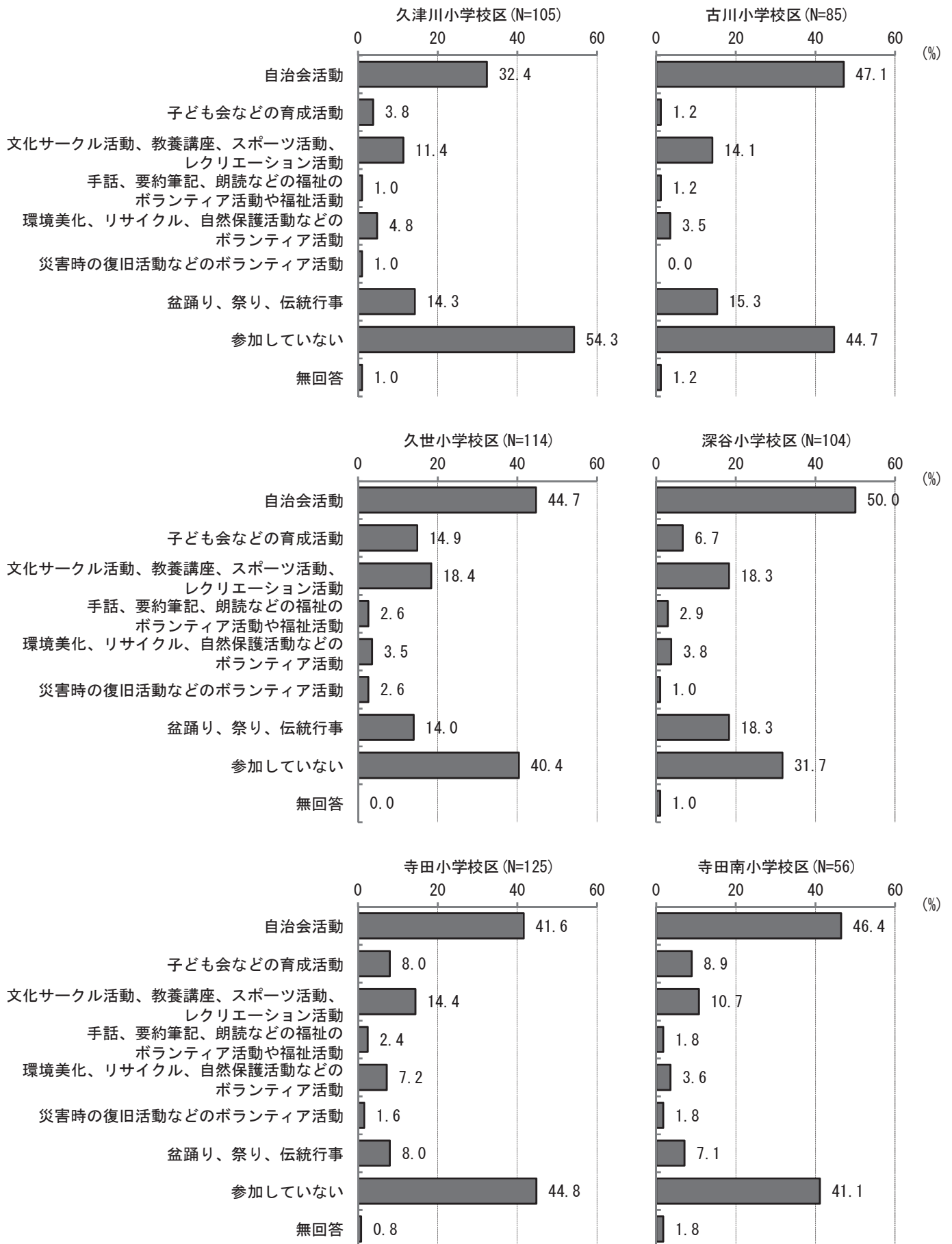
問12 あなたはふだん地域のどのような活動に参加していますか。次の中から参加しているものをいくつでも選んで○をつけてください。

ふだん地域のどのような活動に参加しているかについては、全体では、「自治会活動」が42.2%と最も多く、次いで、「文化サークル活動、教養講座、スポーツ活動、レクリエーション活動」が15.9%、「盆踊り、祭り、伝統行事」が13.5%となっています。一方、「参加していない」は43.1%となっています。

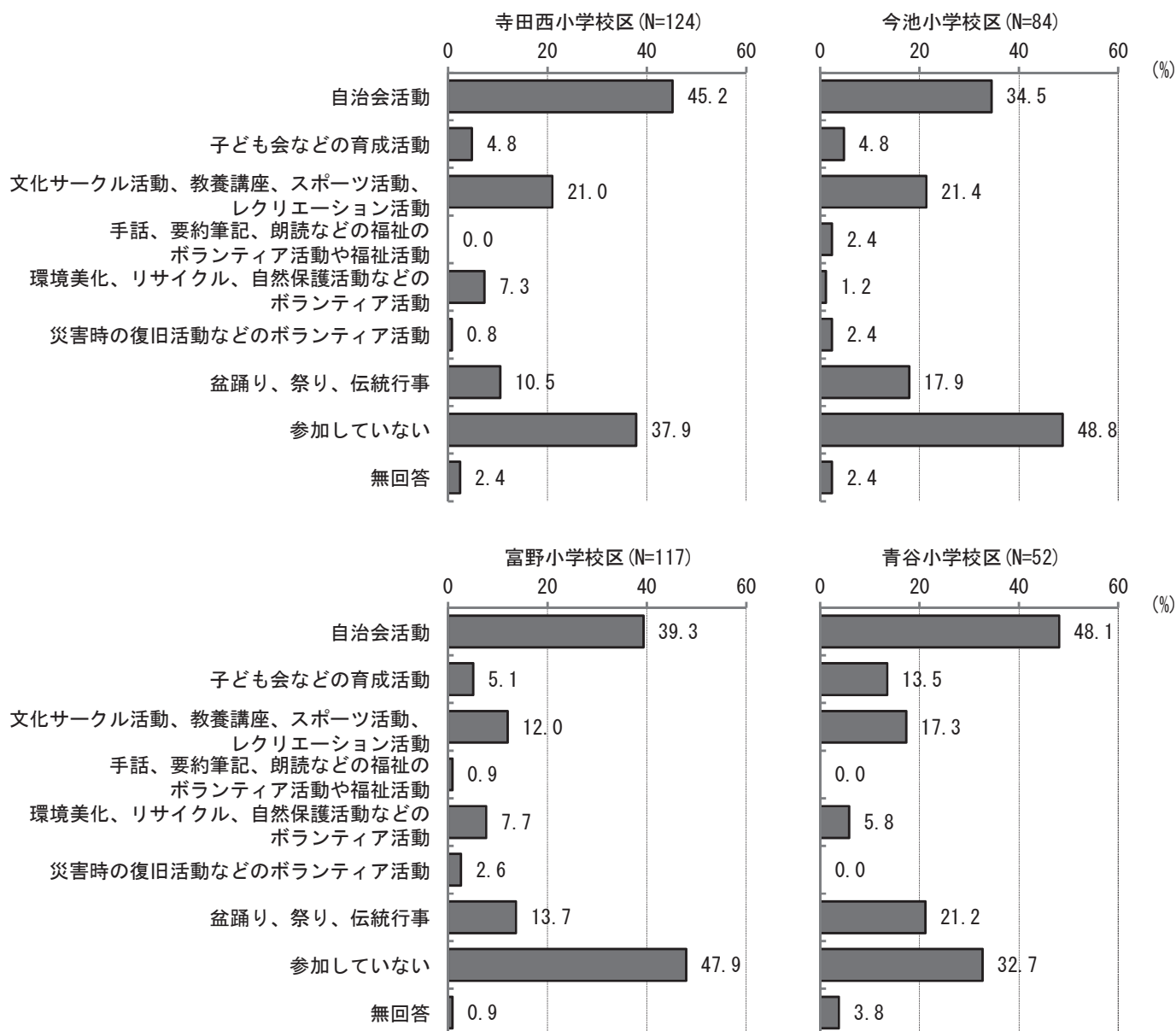
居住地域別にみると、深谷小学校区で「自治会活動」が5割以上となっています。また、久津川小学校区で「参加していない」が全体に比べて特に多く、5割以上となっています。



参加している地域活動（居住地域別）



II-2 地域とのかかわりについて

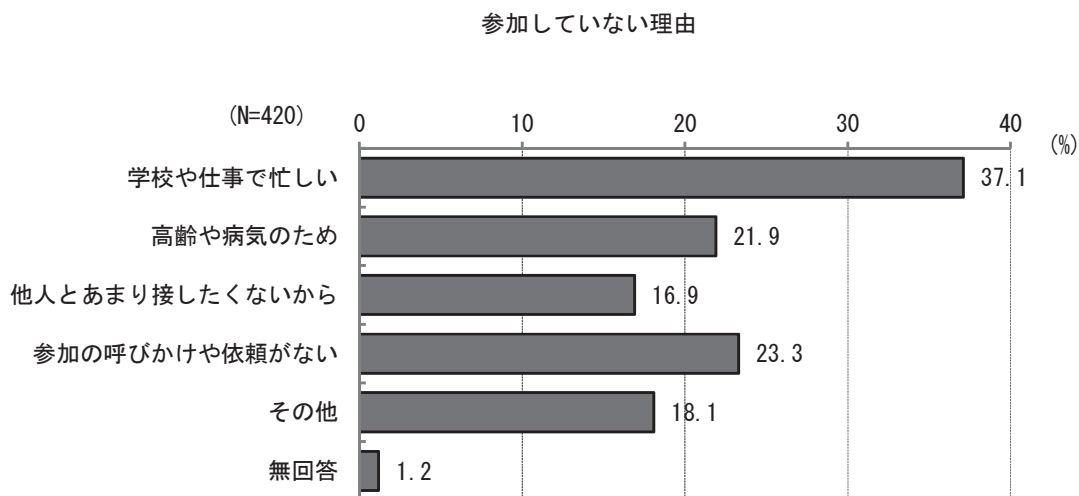


〔4〕参加していない理由

問13 問12で「参加していない」を選んだ方におたずねします。

それはなぜですか。当てはまる理由をいくつでも選んで○をつけてください。

参加していない理由については、「学校や仕事で忙しい」が37.1%と最も多く、次いで、「参加の呼びかけや依頼がない」が23.3%、「高齢や病気のため」が21.9%、「他人とあまり接したくないから」が16.9%となっています。



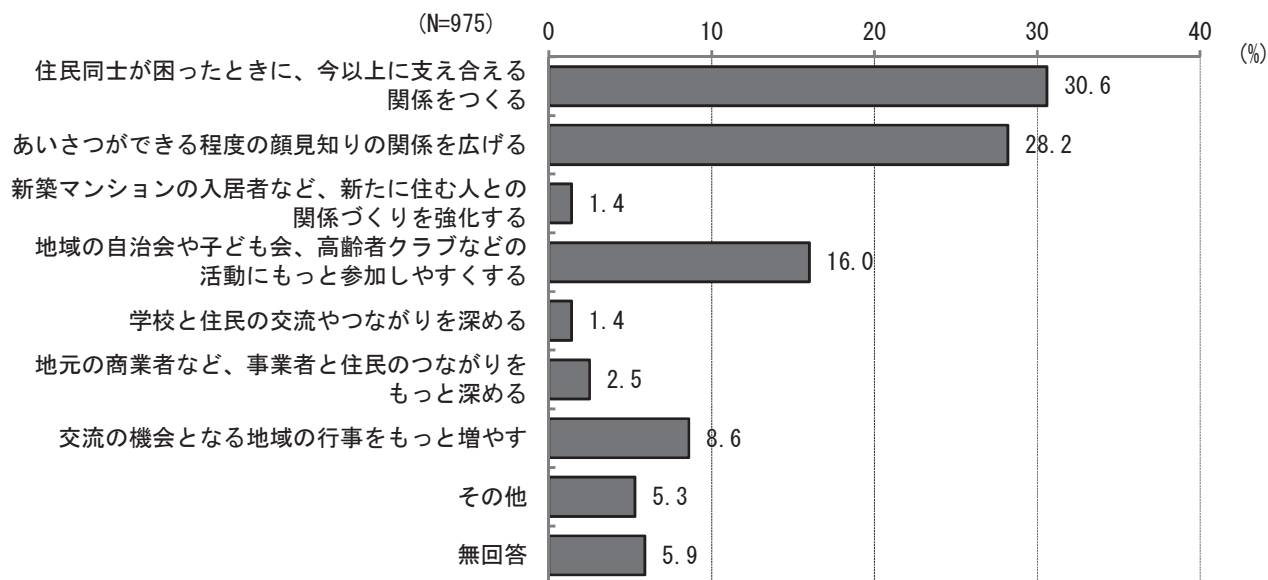
〔5〕地域の行事や活動の活発化に必要なこと

問14 あなたは、お住まいの地域の行事や活動をもっと活発にしていくためにはどのようなことが必要だと思いますか。最も必要だと思うことを1つ選んで○をつけてください。

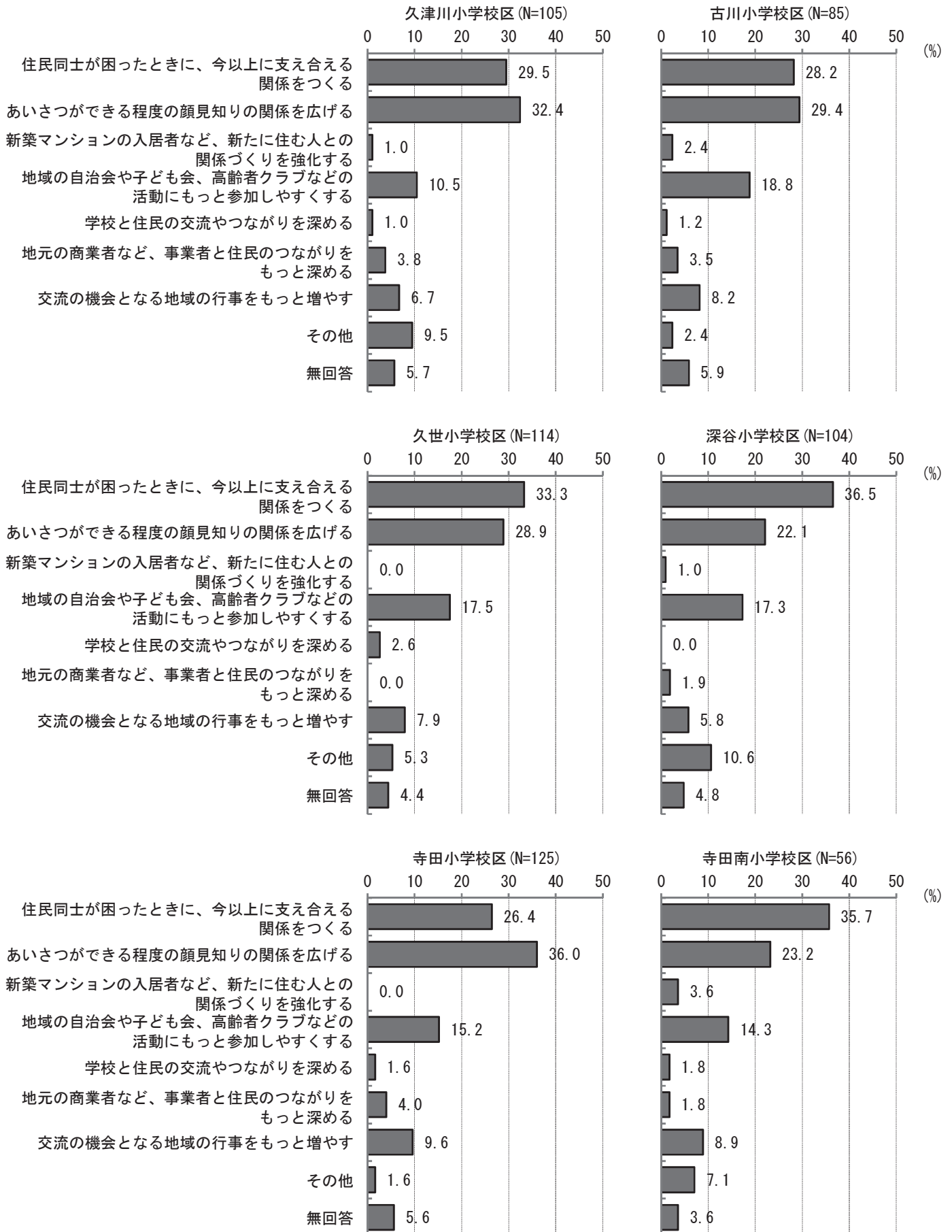
地域の行事や活動をもっと活発にしていくためにはどのようなことが必要だと思うかについては、「住民同士が困ったときに、今以上に支え合える関係をつくる」が30.6%と最も多く、次いで、「あいさつができる程度の顔見知りの関係を広げる」が28.2%、「地域の自治会や子ども会、高齢者クラブなどの活動にもっと参加しやすくする」が16.0%となっています。

居住地域別にみると、地域によって傾向が異なります。

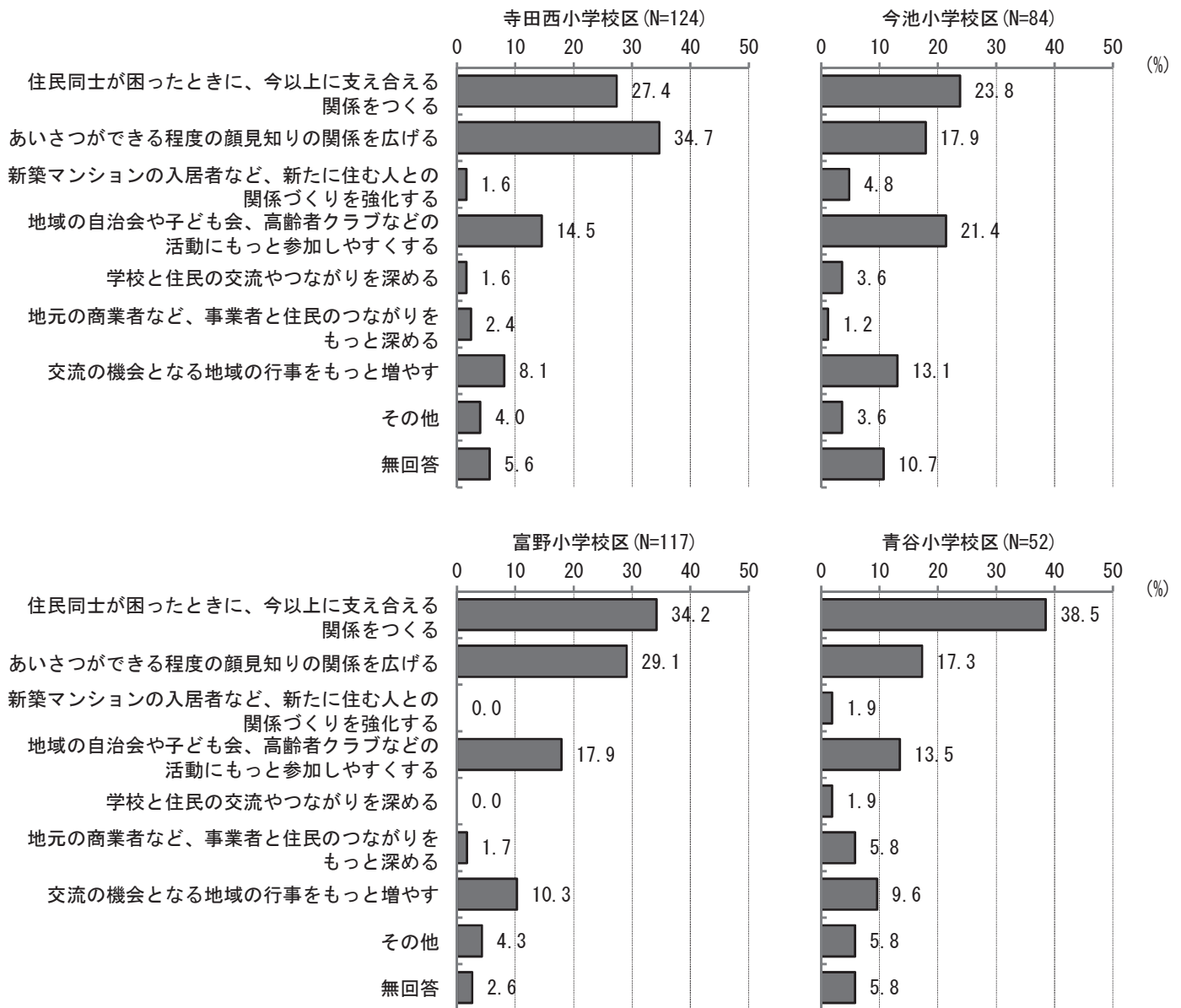
地域の行事や活動の活発化に必要なこと



地域の行事や活動の活発化に必要なこと（居住地域別）



II-2 地域とのかかわりについて



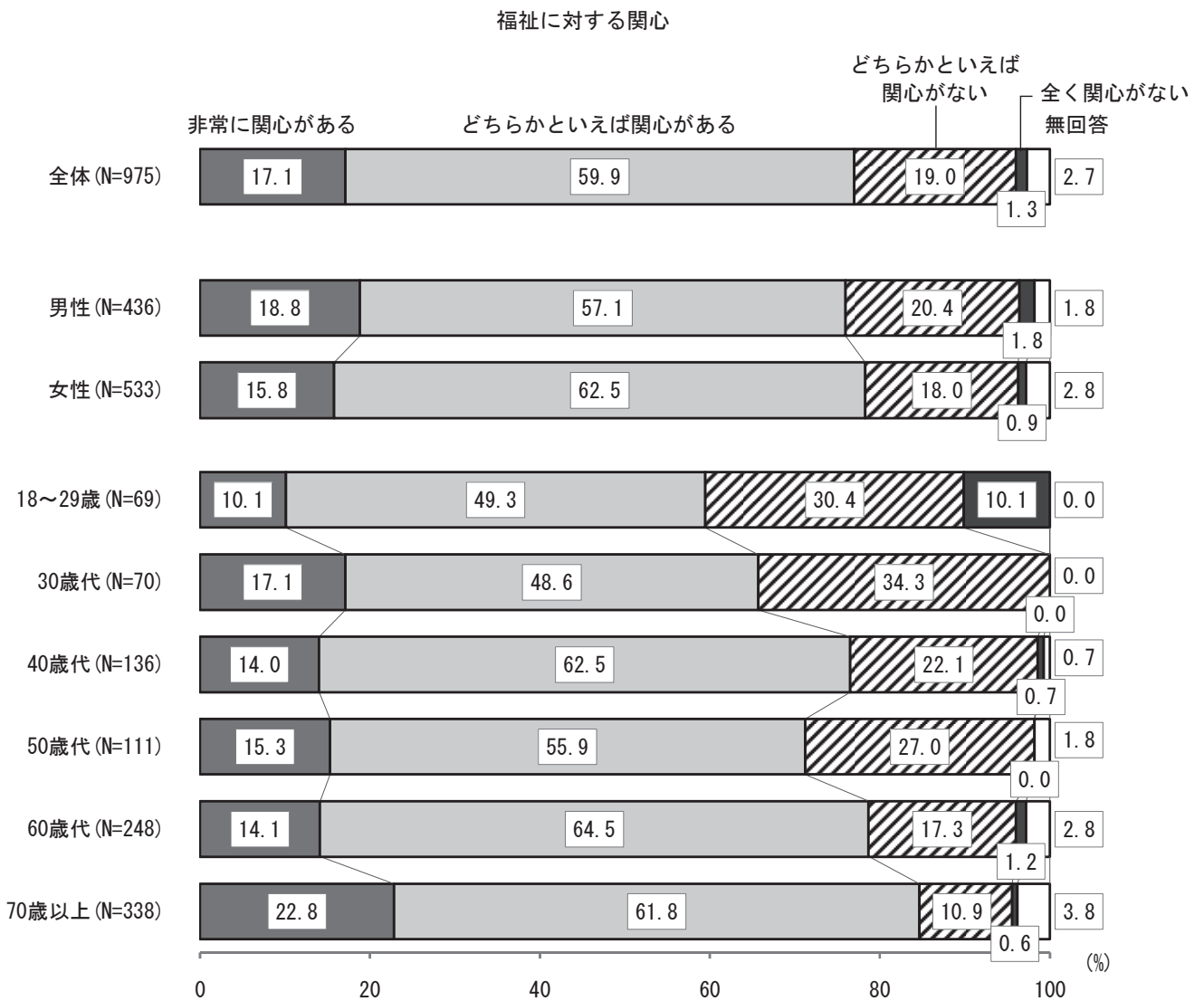
3 地域の福祉について

〔1〕福祉に対する関心

問 15 あなたは、福祉に対して関心がありますか。当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

福祉に対して関心があるかについては、全体では、「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある』が77.0%となっています。一方、「どちらかといえば関心がない」と「全く関心がない」を合わせた『関心がない』は20.3%となっています。

年齢別にみると、高い年齢層ほど『関心がある』が多い傾向にあります。

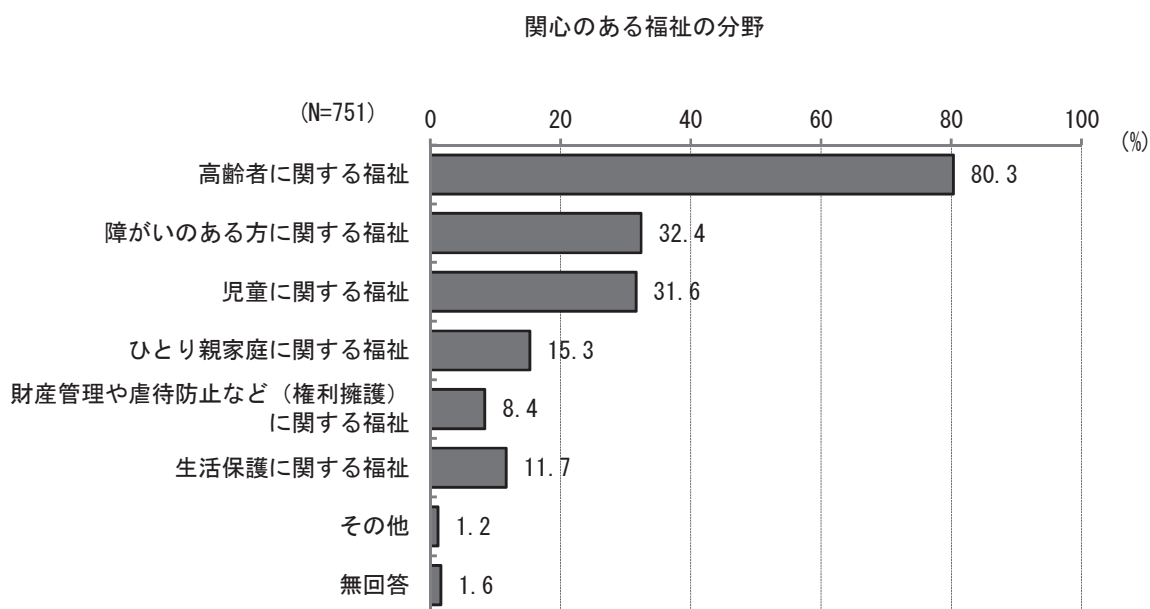


〔2〕 関心のある福祉の分野

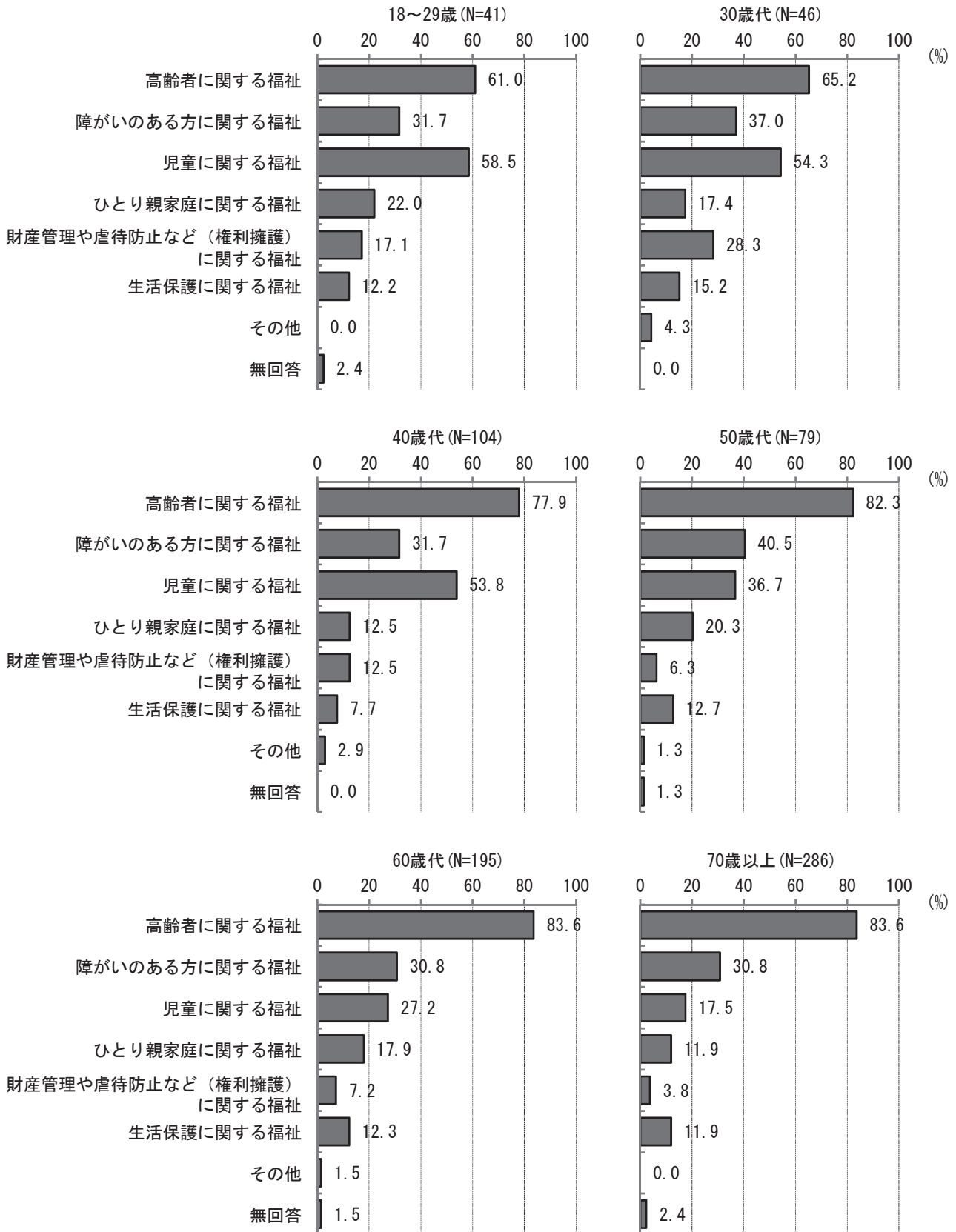
問 16 問 15で「非常に関心がある」、「どちらかといえば関心がある」を選んだ方におたずねします。あなたの関心がある福祉は、どのような分野ですか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

関心のある福祉の分野については、「高齢者に関する福祉」が80.3%と最も多く、次いで、「障がいのある方に関する福祉」が32.4%、「児童に関する福祉」が31.6%、「ひとり親家庭に関する福祉」が15.3%となっています。

年齢別にみると、若い年齢層ほど「児童に関する福祉」が多い傾向にあり、40歳代以下では全体に比べて特に多く、5割以上の方が関心をもっています。また、30歳代で「財産管理や虐待防止など（権利擁護）に関する福祉」が全体に比べて特に多くなっています。



関心のある福祉の分野（年齢別）



〔3〕地域の福祉に関する意識

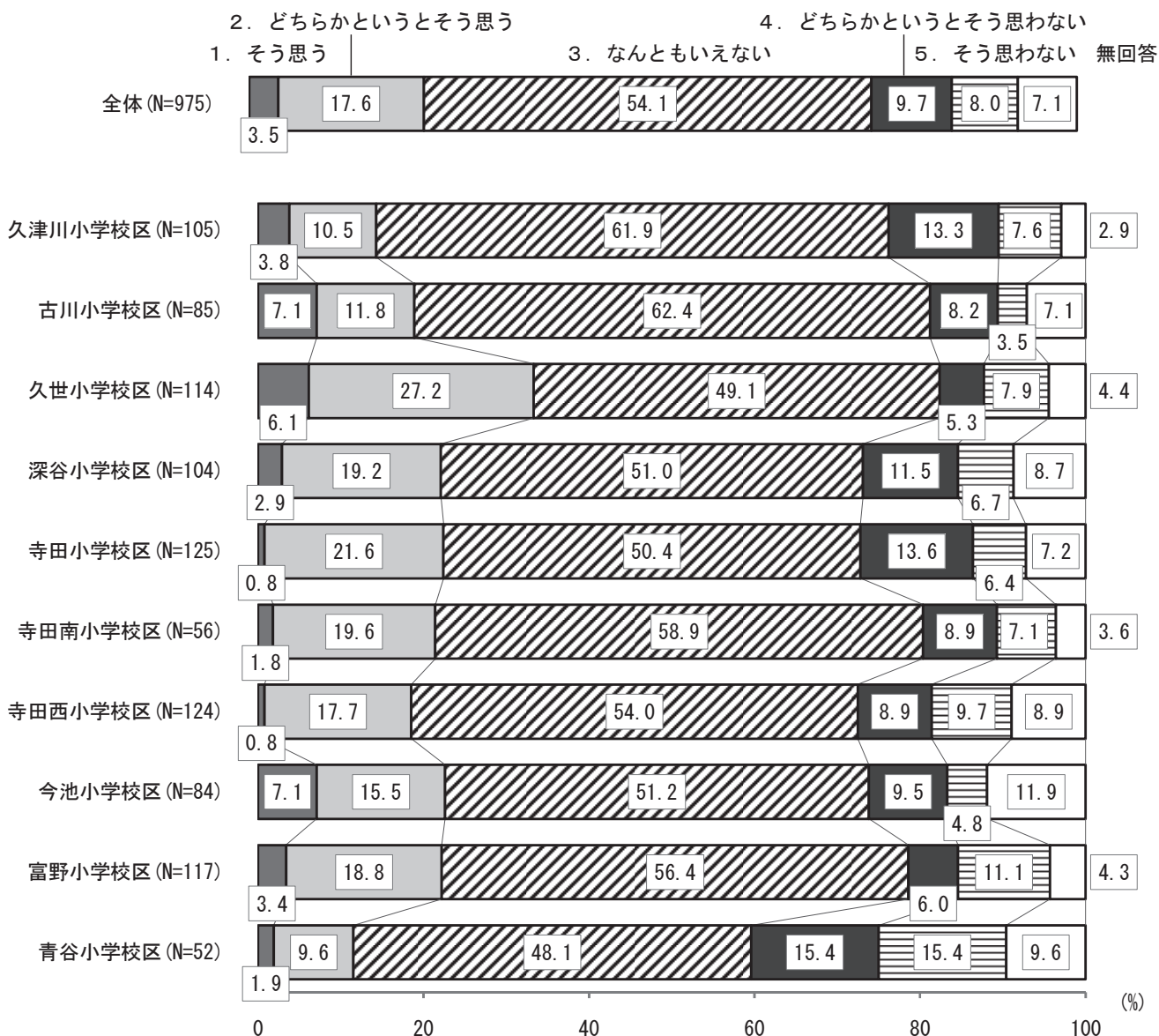
問17 あなたがお住まいの地域の福祉に関して、次のことについて、どのように思いますか。ア～エのことがらについて、「1.」～「5.」の中から1つだけ選んで、その番号に○をつけてください。

ア 地域の福祉サービスは充実している

全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた『思う』が21.1%、「どちらかというと思わない」と「そう思わない」を合わせた『思わない』が17.7%となっています。一方、「なんともいえない」は54.1%となっています。

居住地域別にみると、久世小学校区で『思う』が全体に比べて特になくなってしています。また、青谷小学校区で『思わない』が全体に比べて特になくなってしています。

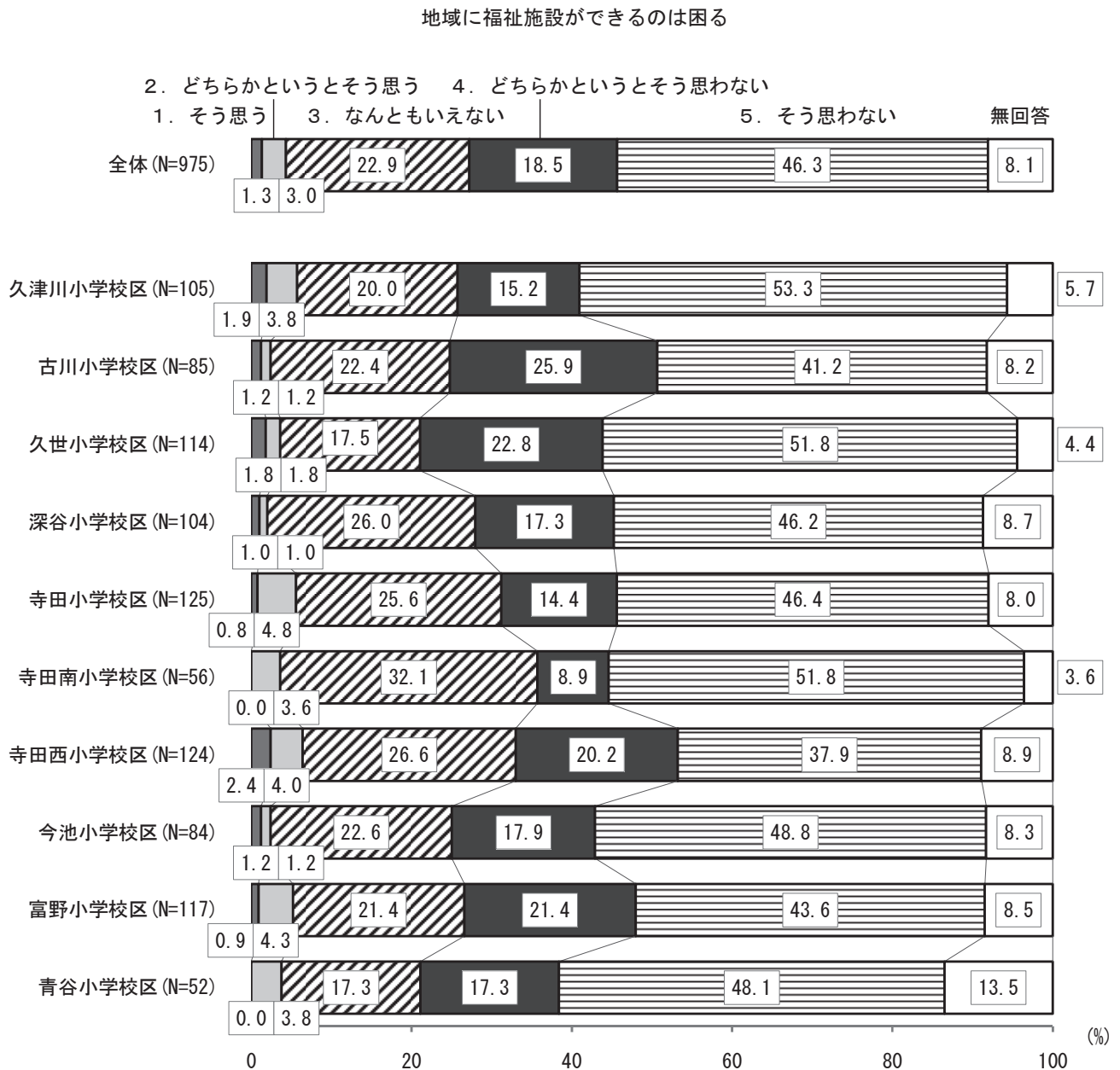
地域の福祉サービスは充実している



イ 地域に福祉施設ができるのは困る

全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた『思う』が4.3%、「どちらかというと思わない」と「そう思わない」を合わせた『思わない』が64.8%となっています。一方、「なんともいえない」は22.9%となっています。

居住地域別にみると、地域によって傾向が異なります。

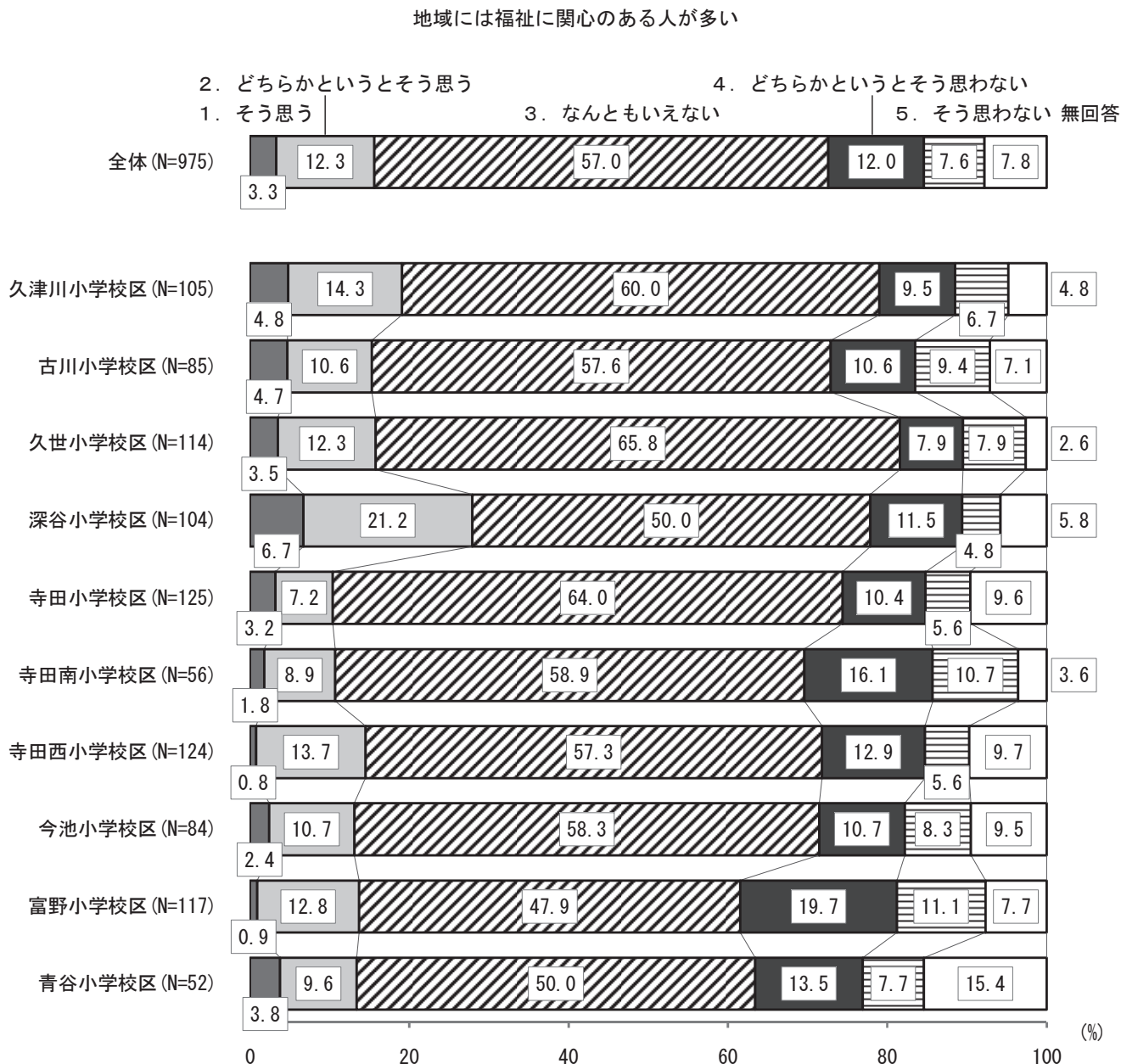


II-3 地域の福祉について

ウ 地域には福祉に関心のある人が多い

全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた『思う』が15.6%、「どちらかというと思わない」と「そう思わない」を合わせた『思わない』が19.6%となっています。一方、「なんともいえない」は57.0%となっています。

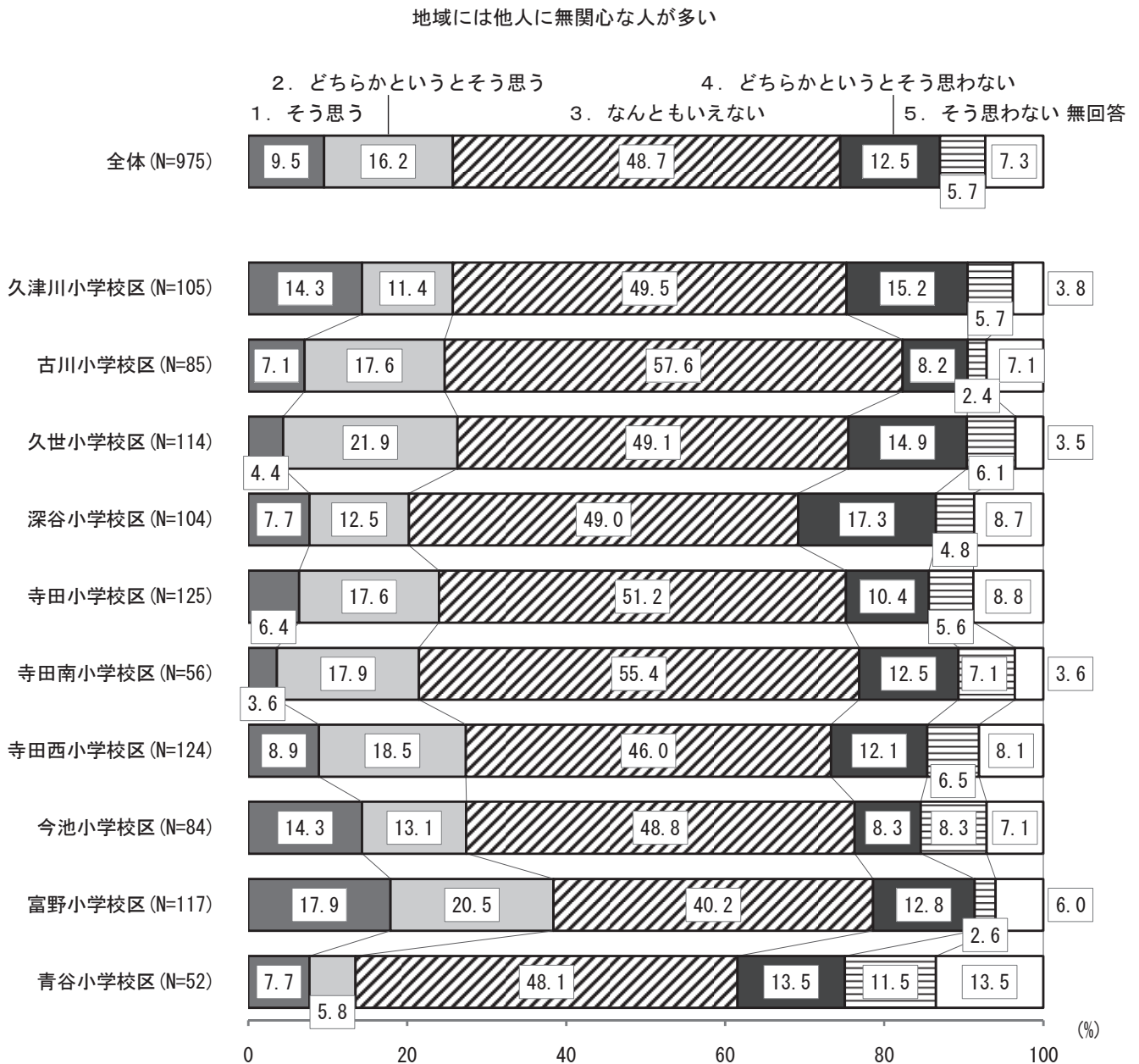
居住地域別にみると、深谷小学校区で『思う』が全体に比べて特になくなっていています。また、富野小学校区で『思わない』が全体に比べて特になくなっていています。



エ 地域には他人に無関心な人が多い

全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた『思う』が25.7%、「どちらかというと思わない」と「そう思わない」を合わせた『思わない』が18.2%となっています。一方、「なんともいえない」は48.7%となっています。

居住地域別にみると、富野小学校区で『思う』が全体に比べて特になくなっていて、



〔4〕各福祉活動主体の認知

問18 地域における福祉活動を推進するために、さまざまな主体が活動を行っています。あなたが住まいの地域で、どのような活動をしているかご存じですか。各項目についてお答えください。（当てはまるものをそれぞれ1つだけ選んで、その番号に○をつけてください。）

（各福祉活動主体の認知一覧）

（%）

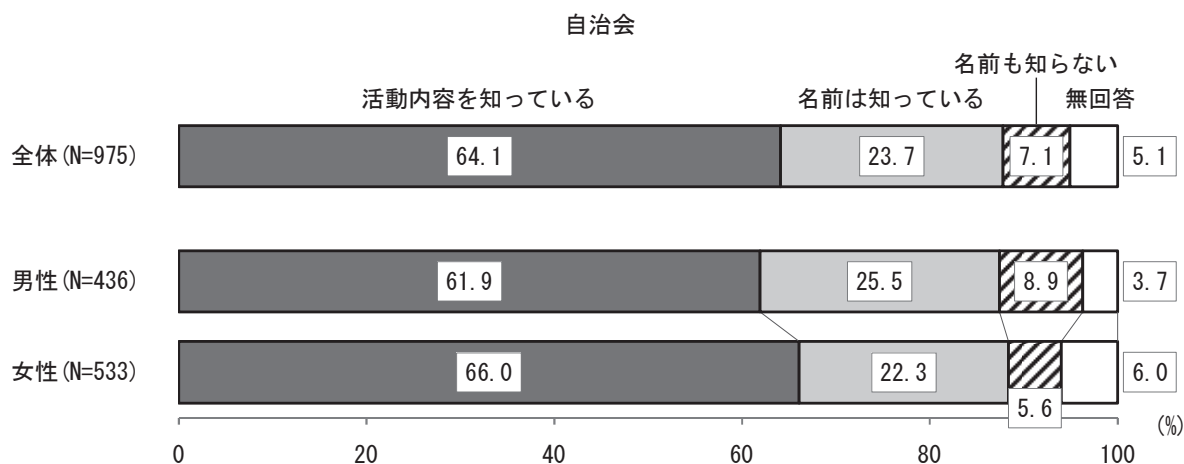
福祉活動主体	活動内容を知っている	名前は知っている	名前も知らない	無回答
1) 自治会	64.1	23.7	7.1	5.1
2) 校区社会福祉協議会	26.5	43.4	24.6	5.5
3) 民生委員・児童委員	32.1	47.5	14.6	5.8
4) 高齢者クラブ	20.2	46.4	27.2	6.3
5) シルバー人材センター	38.1	45.9	10.1	5.9
6) 社会福祉協議会	23.5	56.1	14.5	5.9
7) 地域包括支援センター	15.7	42.6	35.3	6.5
8) 在宅介護支援センター	17.4	53.2	23.0	6.4
9) 障がい者相談支援事業所	10.1	43.2	39.4	7.4
10) 食生活改善推進員協議会（ヘルスマイト城陽）	7.4	26.2	59.4	7.1
11) 地域子育て支援センター	17.7	52.9	22.8	6.6

1) 自治会

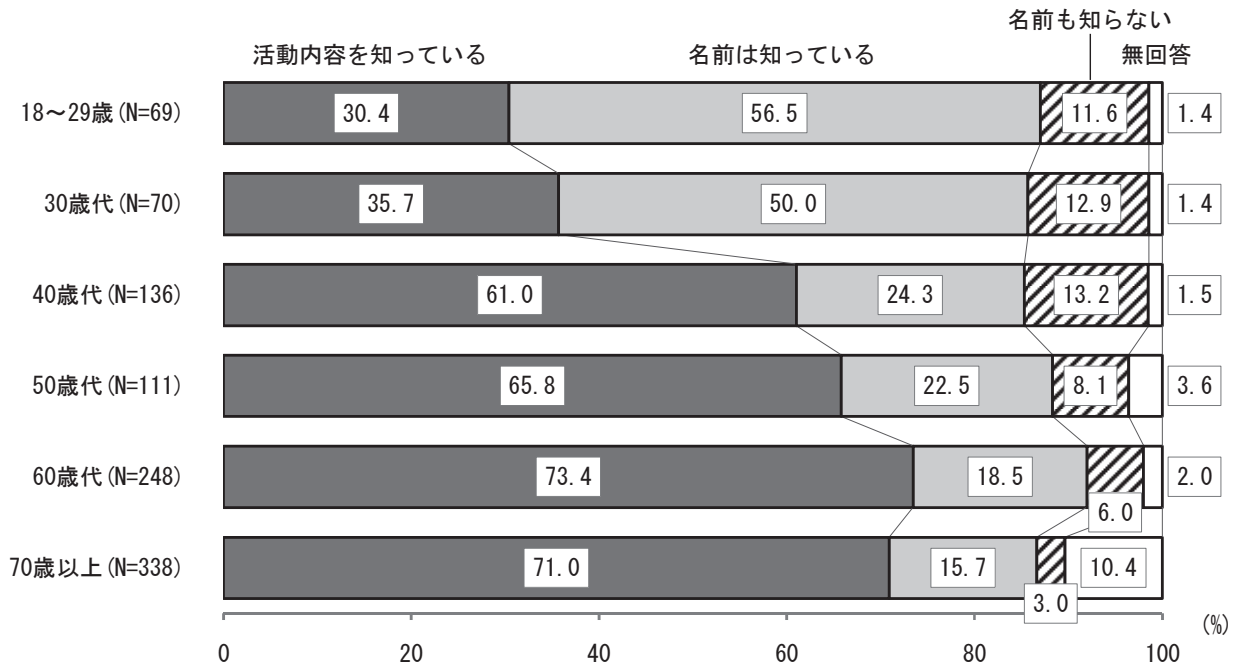
全体では、「活動内容を知っている」が64.1%、「名前は知っている」が23.7%、「名前も知らない」が7.1%となっています。

年齢別にみると、「活動内容を知っている」が60歳代で最も多くなっており、高い年齢層ほど多い傾向にあります。一方、「名前も知らない」が40歳代で最も多くなっています。

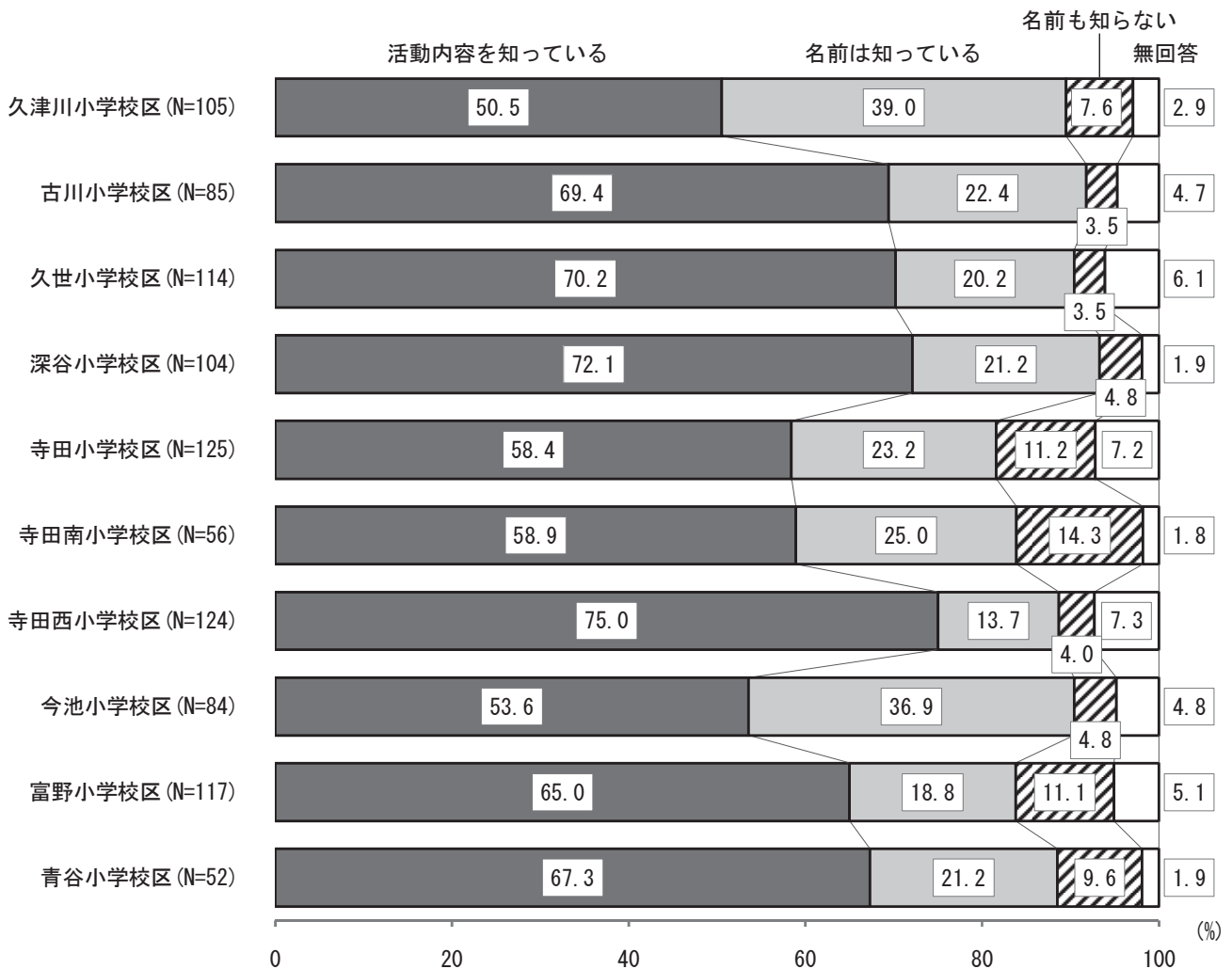
居住地域別にみると、寺田西小学校区で「活動内容を知っている」が全体に比べて特に多くなっています。



自治会（年齢別）



自治会（居住地域別）

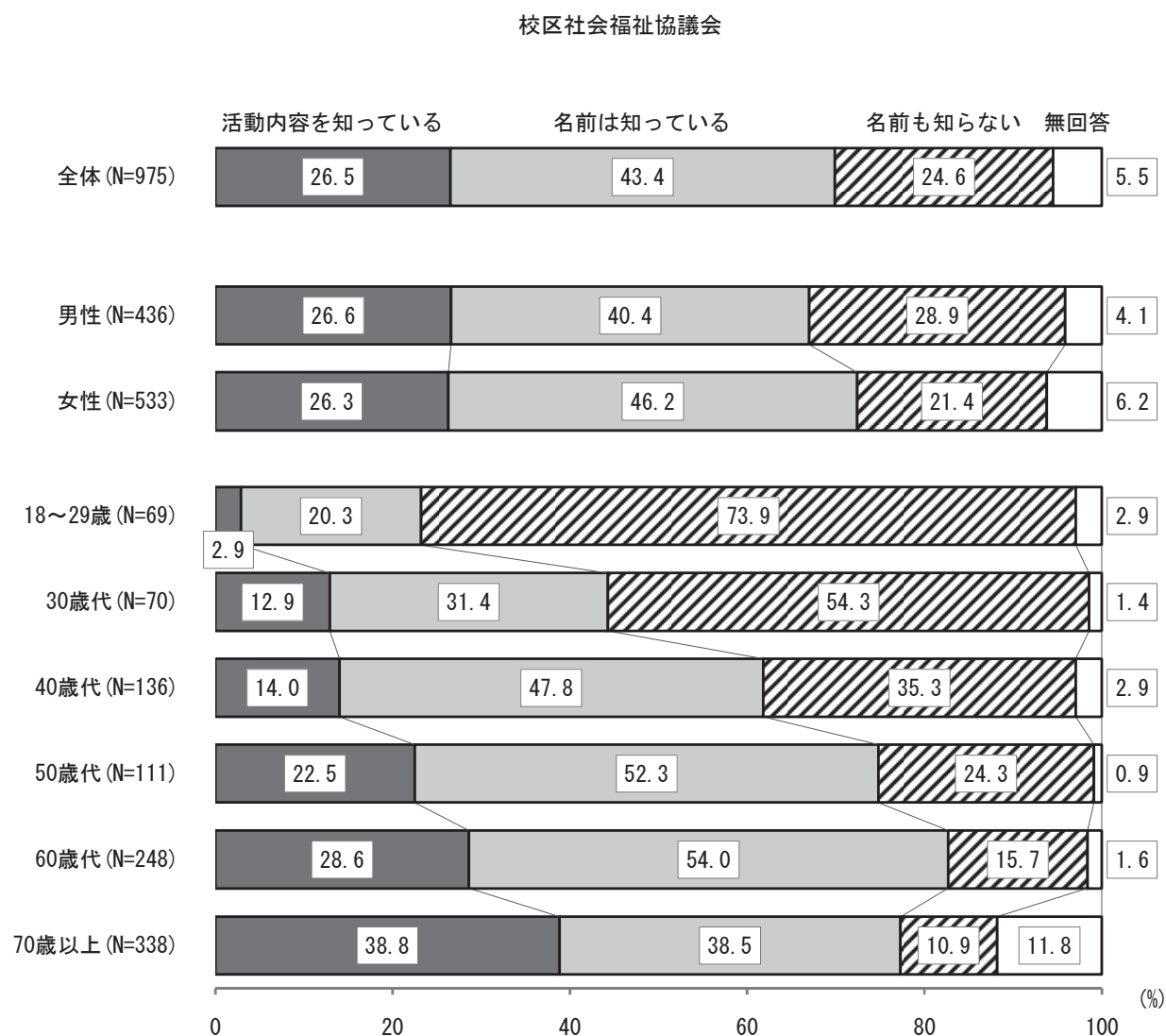


2) 校区社会福祉協議会

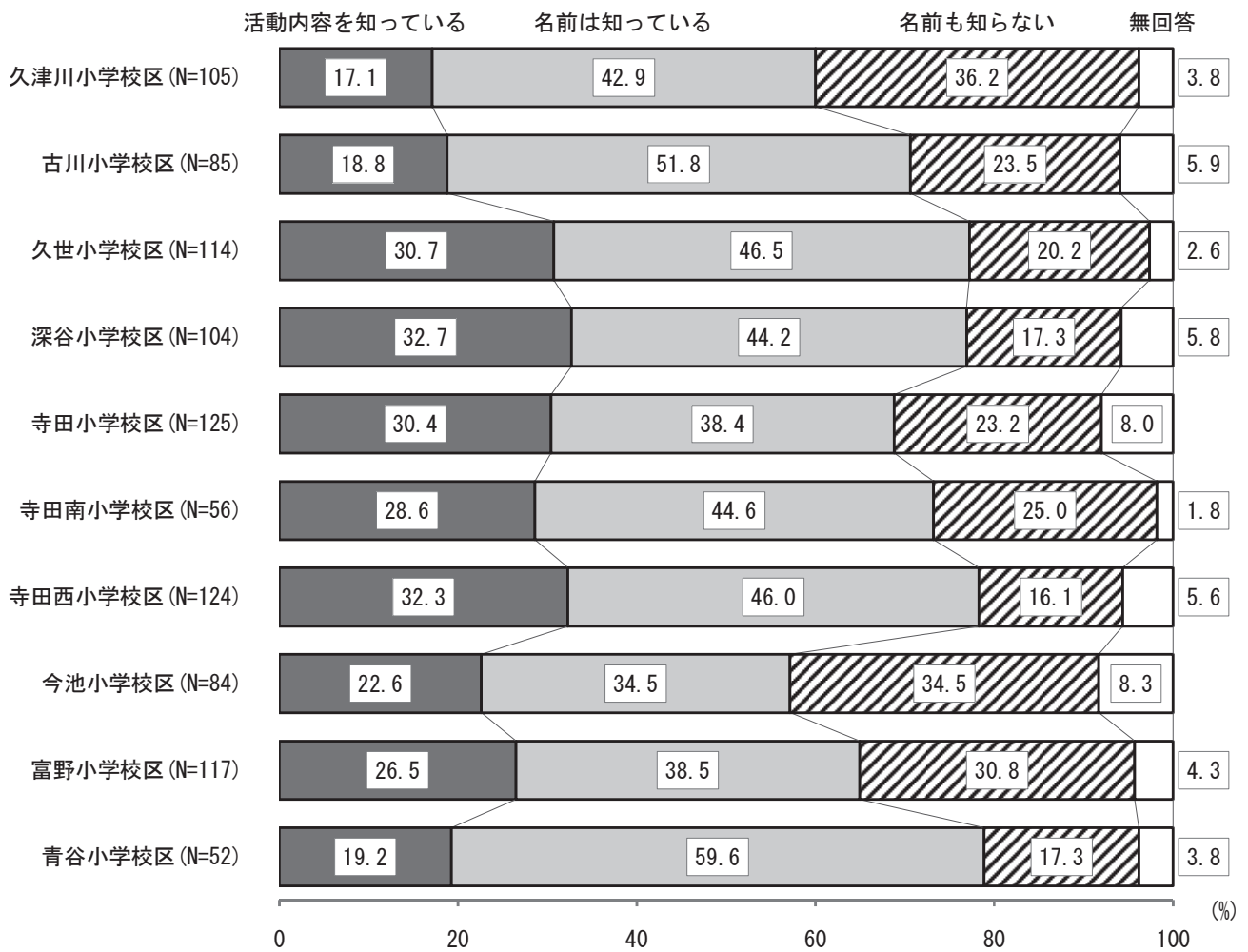
全体では、「活動内容を知っている」が 26.5%、「名前は知っている」が 43.4%、「名前も知らない」が 24.6%となっています。

年齢別にみると、70歳以上で「活動内容を知っている」が全体に比べて特に多くなっており、高い年齢層ほど多い傾向にあります。一方、40歳代以下で「名前も知らない」が全体に比べて特に多くなっており、30歳代以下では「名前も知らない」が5割以上となっています。

居住地域別にみると、久津川小学校区で「名前も知らない」が全体に比べて特に多くなっています。



校区社会福祉協議会（居住地域別）

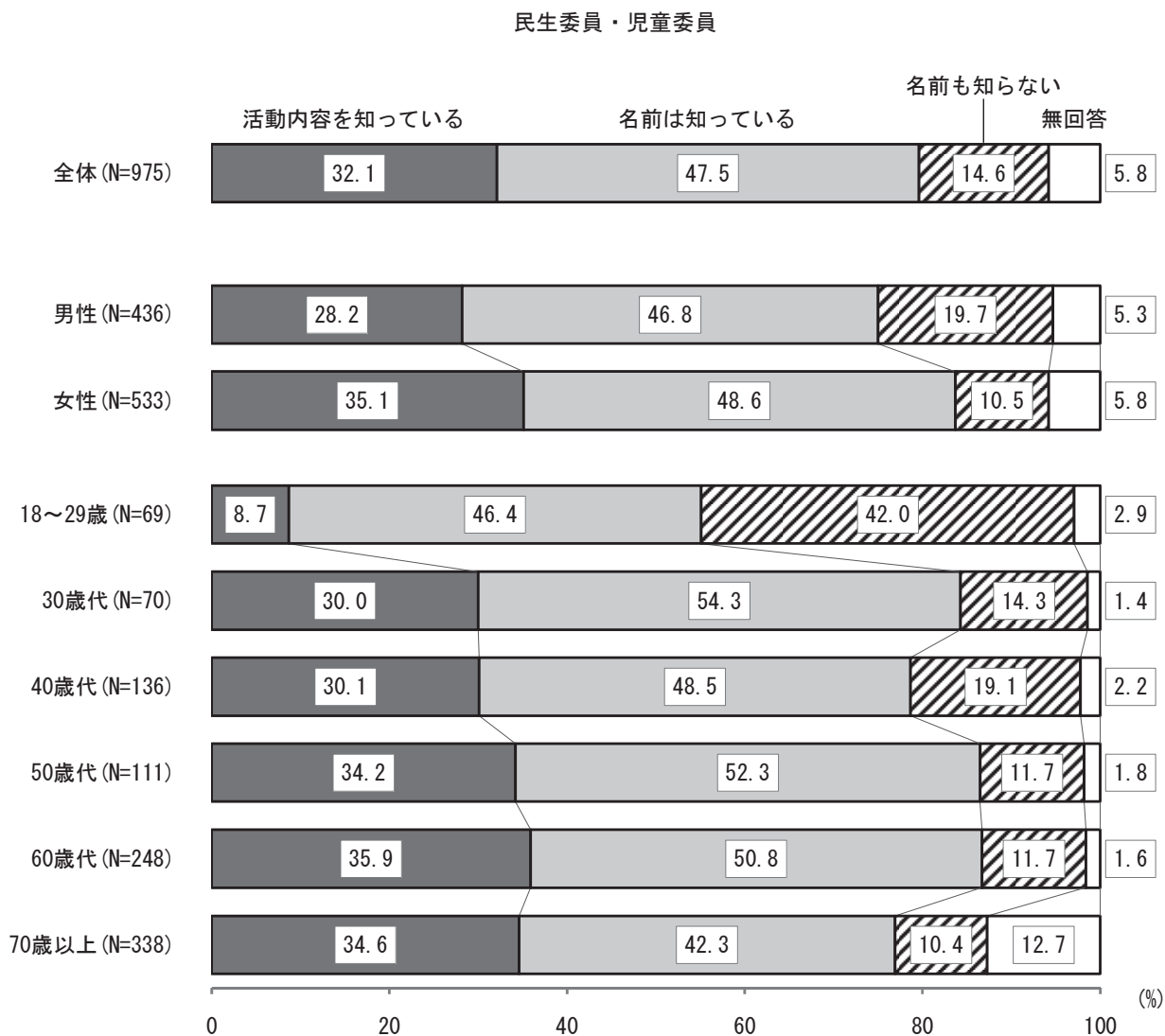


3) 民生委員・児童委員

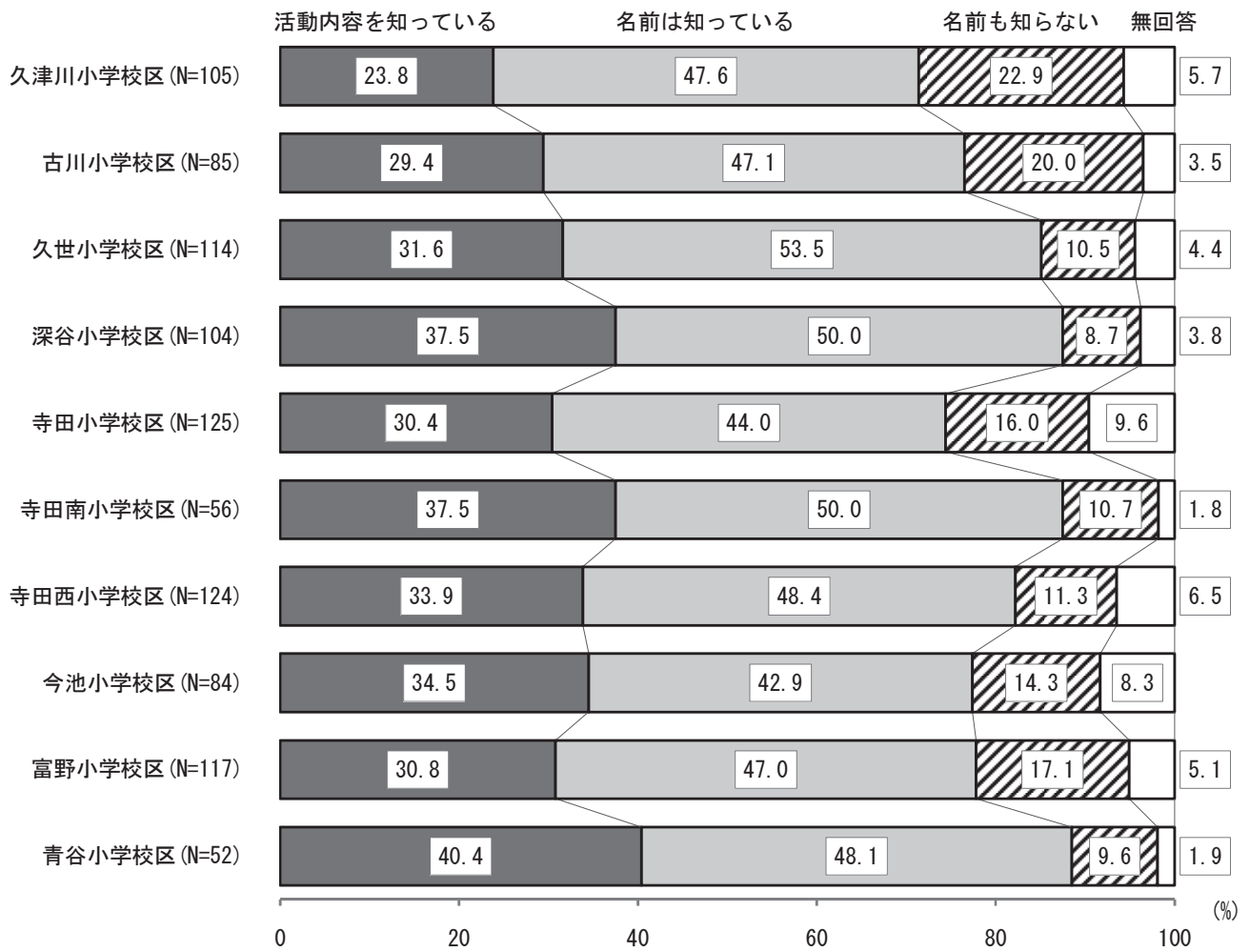
全体では、「活動内容を知っている」が 32.1%、「名前は知っている」が 47.5%、「名前も知らない」が 14.6%となっています。

年齢別にみると、「活動内容を知っている」が 60 歳代で最も多くなっています。一方、18～29 歳で「名前も知らない」が全体に比べて特に多くなっています。

居住地域別にみると、地域によって傾向が異なります。



民生委員・児童委員（居住地域別）

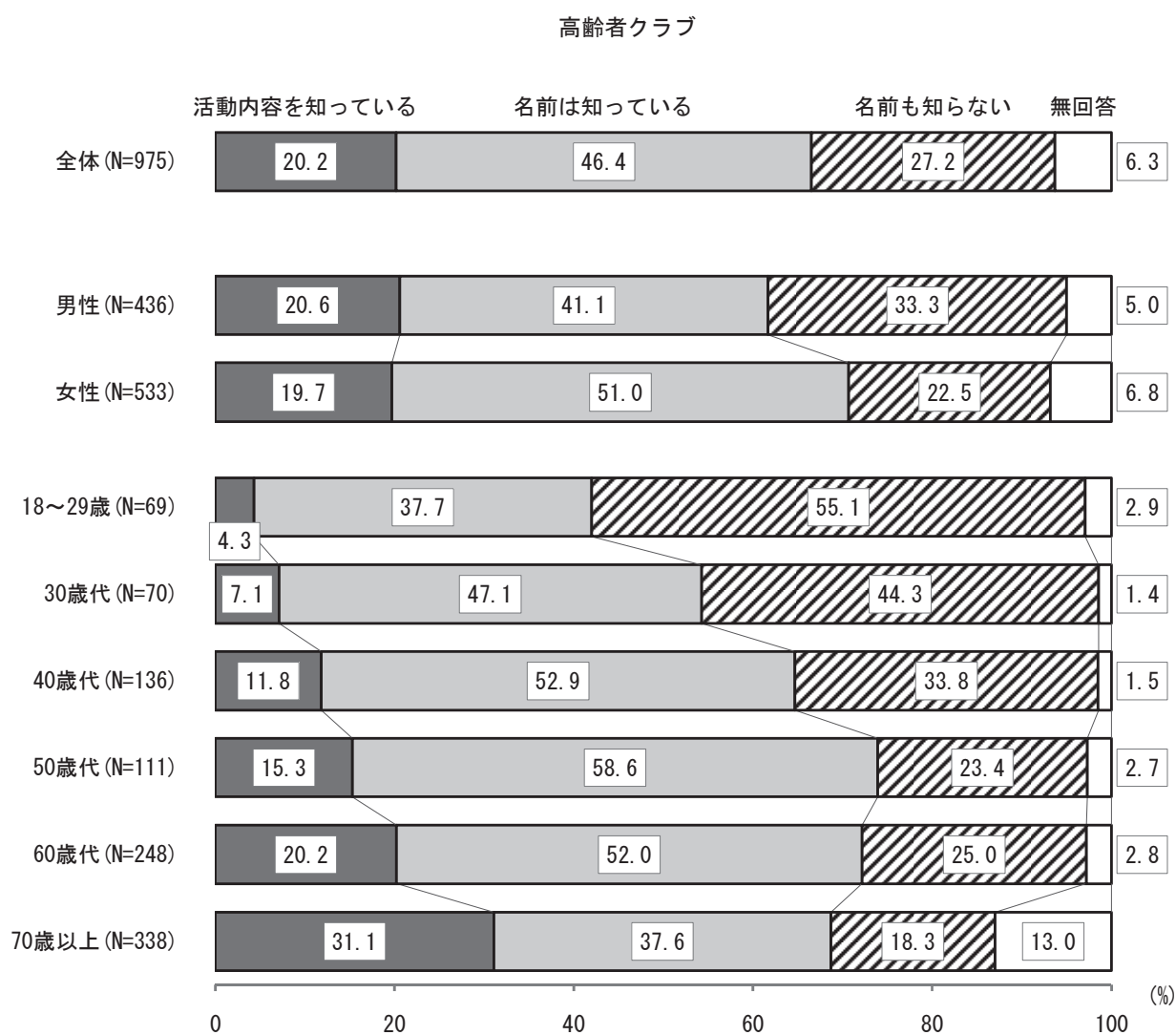


4) 高齢者クラブ

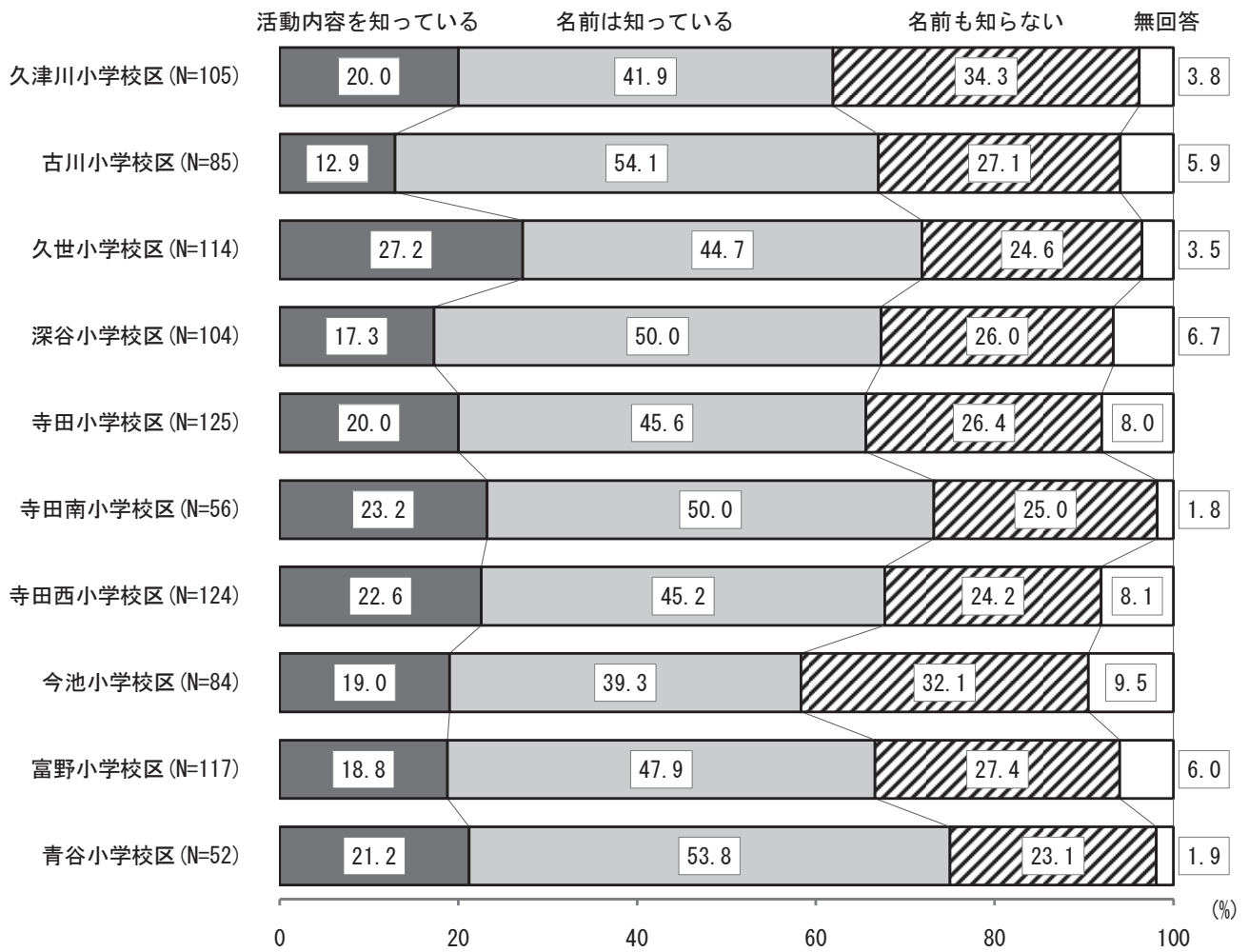
全体では、「活動内容を知っている」が 20.2%、「名前は知っている」が 46.4%、「名前も知らない」が 27.2%となっています。

年齢別にみると、70歳以上で「活動内容を知っている」が全体に比べて特に多くなっており、高い年齢層ほど多い傾向にあります。一方、30歳代以下で「名前も知らない」が全体に比べて特に多くなっており、18～29歳では5割以上となっています。

居住地域別にみると、地域によって傾向が異なります。



高齢者クラブ（居住地域別）

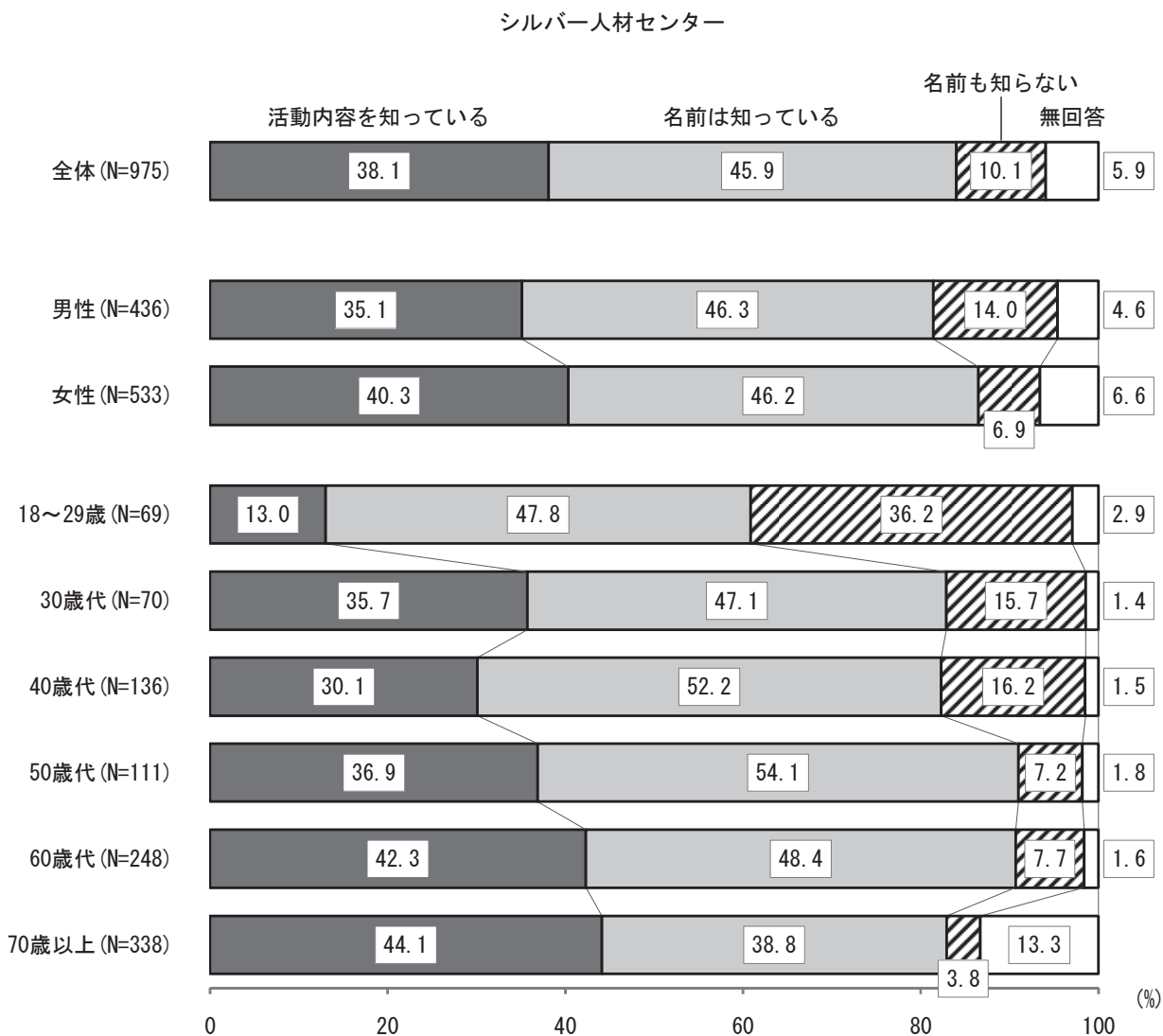


5) シルバー人材センター

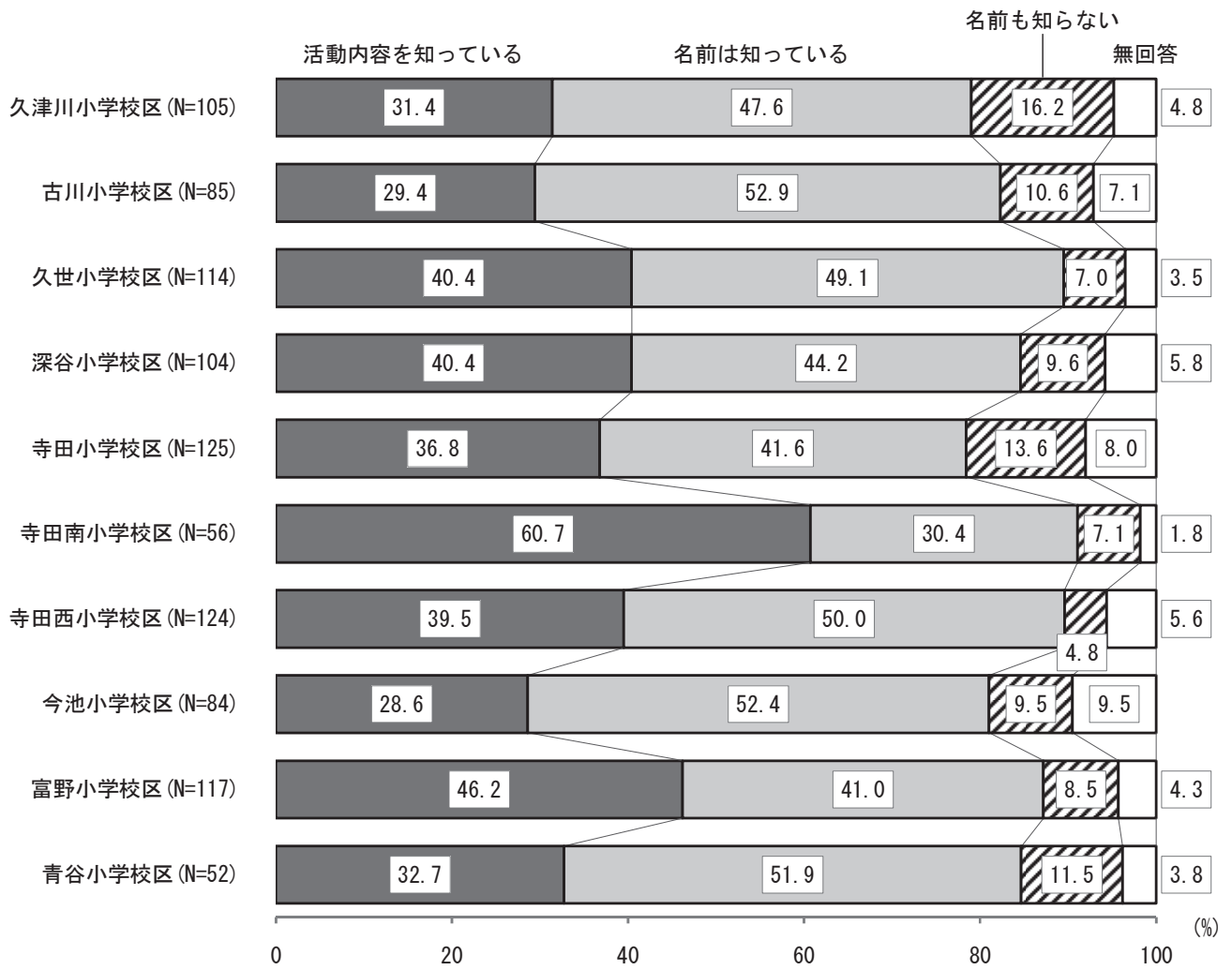
全体では、「活動内容を知っている」が 38.1%、「名前は知っている」が 45.9%、「名前も知らない」が 10.1%となっています。

年齢別にみると、「活動内容を知っている」が 70 歳以上で最も多くなっています。一方、18～29 歳で「名前も知らない」が全体に比べて特に多くなっています。

居住地域別にみると、寺田南小学校区で「活動内容を知っている」が全体に比べて特に多く、6 割以上となっています。



シルバー人材センター（居住地域別）

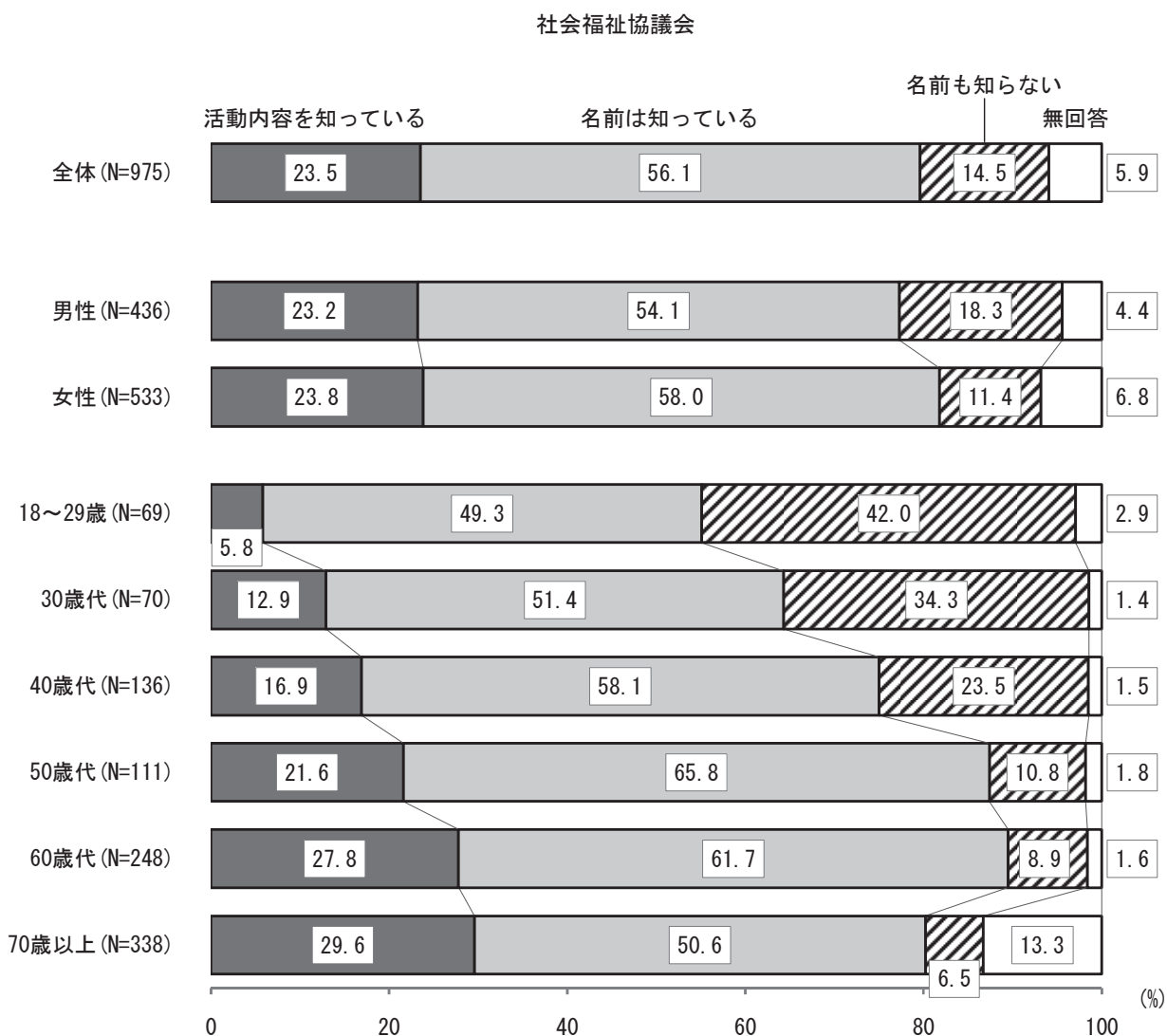


6) 社会福祉協議会

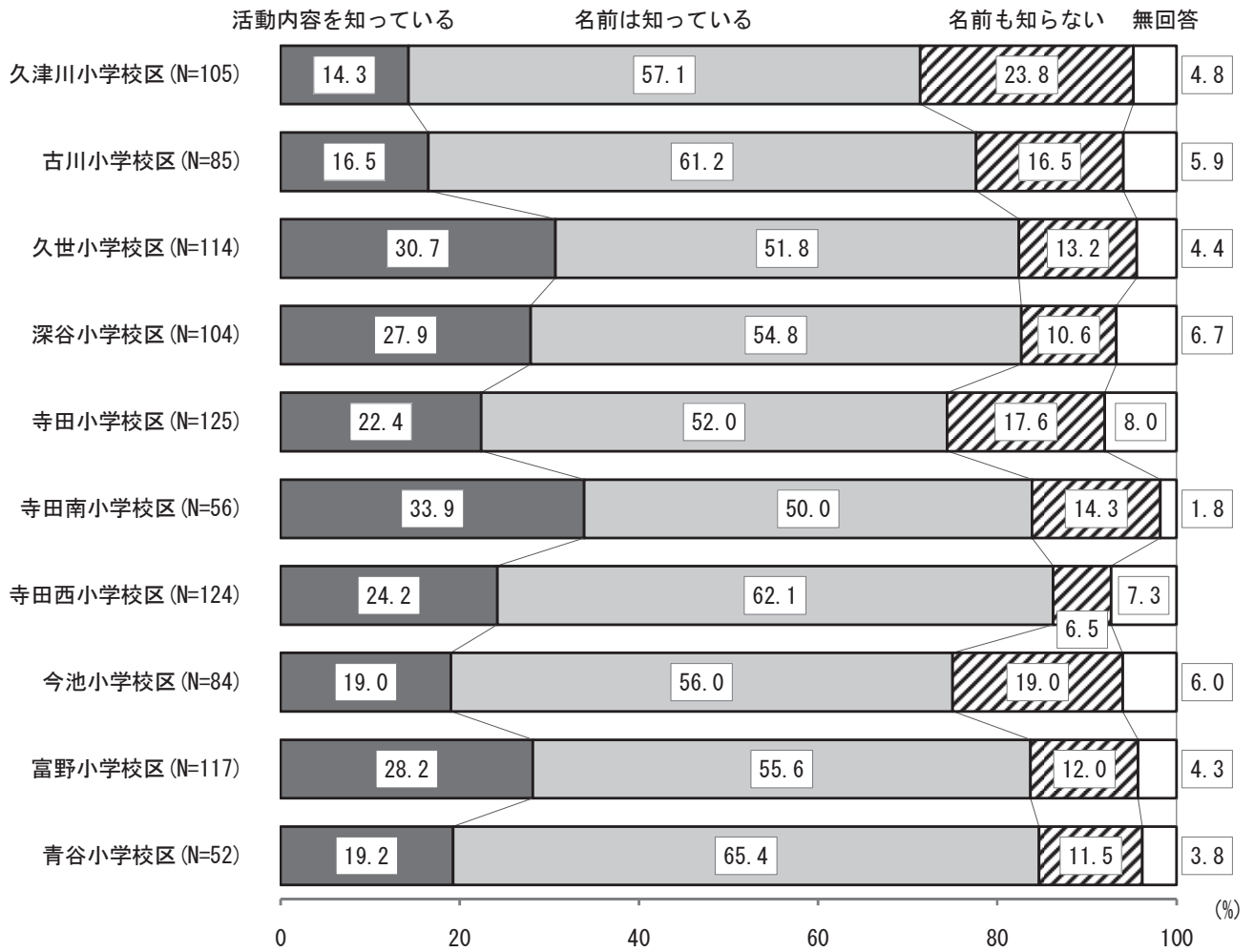
全体では、「活動内容を知っている」が 23.5%、「名前は知っている」が 56.1%、「名前も知らない」が 14.5%となっています。

年齢別にみると、高い年齢層ほど「活動内容を知っている」が多い傾向にあります。一方、30歳代以下で「名前も知らない」が全体に比べて特に多くなっています。

居住地域別にみると、寺田南小学校区で「活動内容を知っている」が全体に比べて特に多くなっています。



社会福祉協議会（居住地域別）

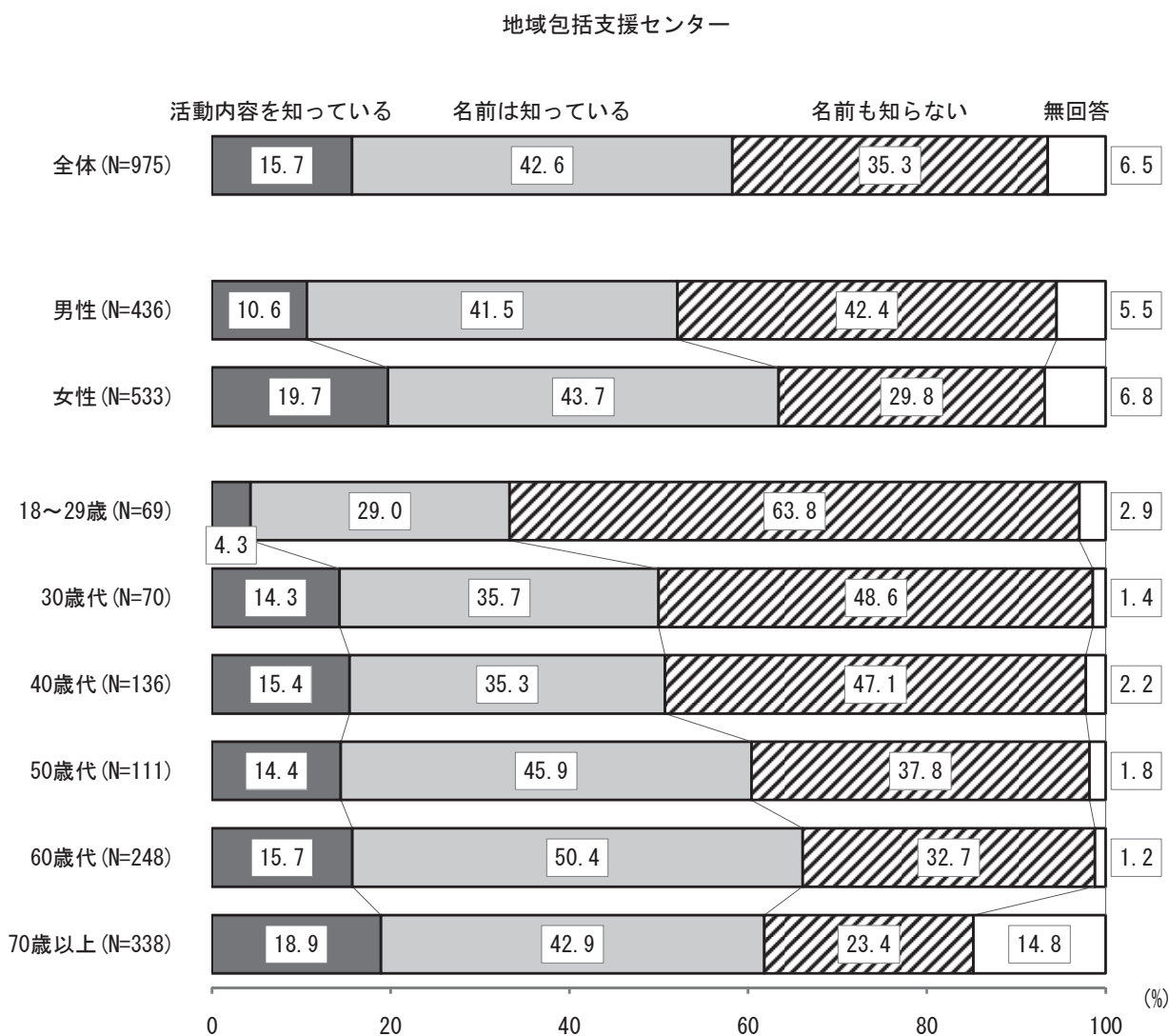


7) 地域包括支援センター

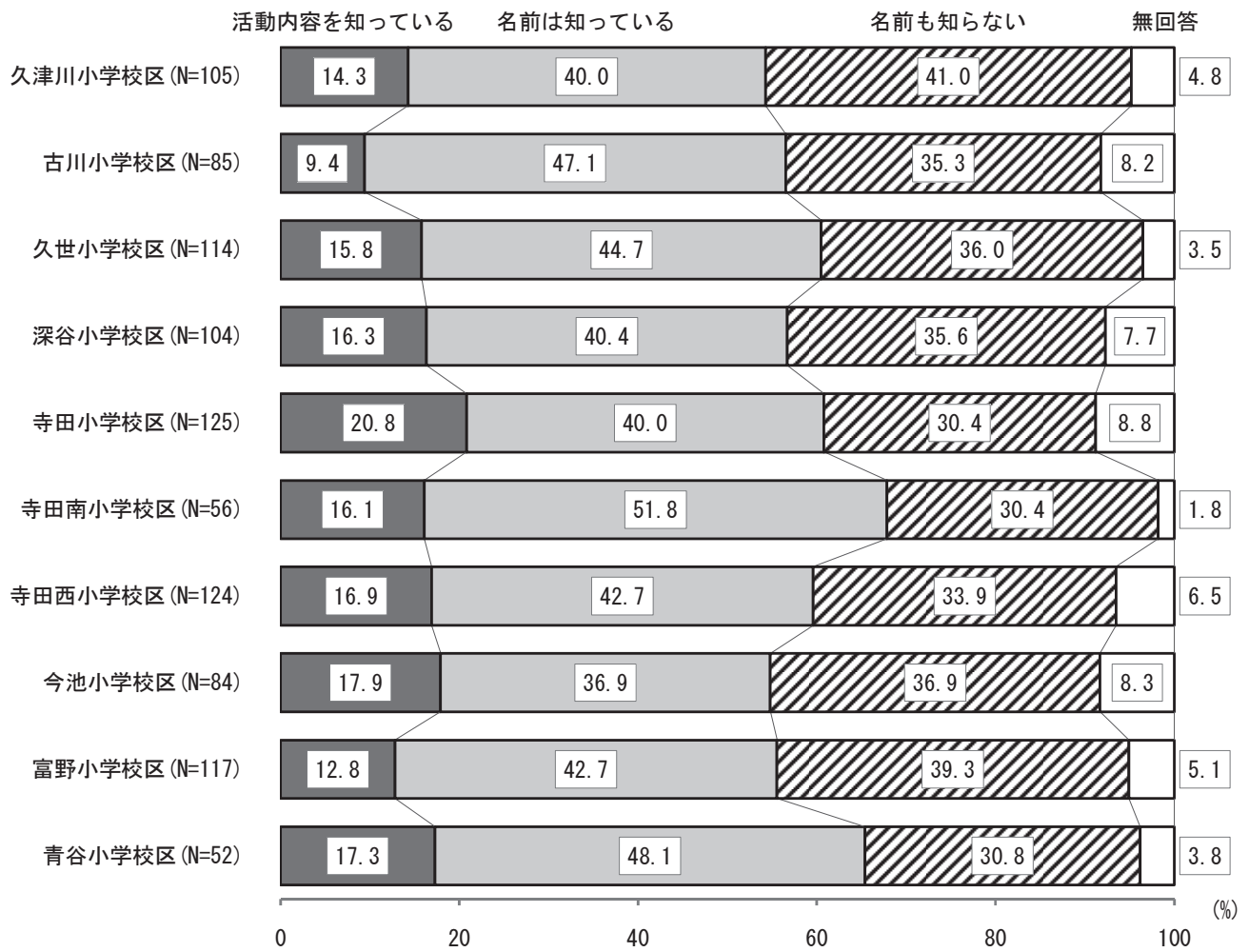
全体では、「活動内容を知っている」が 15.7%、「名前は知っている」が 42.6%、「名前も知らない」が 35.3%となっています。

年齢別にみると、「活動内容を知っている」が 70 歳以上で最も多くなっています。一方、40 歳代以下で「名前も知らない」が全体に比べて特に多くなっており、若い年齢層ほど多い傾向にあります。18～29 歳では「名前も知らない」が 6 割以上となっています。

居住地域別にみると、地域によって傾向が異なります。



地域包括支援センター（居住地域別）

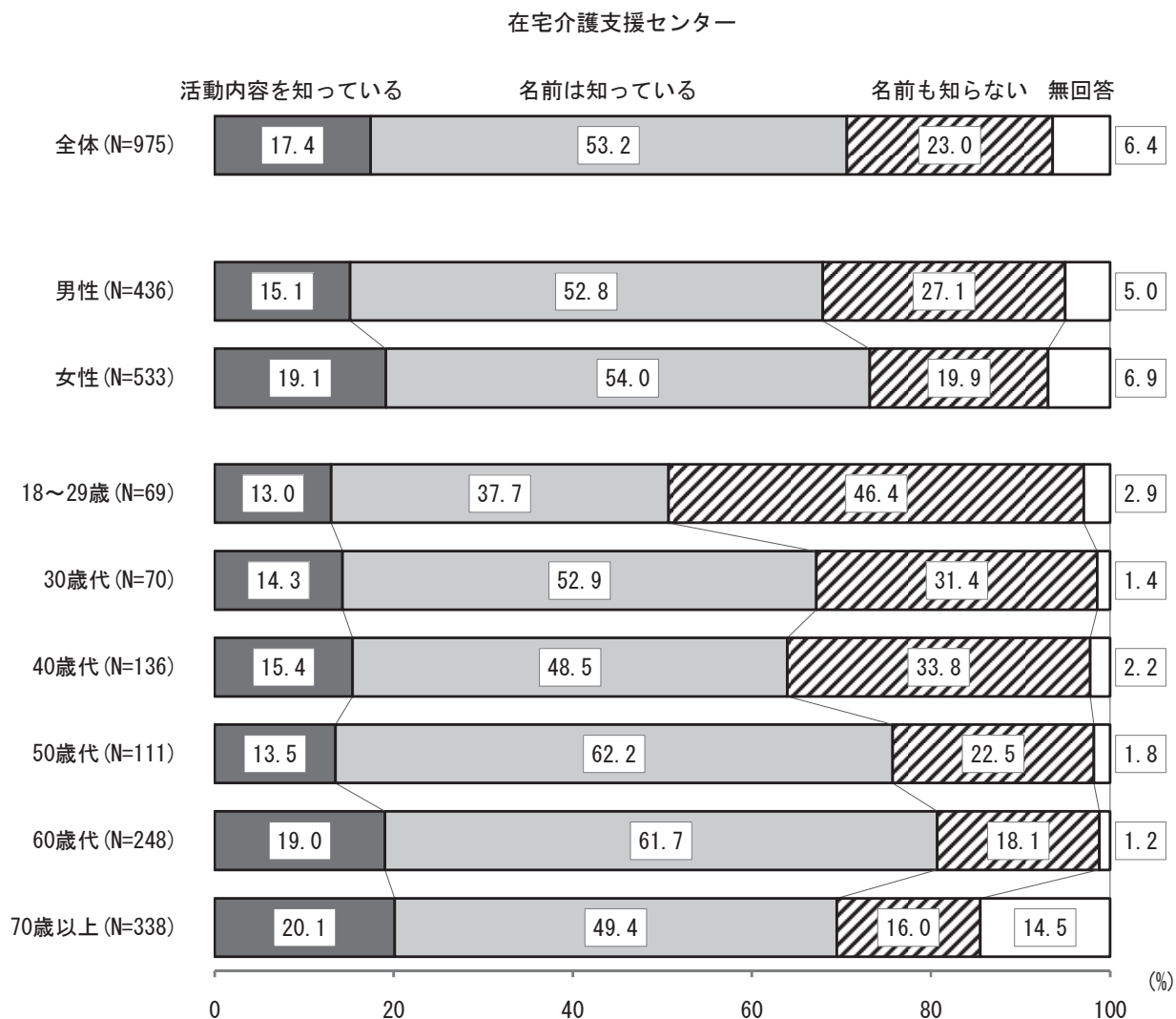


8) 在宅介護支援センター

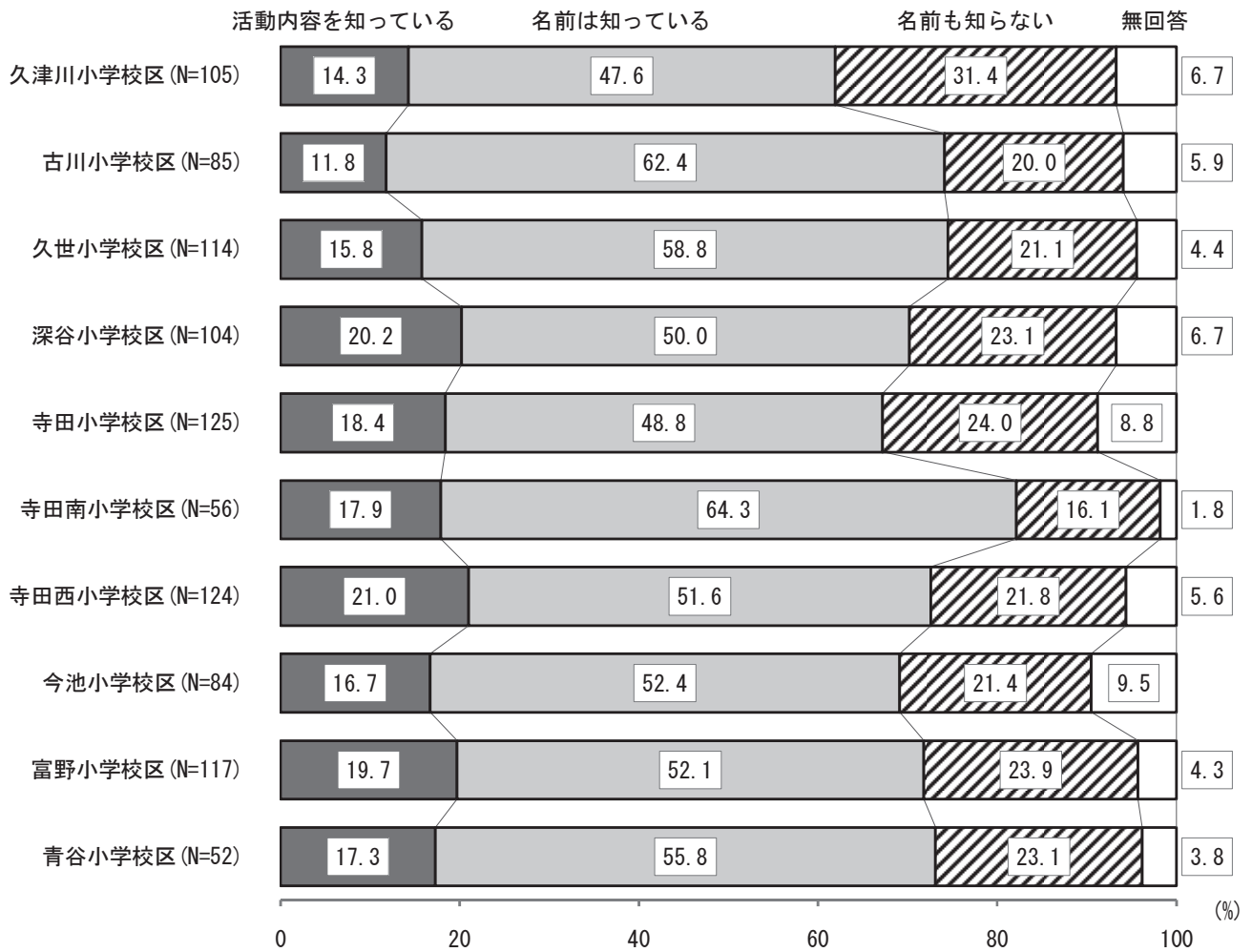
全体では、「活動内容を知っている」が 17.4%、「名前は知っている」が 53.2%、「名前も知らない」が 23.0%となっています。

年齢別にみると、「活動内容を知っている」が 70 歳以上で最も多くなっています。一方、18～29 歳と 40 歳代で「名前も知らない」が全体に比べて特に多くなっています。

居住地域別にみると、地域によって傾向が異なります。



在宅介護支援センター（居住地域別）



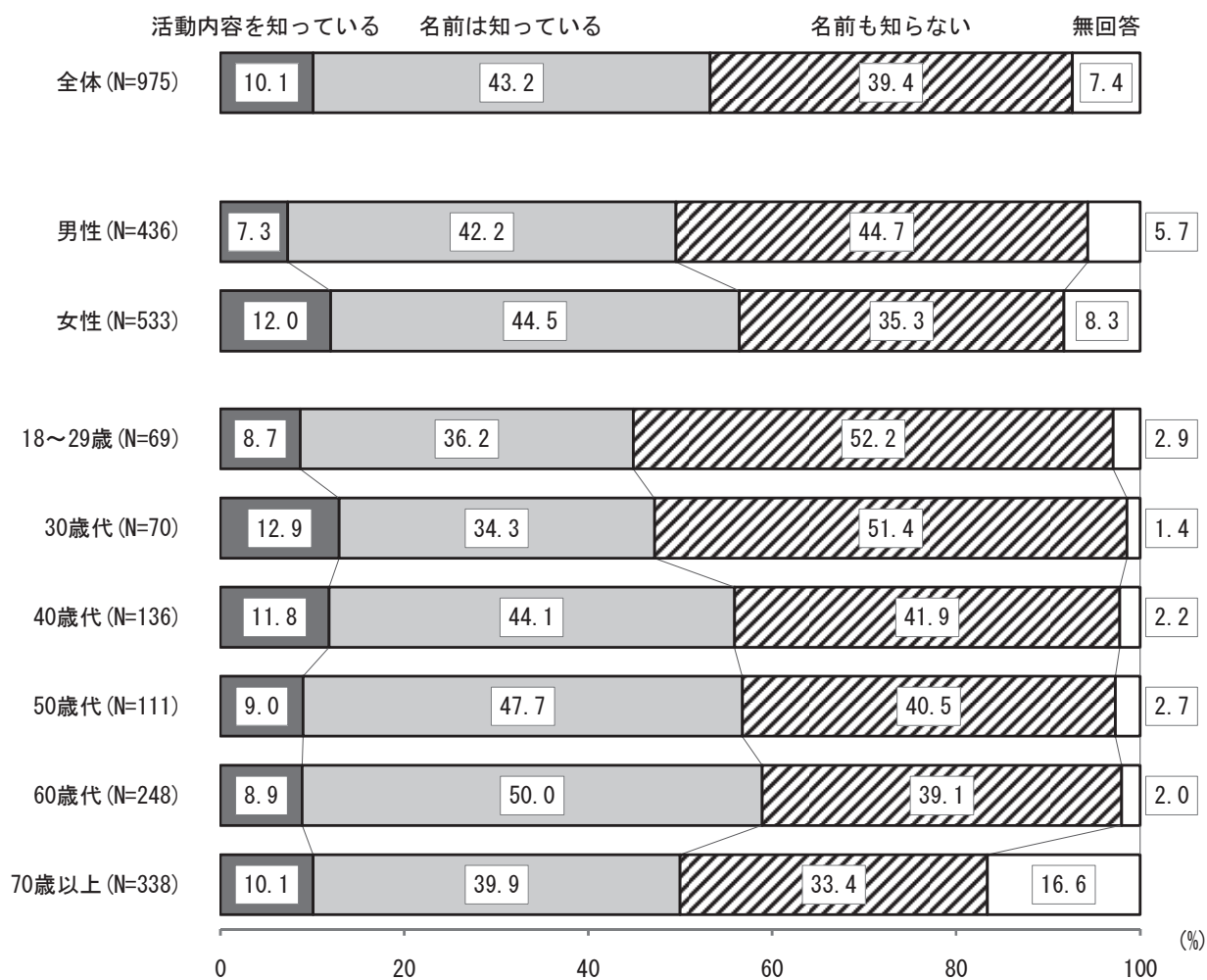
9) 障がい者相談支援事業所

全体では、「活動内容を知っている」が 10.1%、「名前は知っている」が 43.2%、「名前も知らない」が 39.4%となっています。

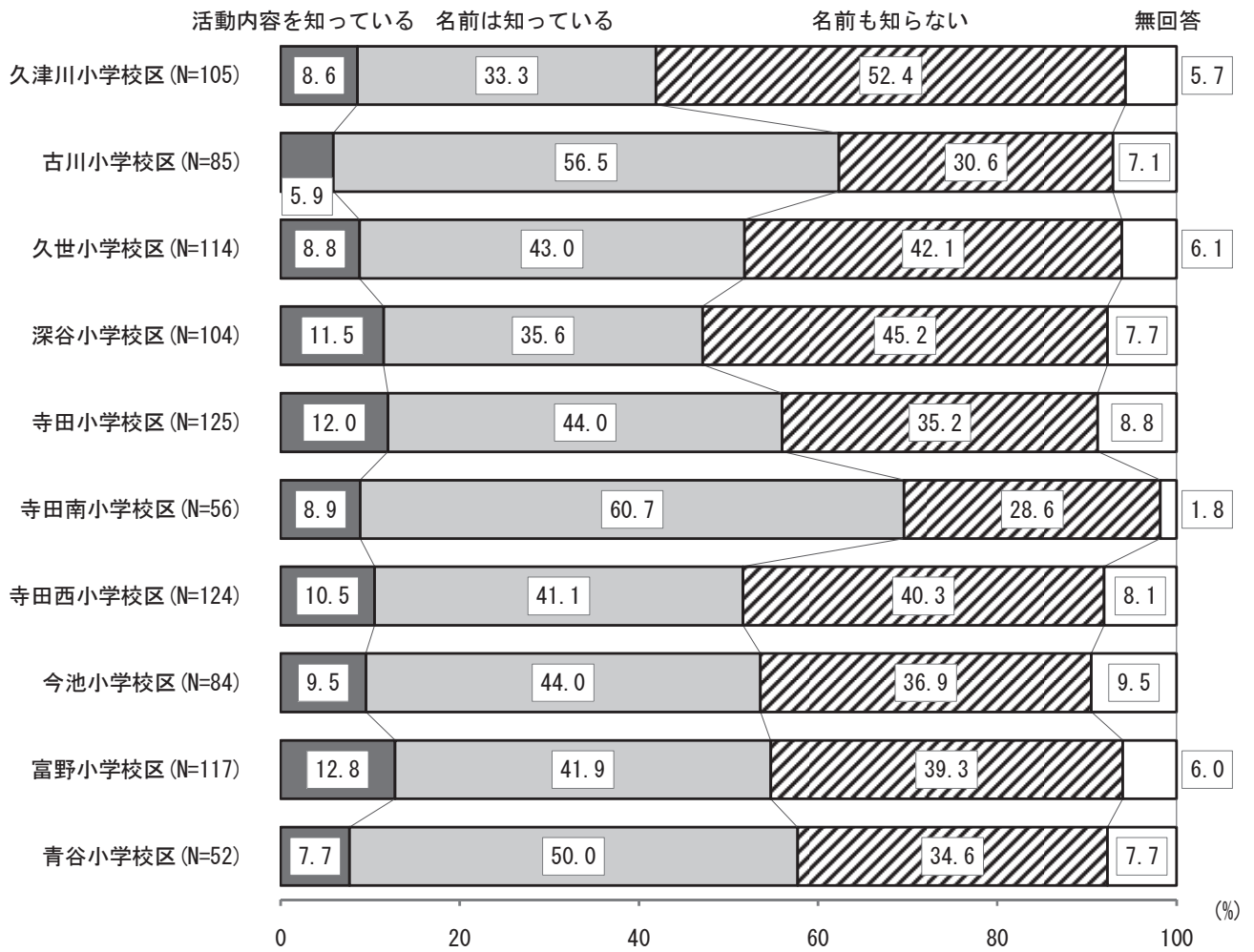
年齢別にみると、「活動内容を知っている」が 30 歳代で最も多くなっています。一方、「名前も知らない」は若い年齢層ほど多い傾向にあり、30 歳代以下では全体に比べて特に多く、5 割以上となっています。

居住地域別にみると、久津川小学校区で「名前も知らない」が全体に比べて特に多く、5 割以上となっています。

障がい者相談支援事業所



障がい者相談支援事業所（居住地域別）



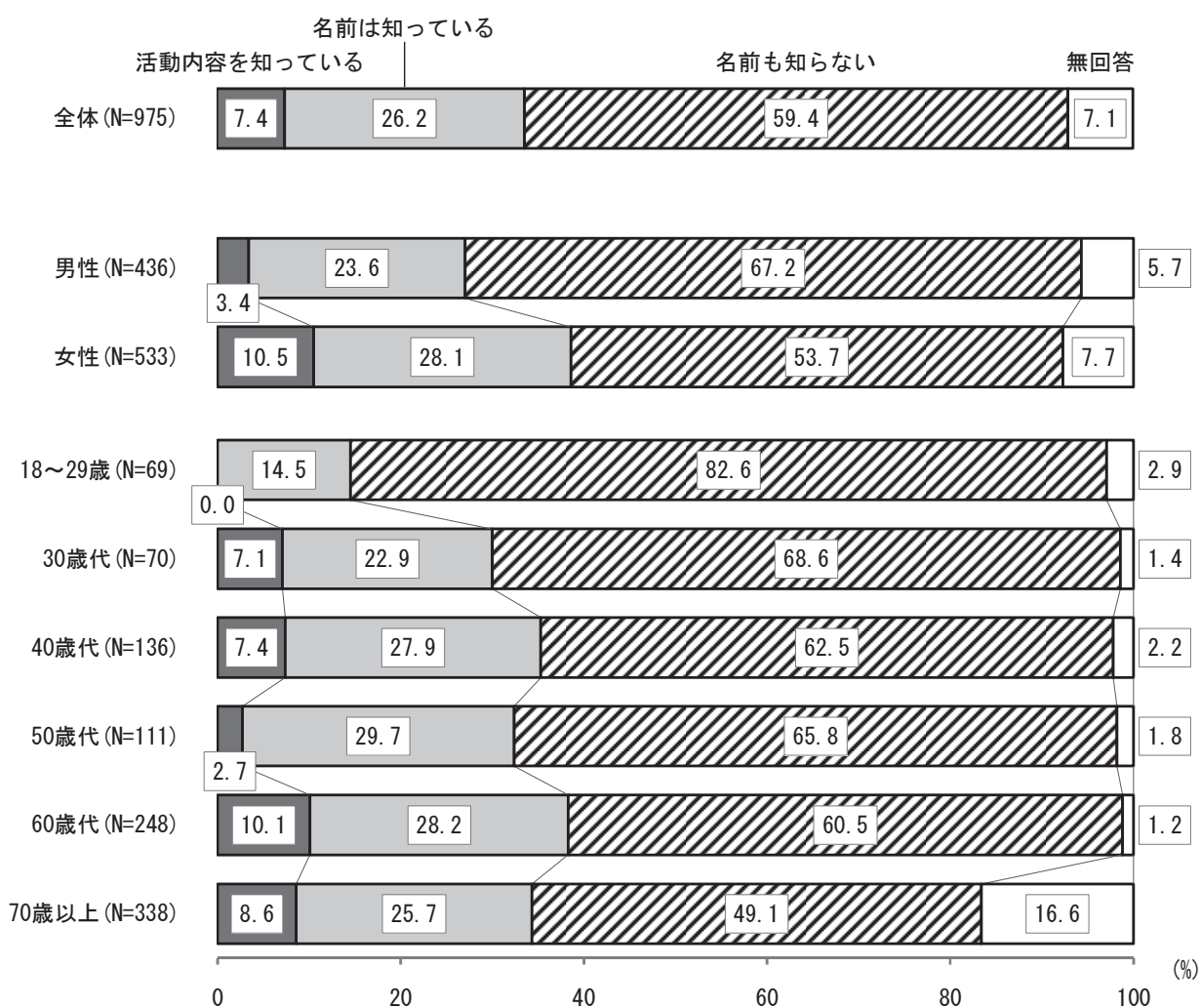
10) 食生活改善推進員協議会（ヘルスマイト城陽）

全体では、「活動内容を知っている」が7.4%、「名前は知っている」が26.2%、「名前も知らない」が59.4%となっています。

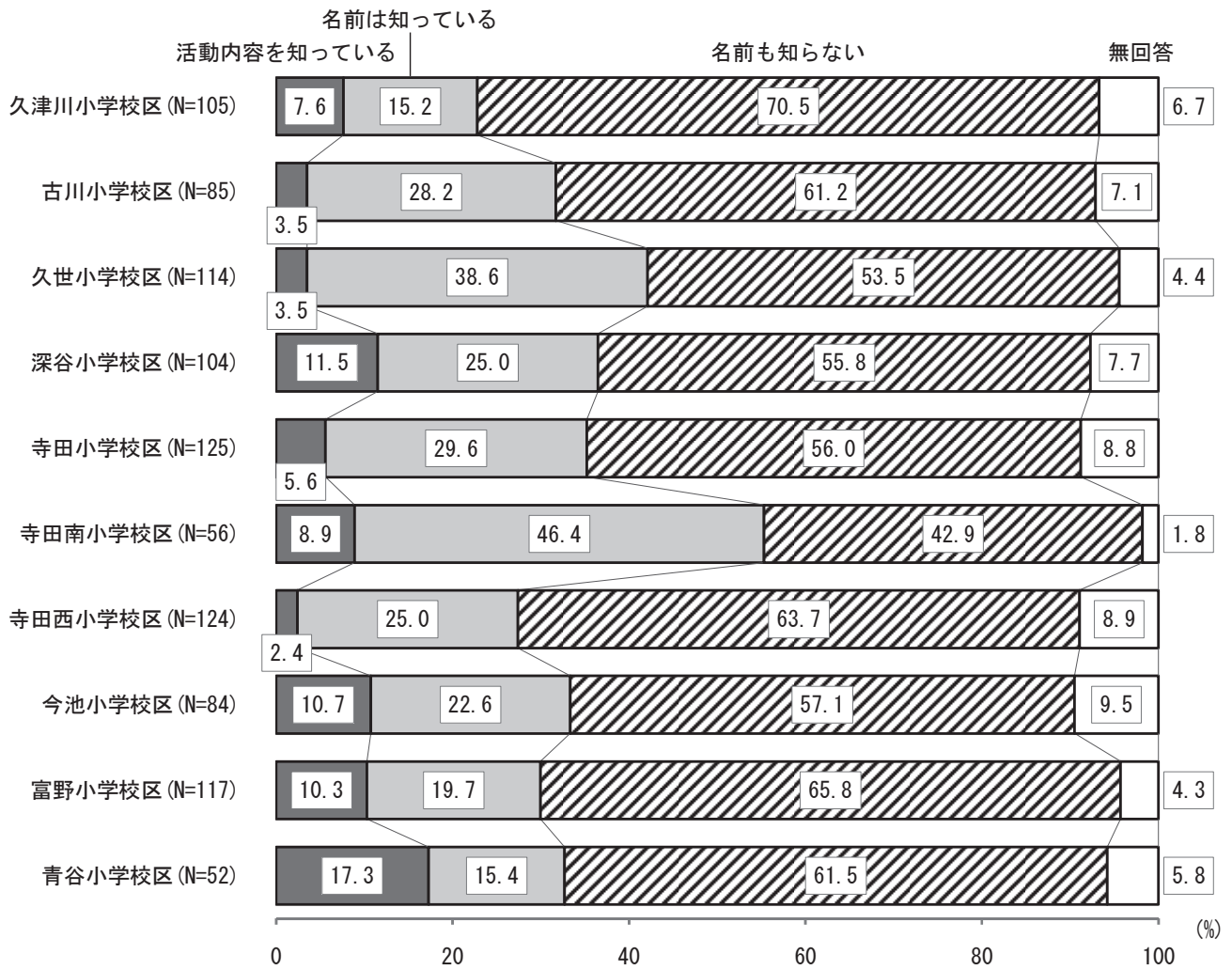
年齢別にみると、「活動内容を知っている」が60歳代で最も多くなっています。一方、18～29歳で「名前も知らない」が全体に比べて特に多くなっています。

居住地域別にみると、久津川小学校区で「名前も知らない」が全体に比べて特に多くなっています。

食生活改善推進員協議会（ヘルスマイト城陽）



食生活改善推進員協議会（ヘルスマイト城陽）（居住地域別）



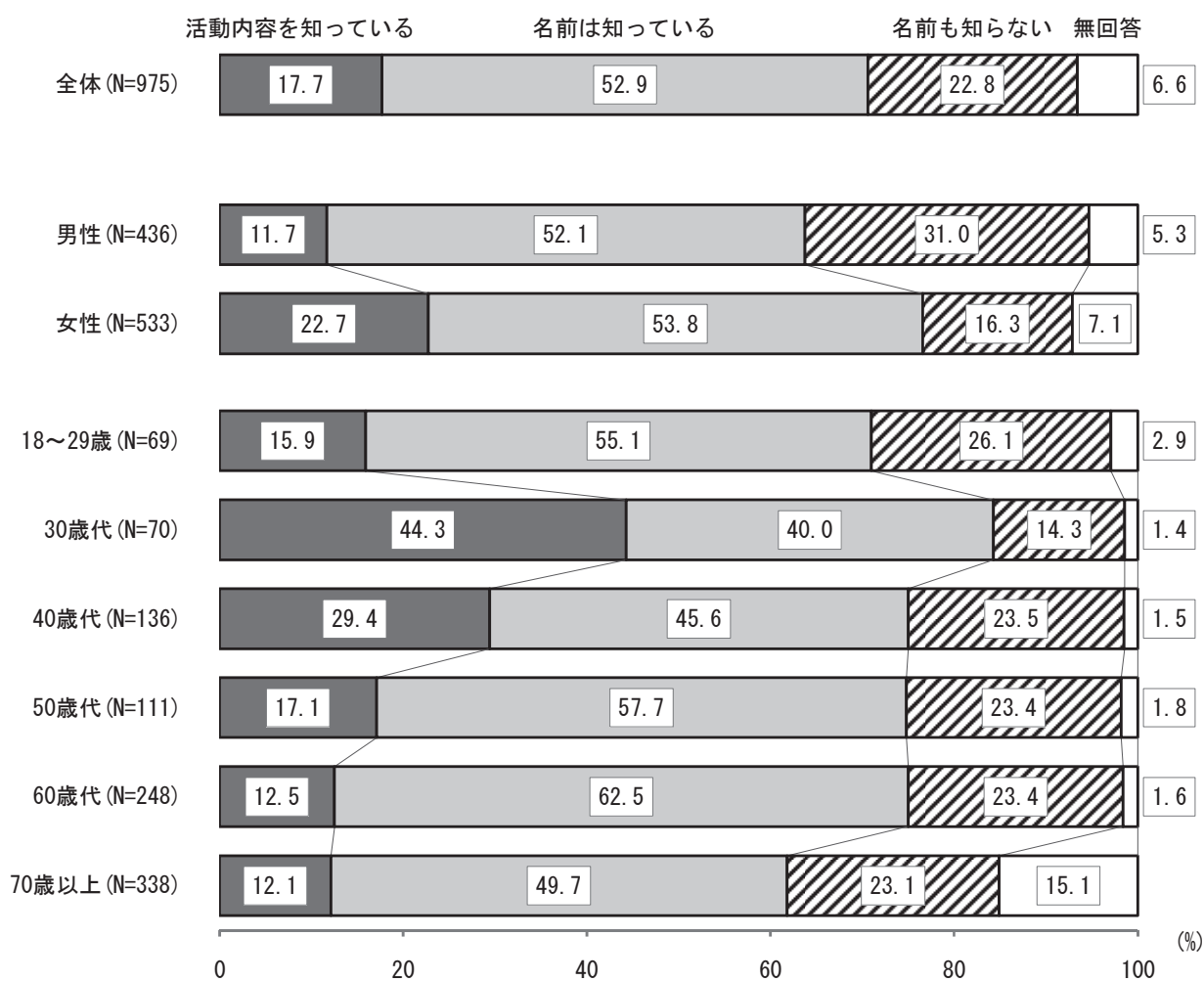
11) 地域子育て支援センター

全体では、「活動内容を知っている」が 17.7%、「名前は知っている」が 52.9%、「名前も知らない」が 22.8%となっています。

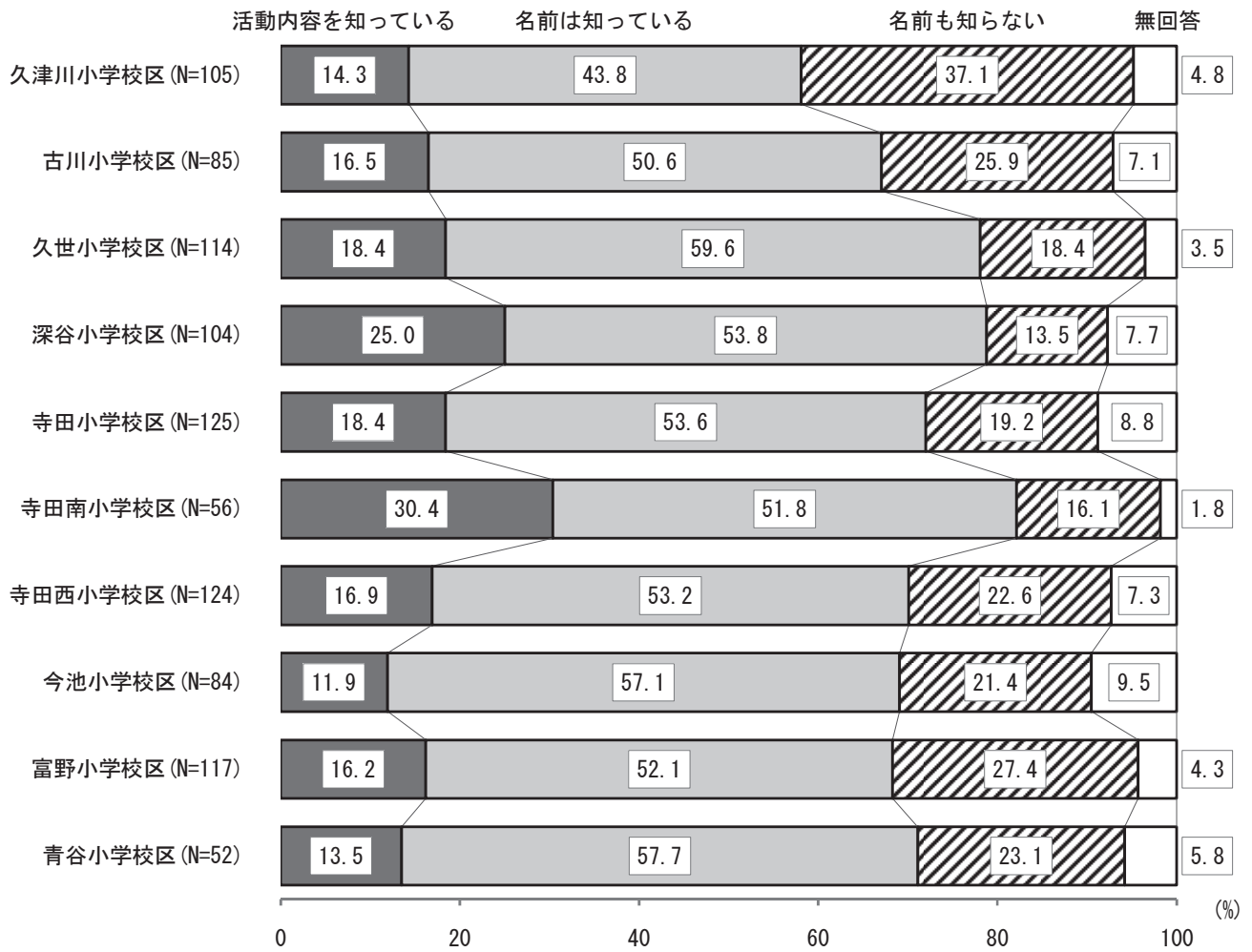
年齢別にみると、30歳代と40歳代で「活動内容を知っている」が全体に比べて特に多くなっています。一方、「名前も知らない」が18～29歳代で最も多くなっています。

居住地域別にみると、寺田南小学校区で「活動内容を知っている」が全体に比べて特に多くなっています。また、久津川小学校区で「名前も知らない」が全体に比べて特に多くなっています。

地域子育て支援センター



地域子育て支援センター（居住地域別）

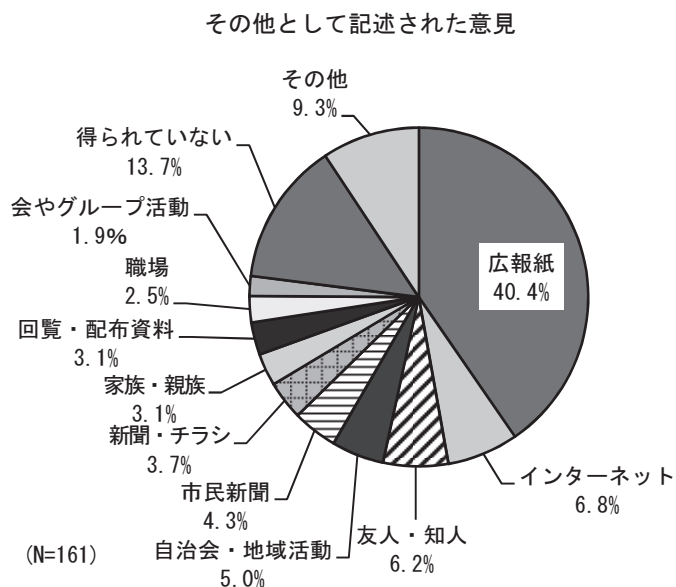
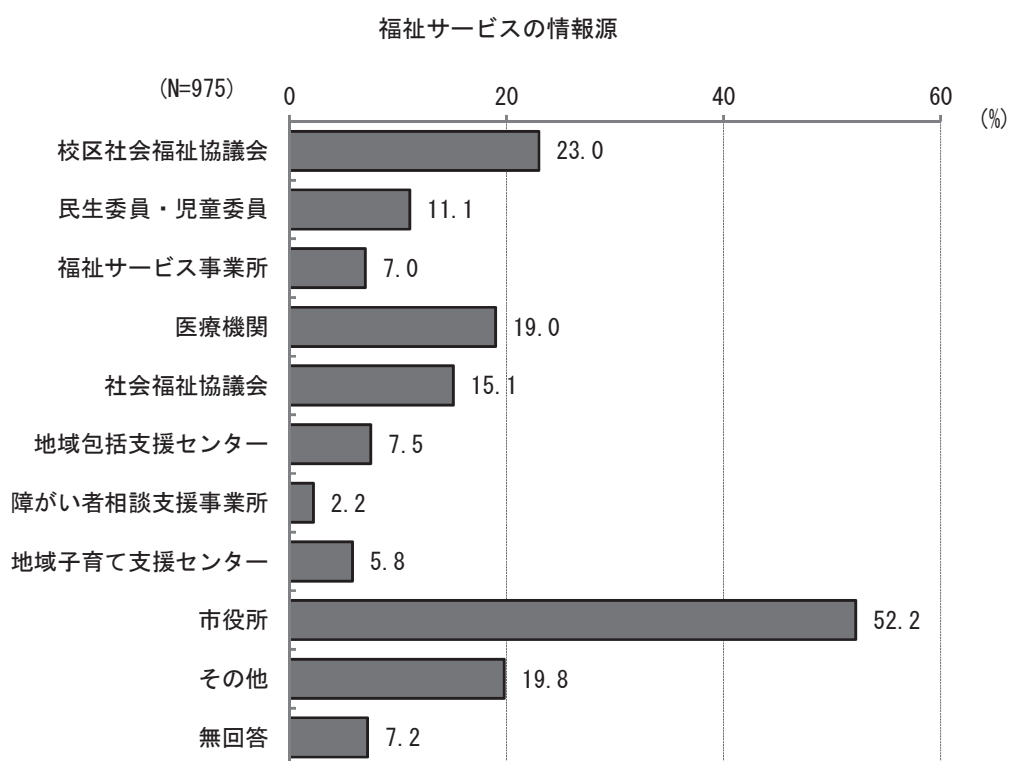


〔5〕福祉サービスの情報源

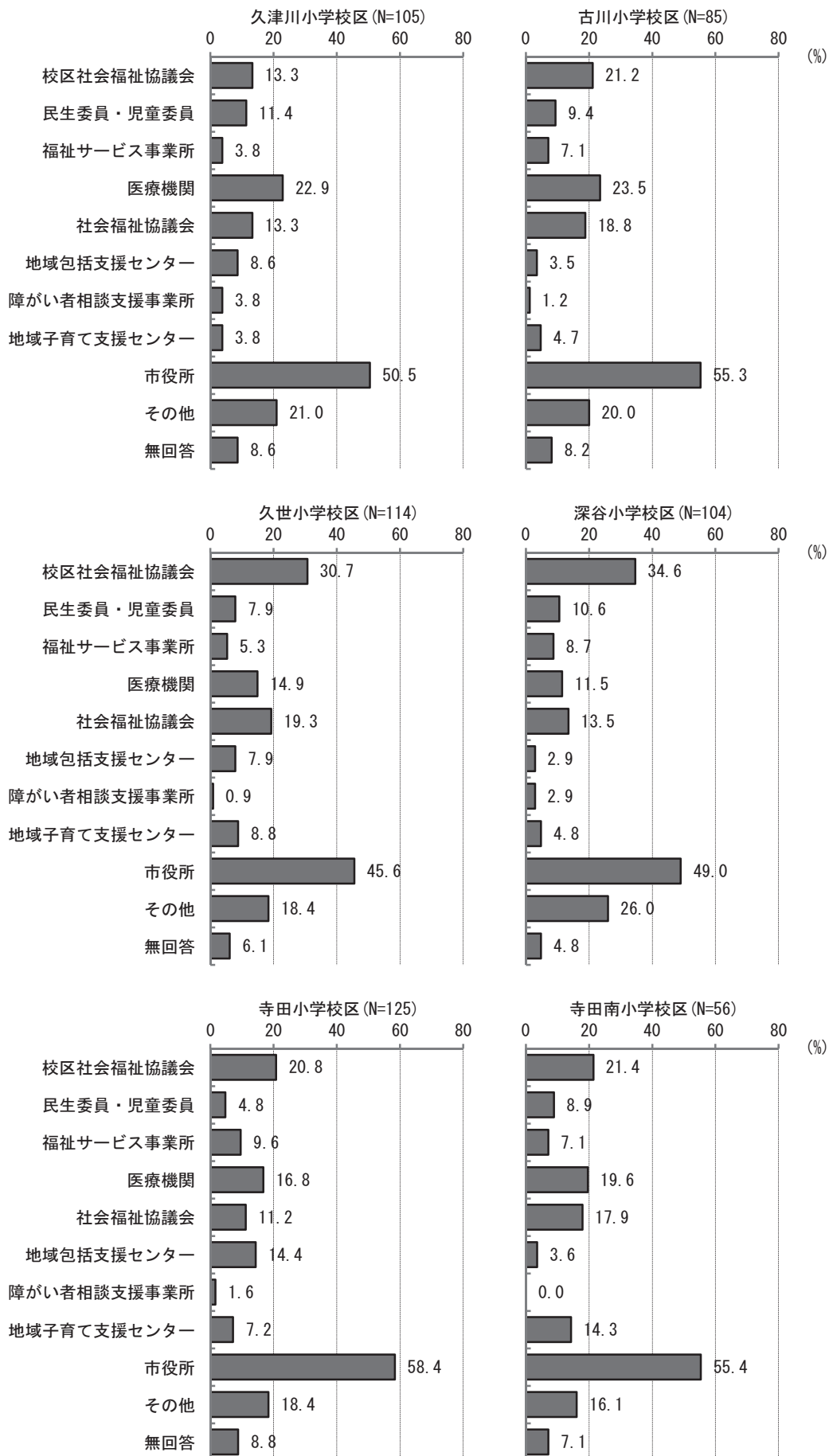
問19 あなたは、福祉サービスに関する情報をどこから得ていますか。当てはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

福祉サービスに関する情報をどこから得ているかについては、「市役所」が52.2%と最も多く、次いで、「校区社会福祉協議会」が23.0%、「医療機関」が19.0%、「社会福祉協議会」が15.1%となっています。

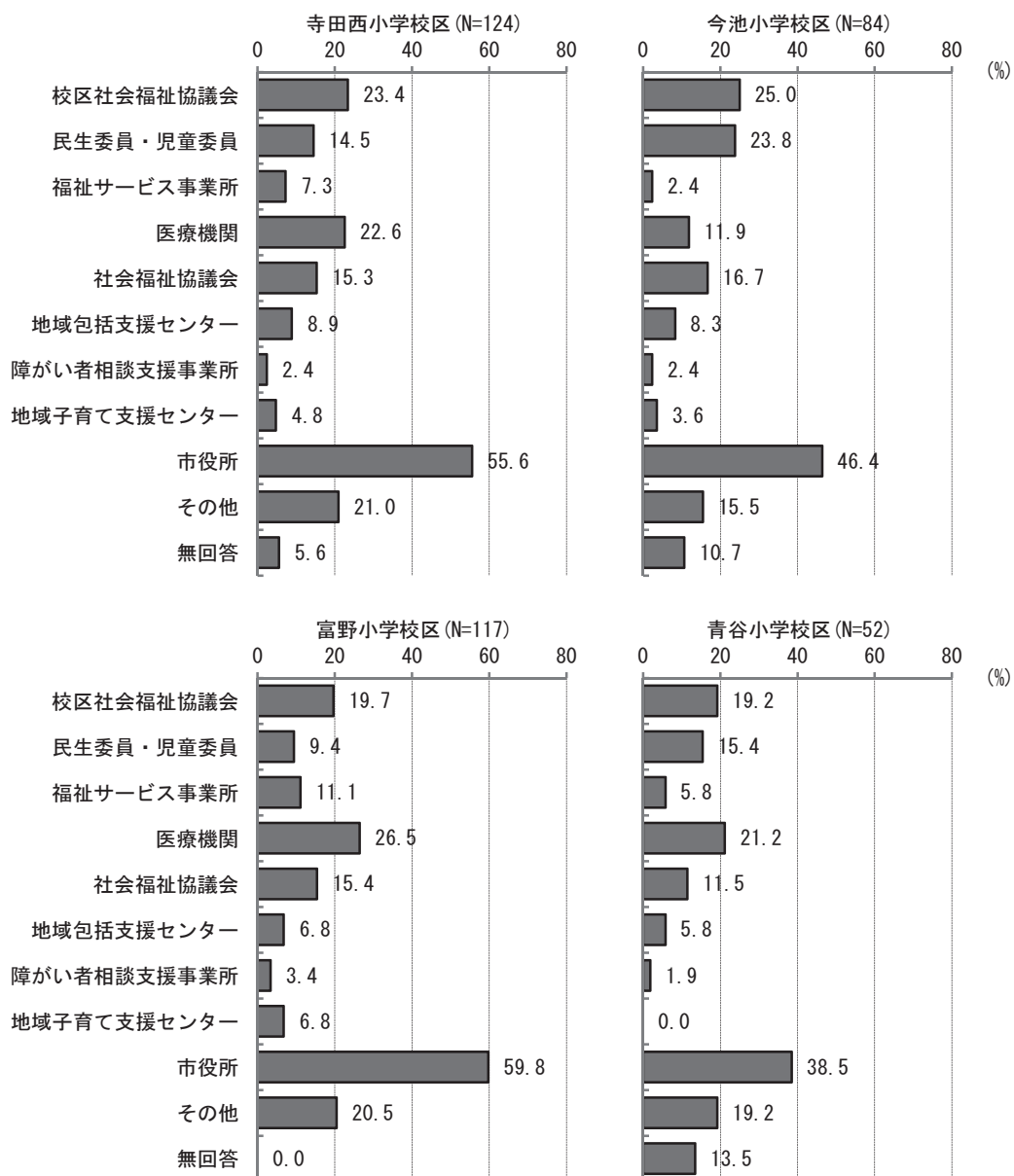
居住地域別にみると、深谷小学校区で「校区社会福祉協議会」が全体に比べて特に多くなっています。また、今池小学校区で「民生委員・児童委員」が全体に比べて特に多くなっています。



福祉サービスの情報源（居住地域別）



II-3 地域の福祉について



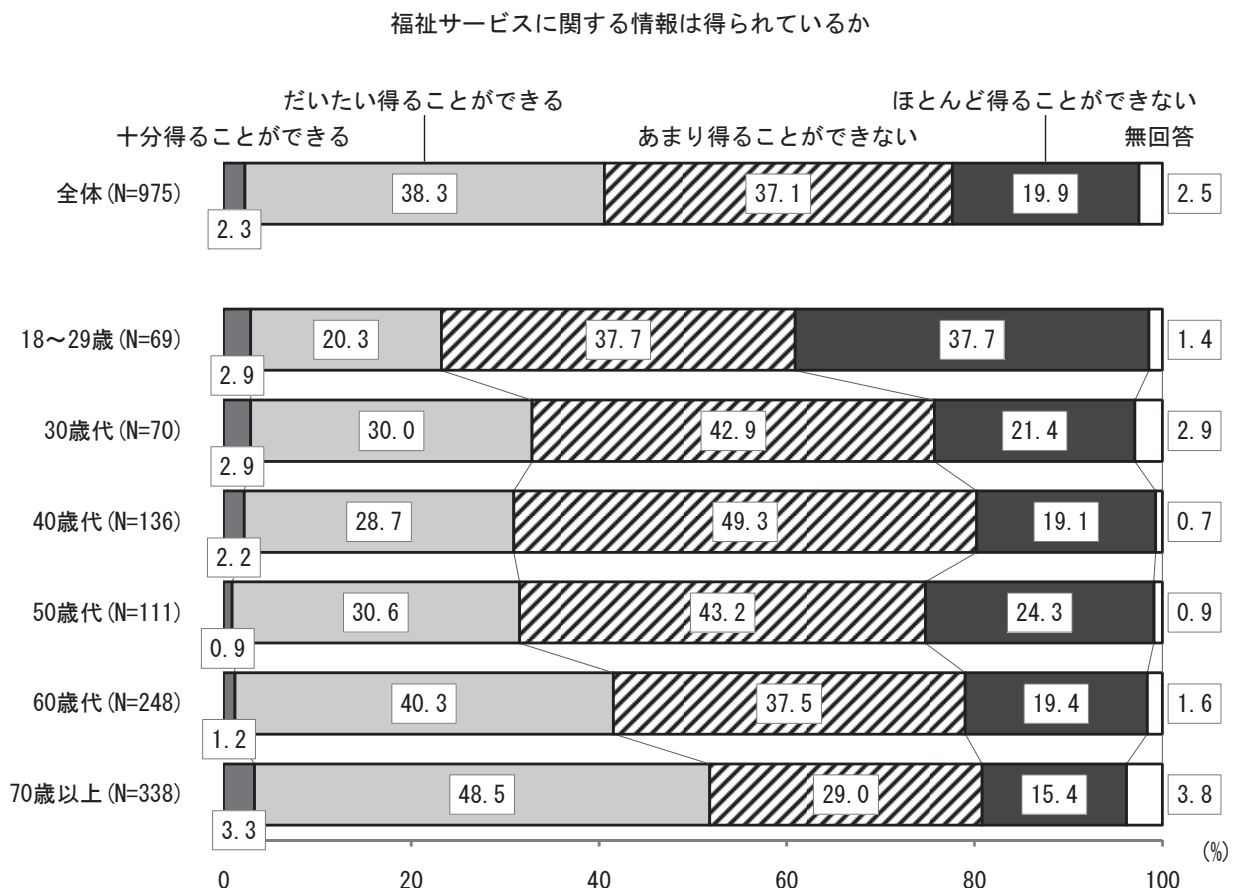
〔6〕福祉サービスに関する情報は得られているか

問20 あなたは福祉サービスに関する情報を得ることができていると思いますか。当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

福祉サービスに関する情報を得ることができているかについては、全体では、「十分得ることができる」と「だいたい得ることができる」を合わせた『得ることができる』が40.6%、「あまり得ることができない」と「ほとんど得ることができない」を合わせた『得ることができない』が57.0%となっています。

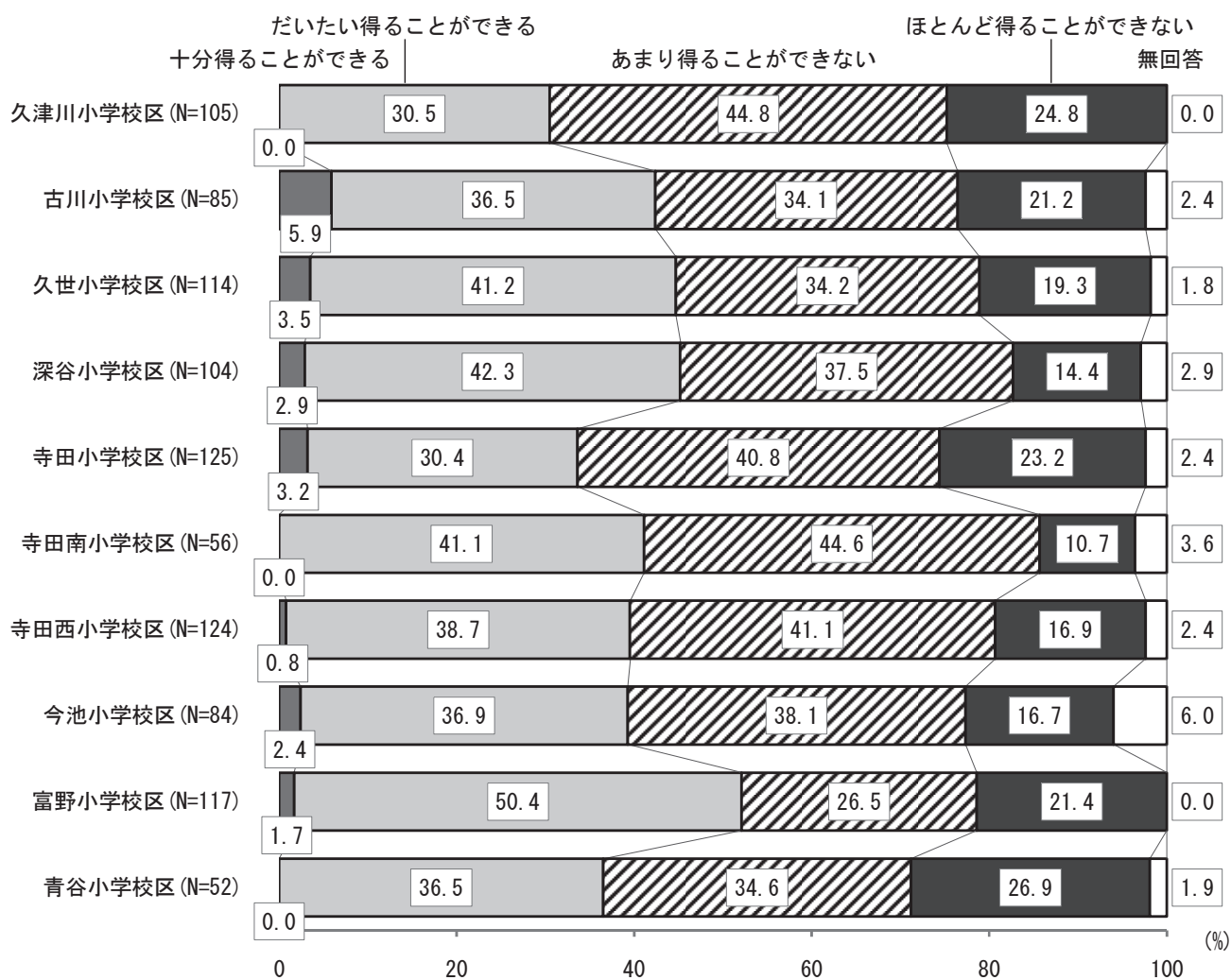
年齢別にみると、70歳以上で『得ることができる』が全体に比べて特に多くなっています。一方、18～29歳、40歳代と50歳代で『得ることができない』が全体に比べて特に多くなっています。

居住地域別にみると、富野小学校区で『得ることができる』が全体に比べて特に多く、5割以上となっています。一方、久津川小学校区で『得ることができない』が全体に比べて特に多くなっています。



II-3 地域の福祉について

福祉サービスに関する情報は得られているか（居住地区別）

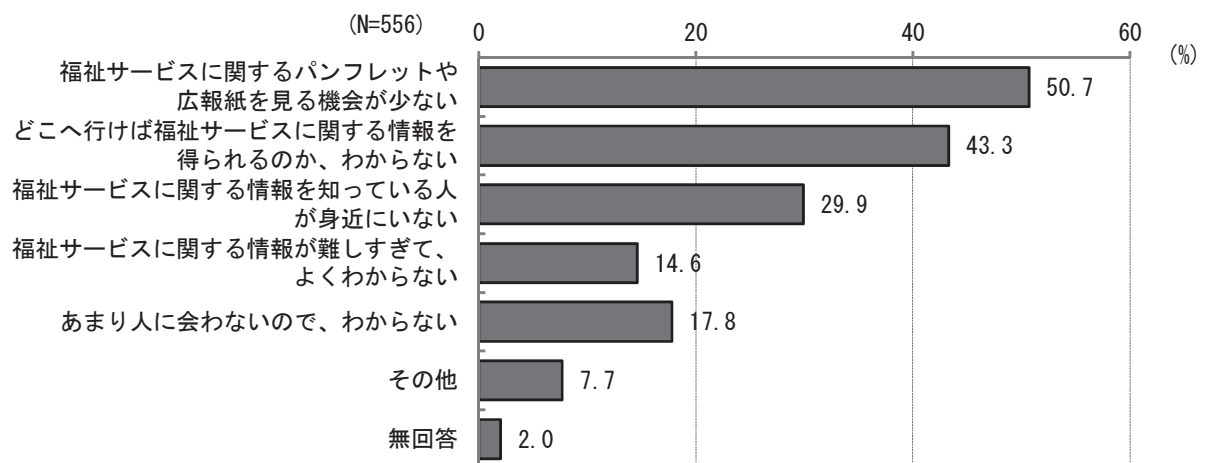


〔7〕福祉サービスの情報が得られない理由

問21 問20で「あまり得ることができない」、「ほとんど得ることができない」を選んだ方におたずねします。福祉サービスに関する情報を得ることができないのはなぜですか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

福祉サービスに関する情報を得ることができない理由については、全体では、「福祉サービスに関するパンフレットや広報紙を見る機会が少ない」が50.7%と最も多く、次いで、「どこへ行けば福祉サービスに関する情報を得られるのか、わからない」が43.3%、「福祉サービスに関する情報を知っている人が身近にいない」が29.9%、「あまり人に会わないので、わからない」が17.8%となっています。

福祉サービスの情報が得られない理由



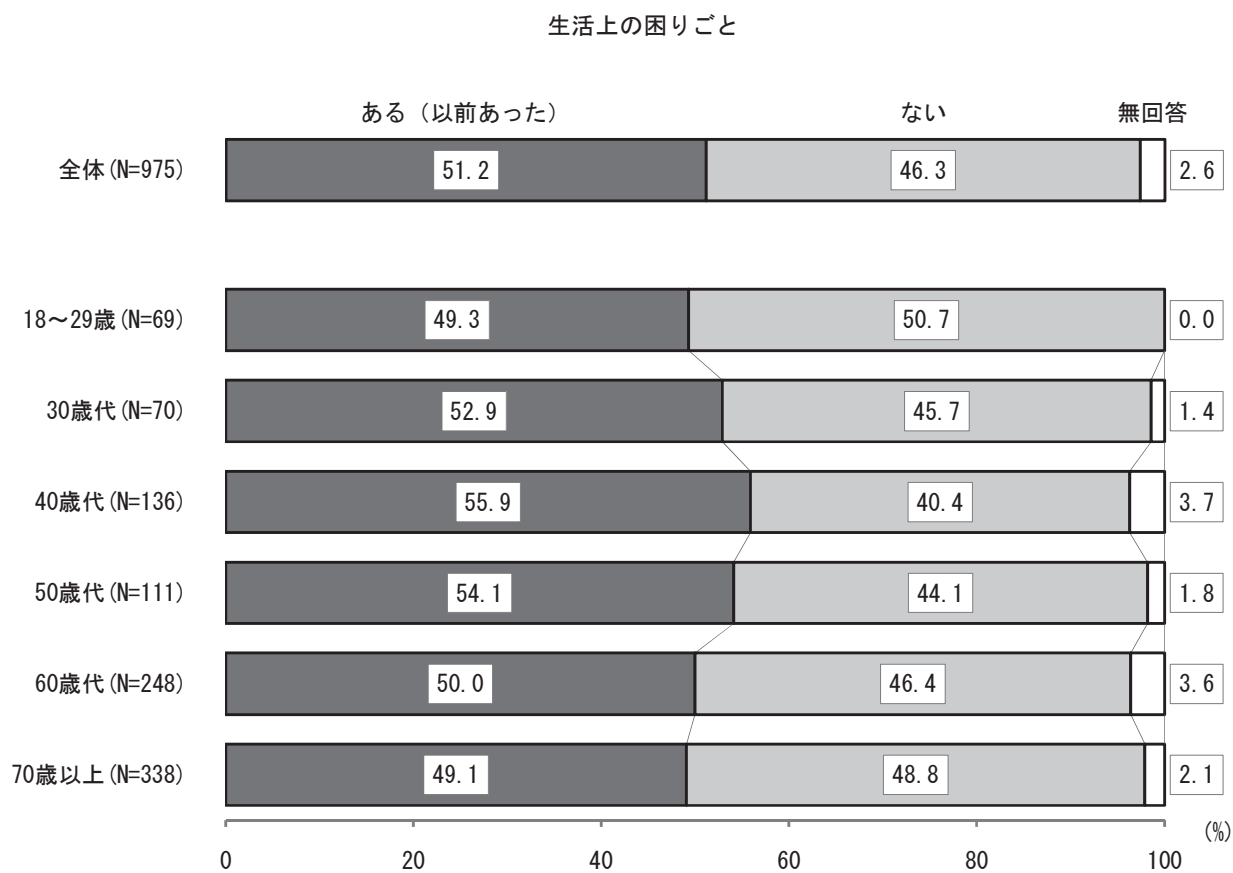
4 悩みや困りごとについて

〔1〕生活上の困りごと

問22 あなた自身、生活上の困りごとがありますか。当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

生活上の困りごとについては、全体では、「ある（以前あった）」が51.2%、「ない」が46.3%となっています。

年齢別にみると、18～29歳で「ない」が5割以上となっています。

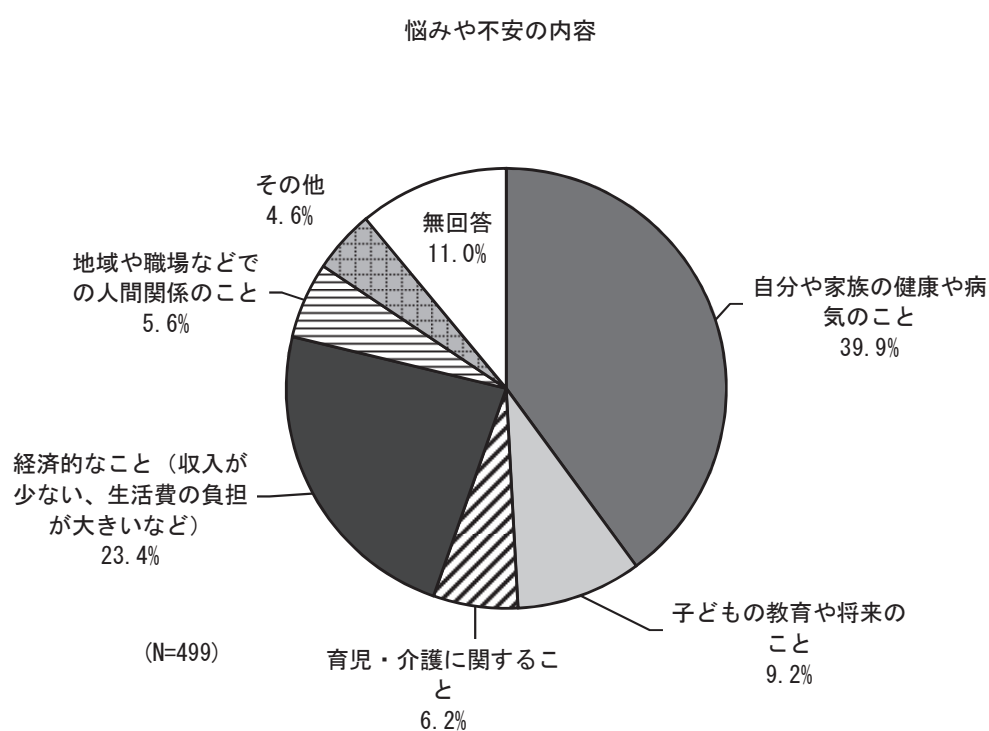


〔2〕 悩みや不安の内容

問22-1 問22で「ある（以前あった）」を選んだ方におうかがいします。

あなたは、日ごろの生活で一番悩みや不安を感じていること（いたこと）は何ですか。当てはまるものに1つだけ〇をつけてください。

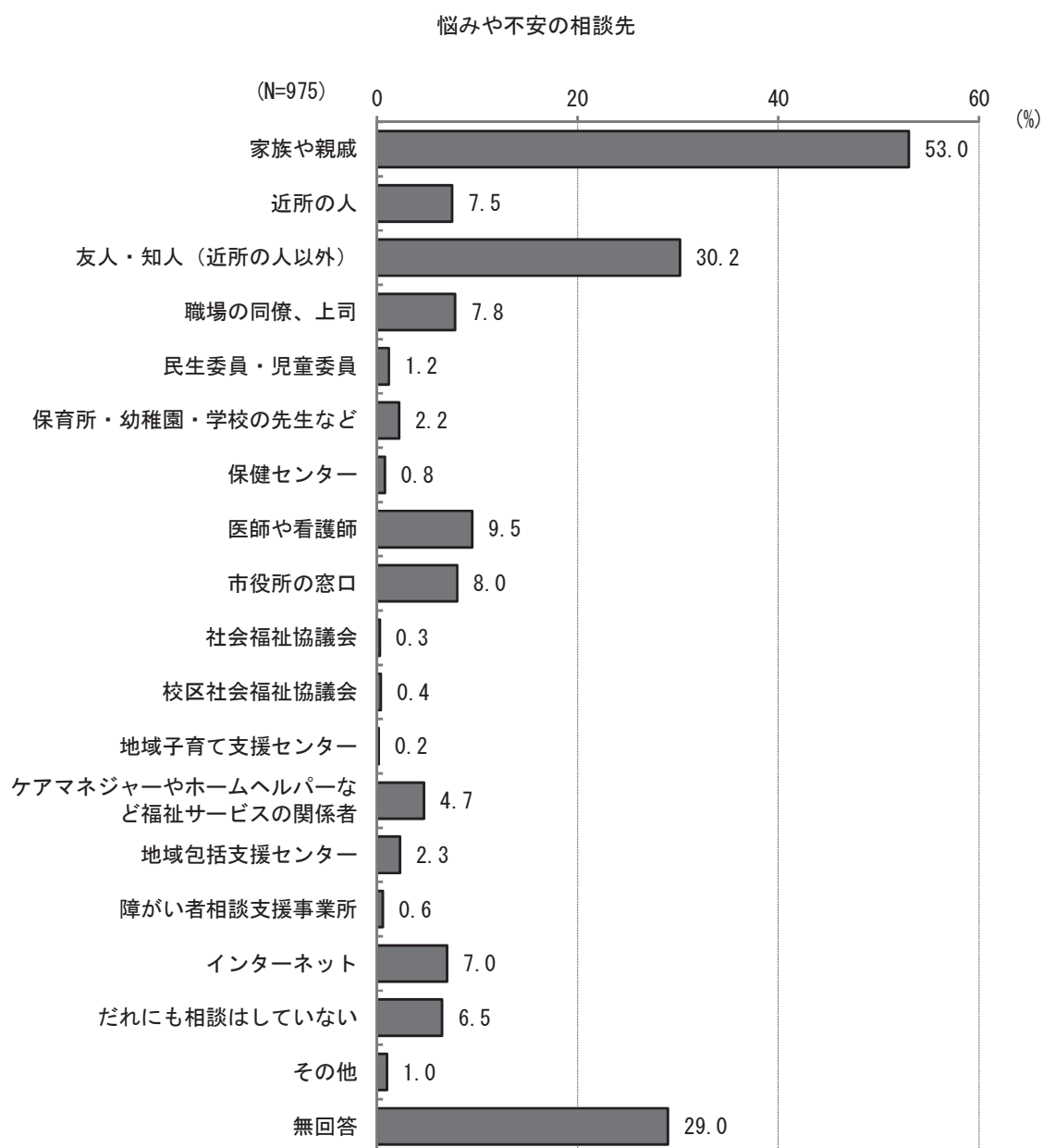
日ごろの生活で一番悩みや不安を感じていること（いたこと）については、「自分や家族の健康や病気のこと」が39.9%と最も多く、次いで、「経済的なこと（収入が少ない、生活費の負担が大きいなど）」が23.4%となっています。



〔3〕 悩みや不安の相談先

問23 ふだん悩みや不安があるときに、どのような人（場所）に相談をしていますか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

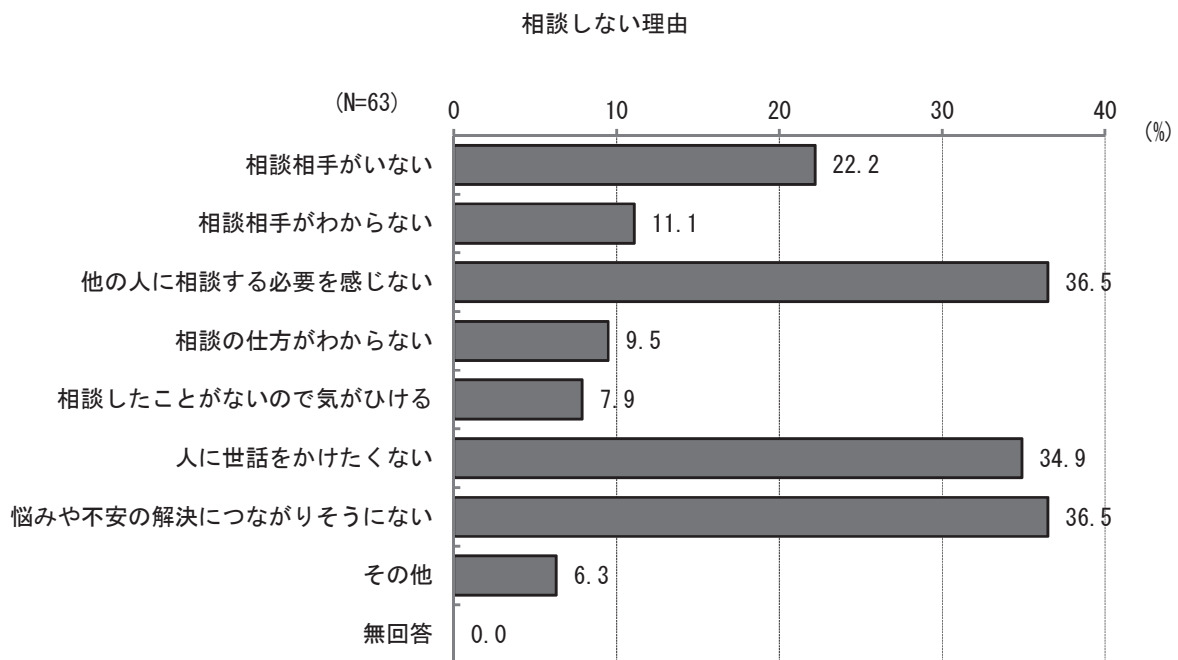
ふだん悩みや不安があるときに、どのような人（場所）に相談をしているかについては、「家族や親戚」が53.0%と最も多く、次いで、「友人・知人（近所の人以外）」が30.2%となっています。



〔4〕相談しない理由

問23-1 問23で「だれにも相談はしていない」を選んだ方におうかがいします。
その理由は何ですか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

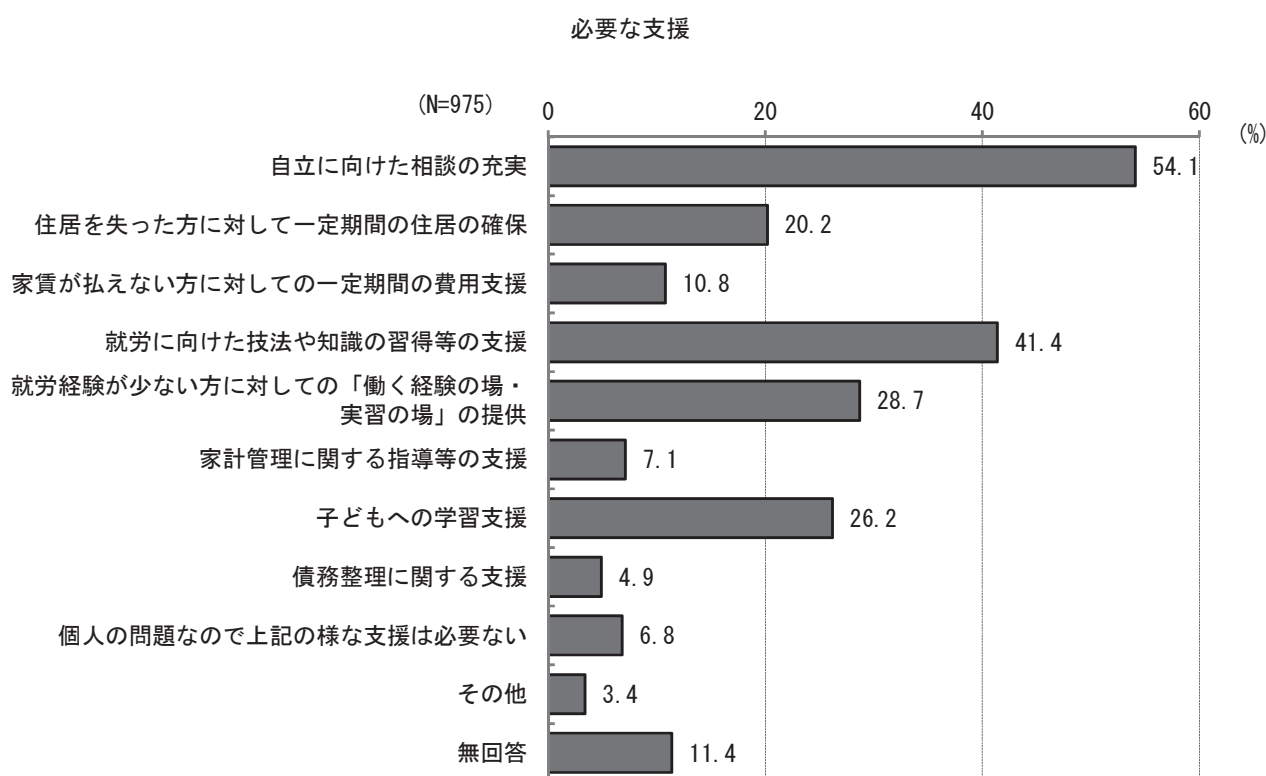
だれにも相談していない理由については、「他の人に相談する必要を感じない」、「悩みや不安の解決につながりそうにない」がそれぞれ36.5%と最も多く、次いで、「人に世話をかけたくない」が34.9%、「相談相手がいない」が22.2%となっています。



〔5〕 必要な支援

問24 仕事や生活に困っている方に対してどのような支援があれば良いと思いますか。当てはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

仕事や生活に困っている方がどのような支援があれば良いと思うかについては、「自立に向けた相談の充実」が54.1%と最も多く、次いで、「就労に向けた技法や知識の習得等の支援」が41.4%、「就労経験が少ない方に対する「働く経験の場・実習の場」の提供」が28.7%、「子どもへの学習支援」が26.2%となっています。



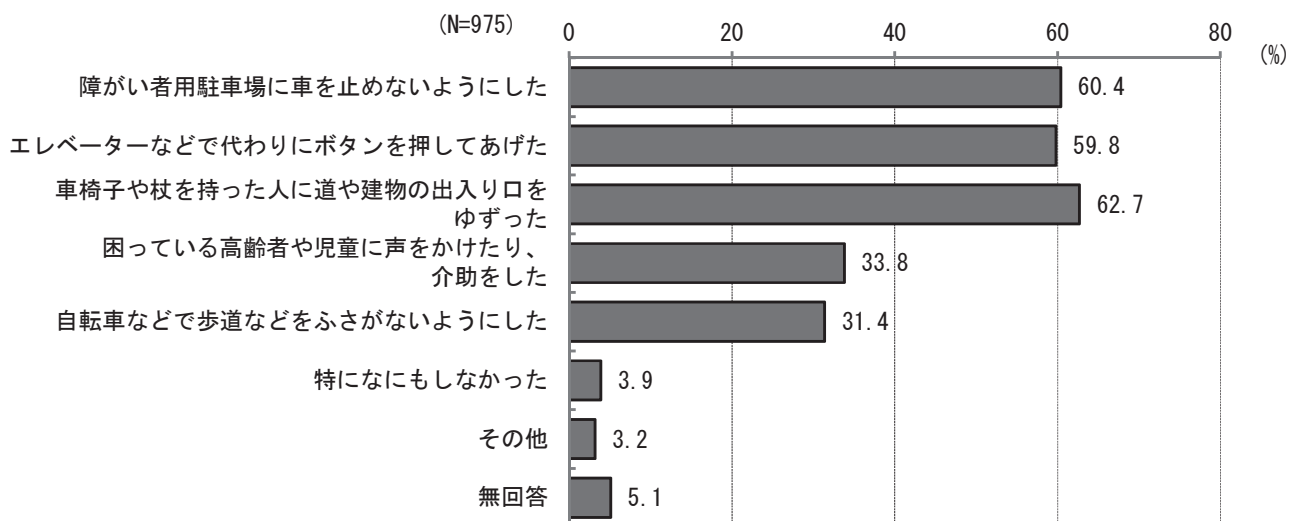
5 地域での支え合いについて

〔1〕 支援や介助が必要な方を見かけたとき、気を配っていること

問25 外出していて支援や介助が必要な方を見かけたとき、どのようなことに気を配っていますか。実際に行動したことをいくつでも選んで○をつけてください。

外出していて支援や介助が必要な方を見かけたとき、どのようなことに気を配っているかについては、「車椅子や杖を持った人に道や建物の出入り口をゆずった」が62.7%と最も多く、次いで、「障がい者用駐車場に車を止めないようにした」が60.4%、「エレベーターなどで代わりにボタンを押してあげた」が59.8%、「困っている高齢者や児童に声をかけたり、介助をした」が33.8%となっています。一方、「特になにもしなかった」は3.9%と少なくなっています。

支援や介助が必要な方を見かけたとき、気を配っていること

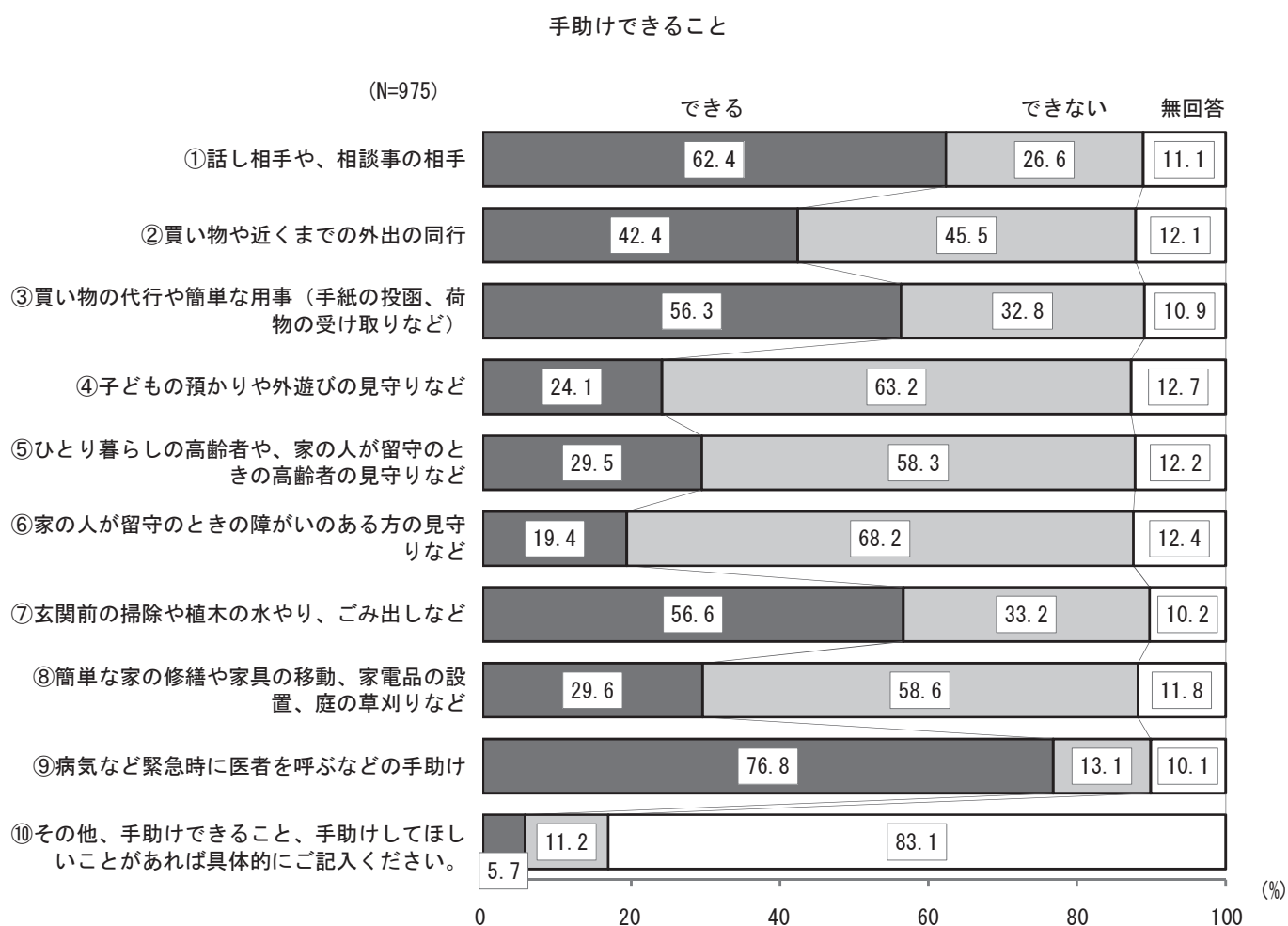


〔2〕手助けできること、手助けしてほしいこと

問26 あなたは、以下のような事柄について、ご近所の方に対して手助けなどを行うことができますか。また、ご近所の方から手助けをしてほしいですか。①～⑩のそれぞれについて、お答えください。（（1）手助けできること、（2）手助けしてほしいことの両方に○をつけてください。）

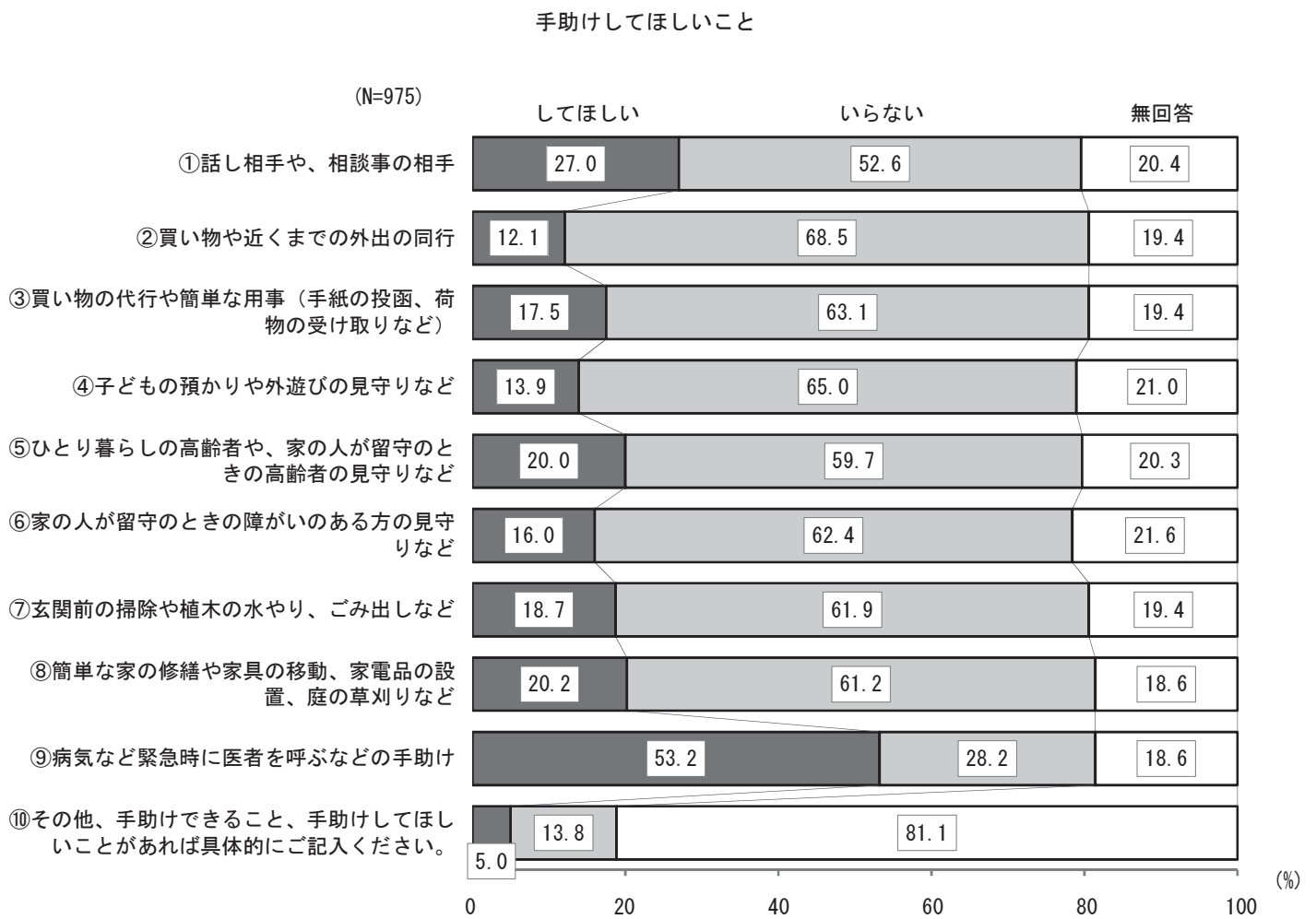
（1）手助けできること

「できる」は、「病気など緊急時に医者を呼ぶなどの手助け」が76.8%で最も多く、次いで、「話し相手や、相談事の相手」が62.4%、「玄関前の掃除や植木の水やり、ごみ出しなど」が56.6%、「買い物の代行や簡単な用事（手紙の投函、荷物の受け取りなど）」が56.3%となっています。



(2) 手助けしてほしいこと

「してほしい」は、「病気など緊急時に医者を呼ぶなどの手助け」が53.2%で最も多く、次いで、「話し相手や、相談事の相手」が27.0%、「簡単な家の修繕や家具の移動、家電品の設置、庭の草刈りなど」が20.2%、「ひとり暮らしの高齢者や、家の人が留守のときの高齢者の見守りなど」が20.0%となっています。

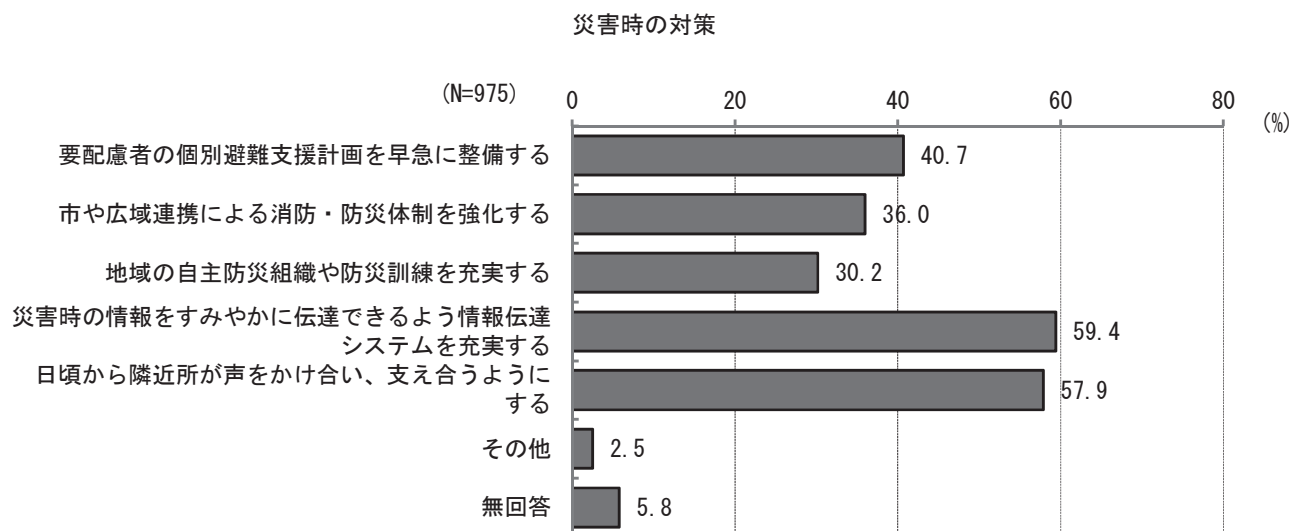


〔3〕 災害時の対策

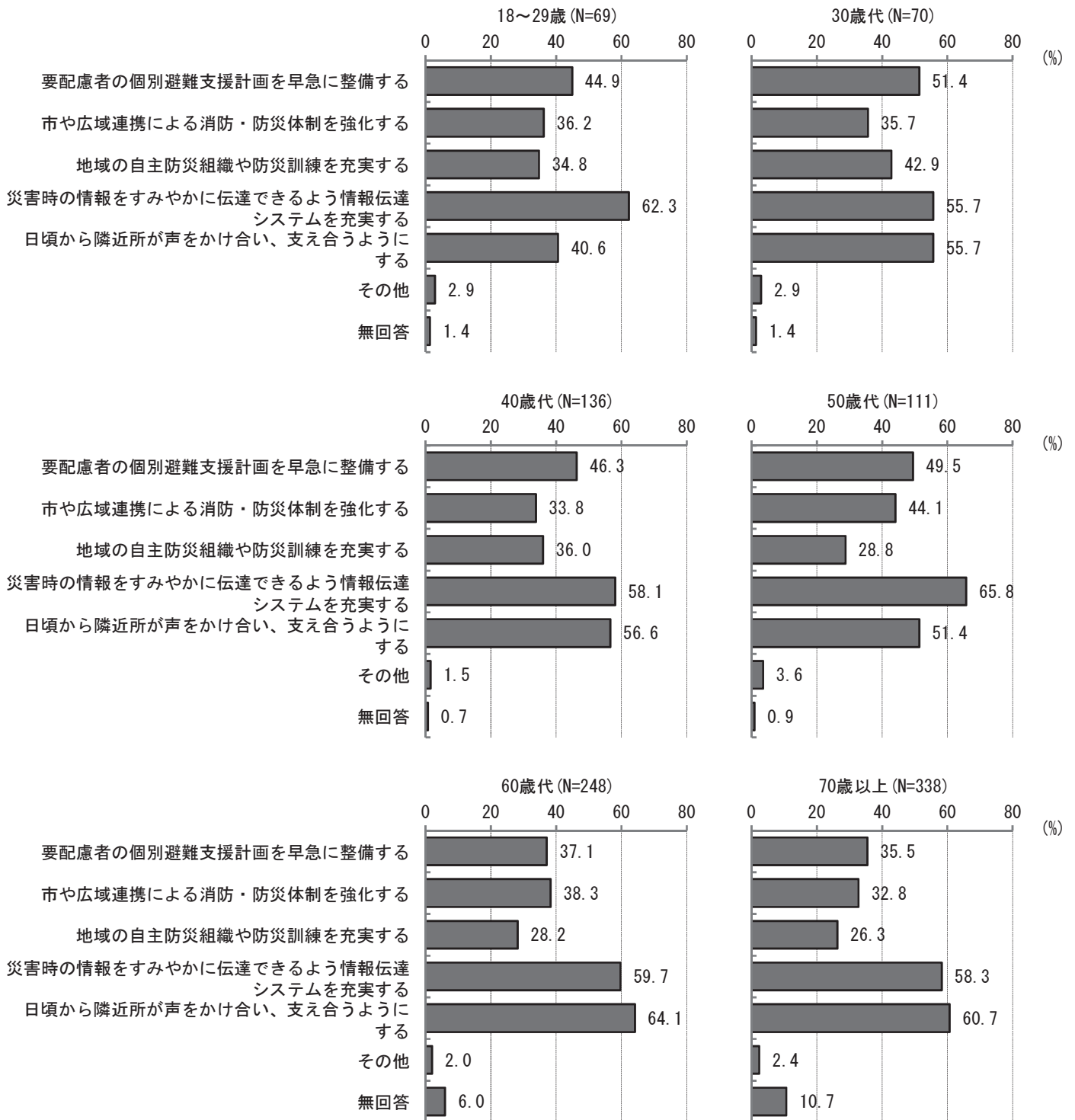
問27 仮に災害が起きたときに、ひとり暮らしの高齢者や障がいのある方など支援に配慮を必要とする人をはじめ、市民の安全を確保するために、どのような対策に力を入れるべきだと思いますか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

災害が起きたとき、どのような対策に力を入れるべきかについては、「災害時の情報をすみやかに伝達できるよう情報伝達システムを充実する」が59.4%と最も多く、次いで、「日頃から隣近所が声をかけ合い、支え合うようにする」が57.9%、「要配慮者の個別避難支援計画を早急に整備する」が40.7%、「市や広域連携による消防・防災体制を強化する」が36.0%となっています。

年齢別にみると、30歳代で「要配慮者の個別避難支援計画を早急に整備する」と「地域の自主防災組織や防災訓練を充実する」が全体に比べて特に多くなっています。



災害時の対策（年齢別）



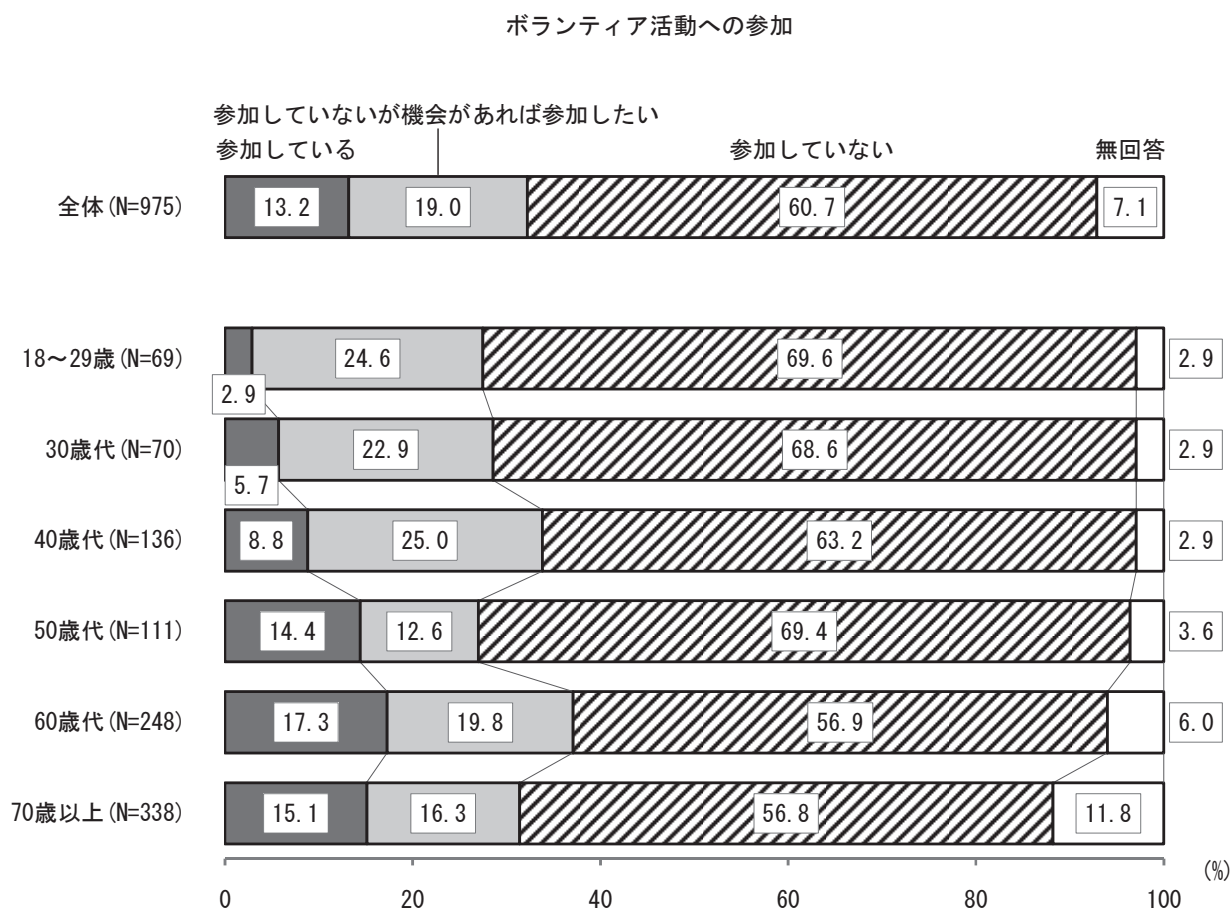
6 ボランティア活動について

〔1〕 ボランティア活動への参加

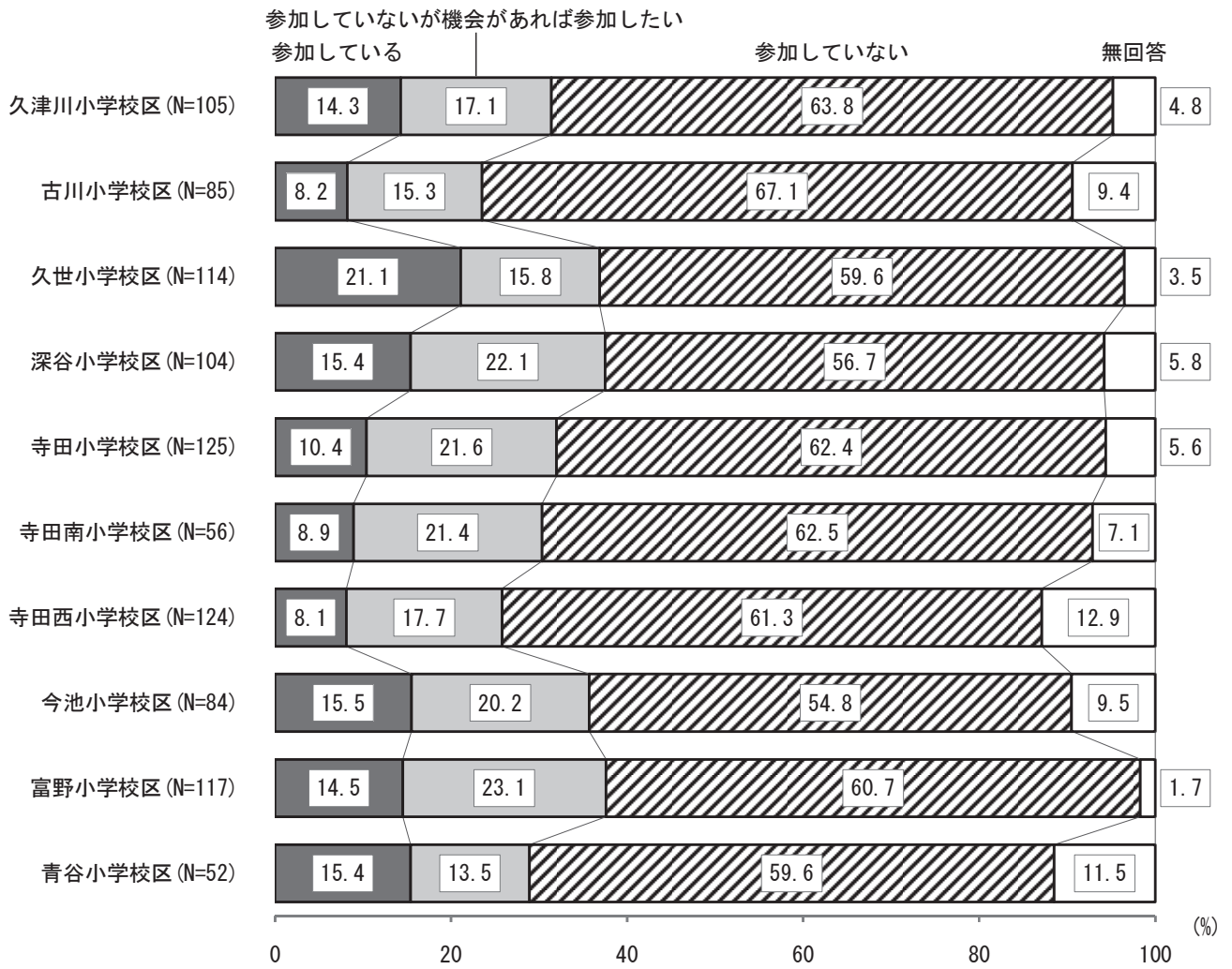
問28 あなたは、ボランティア活動に参加していますか。当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

ボランティア活動に参加しているかについては、全体では、「参加している」の13.2%に対し、「参加していない」は60.7%となっています。一方、「参加していないが機会があれば参加したい」は19.0%となっています。

年齢別にみると、18～29歳で「参加している」が全体に比べて特に少なくなっています。居住地域別にみると、地域によって傾向が異なります。



ボランティア活動への参加（居住地域別）

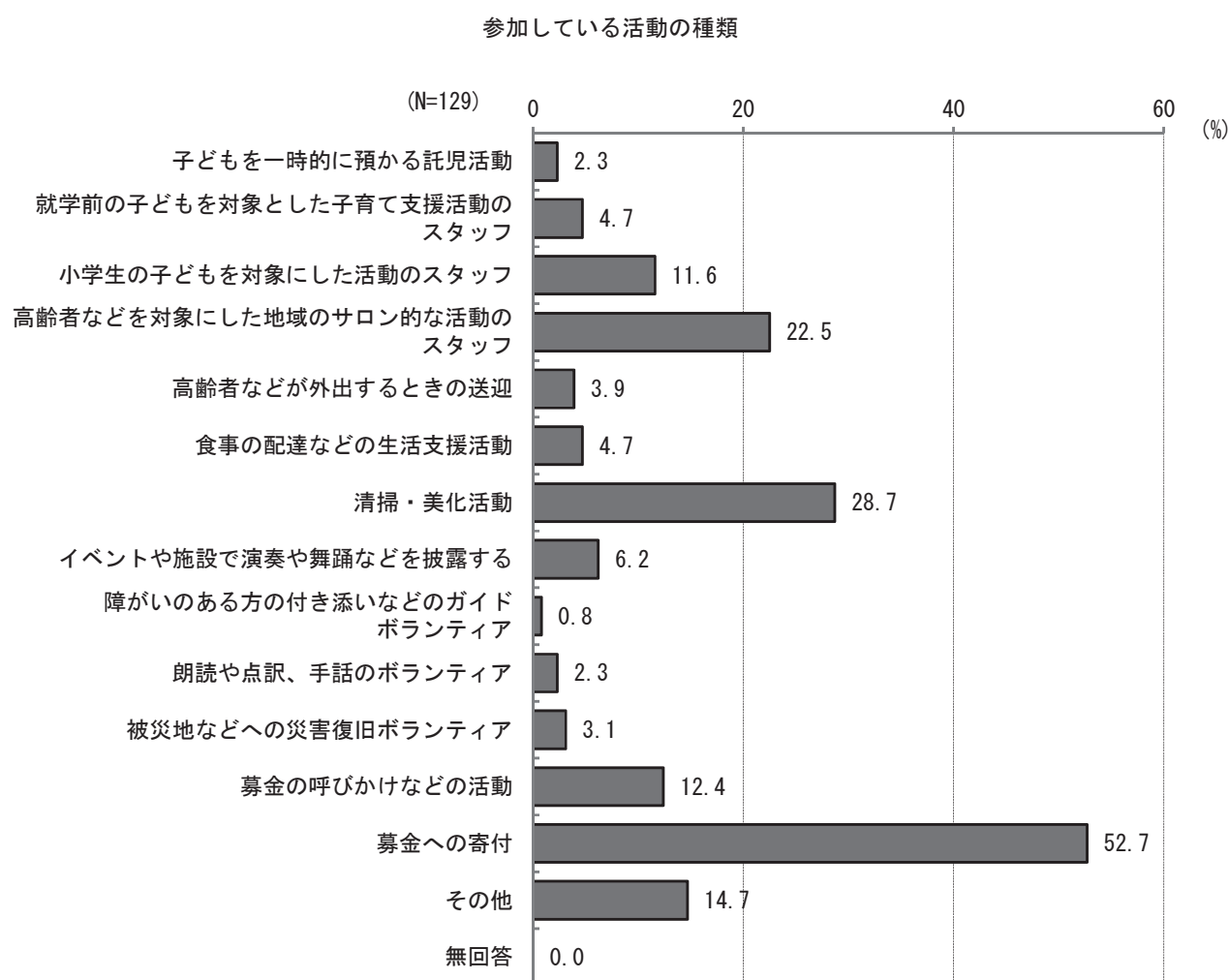


〔2〕参加している活動の種類

問29 問28で「参加している」を選んだ方におたずねします。

それはどのような活動ですか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

参加している活動については、「募金への寄付」が52.7%と最も多く、次いで、「清掃・美化活動」が28.7%、「高齢者などを対象にした地域のサロンの活動のスタッフ」が22.5%、「募金の呼びかけなどの活動」が12.4%となっています。

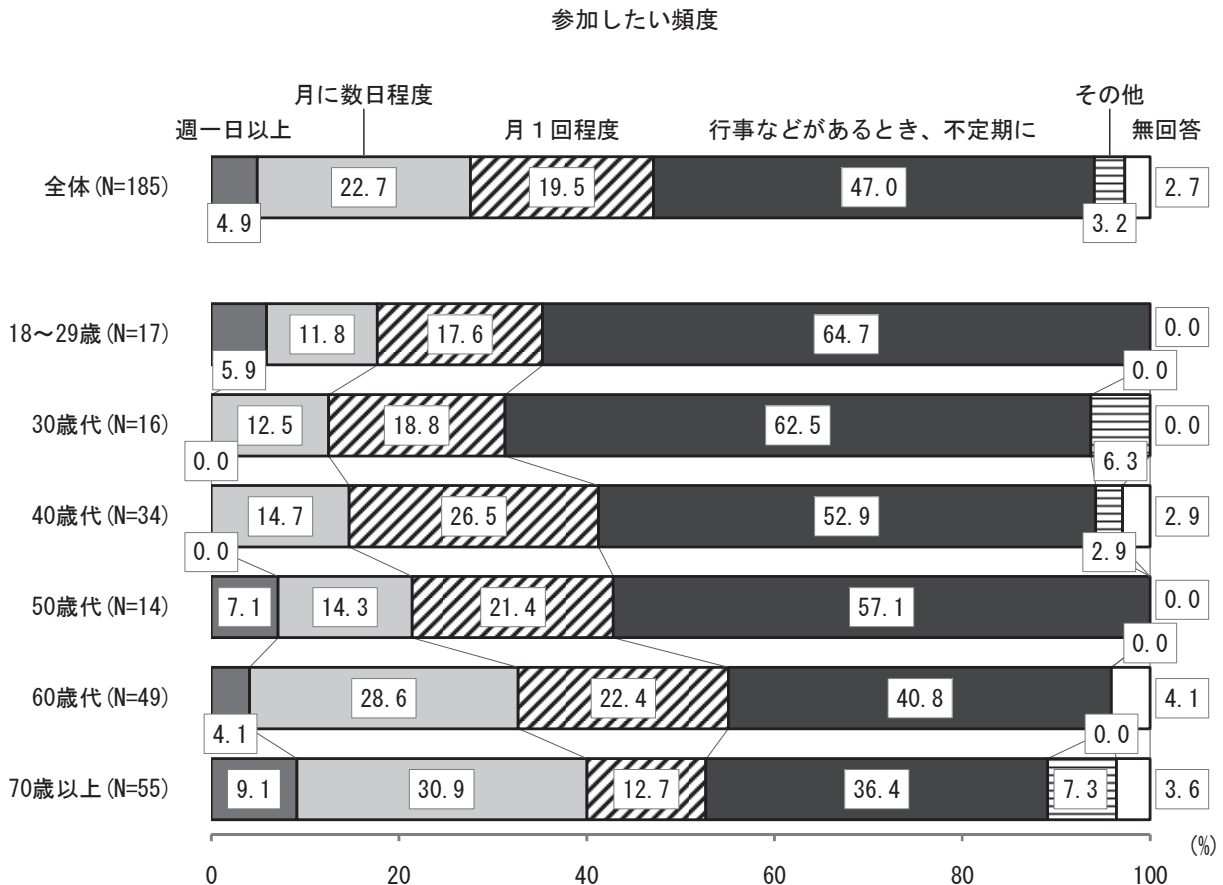


〔3〕参加したい頻度

問30 問28で「参加していないが機会があれば参加したい」を選んだ方におたずねします。
あなたは、どのくらいの頻度でボランティア活動に参加したいですか。当てはまるものに1つだけ〇をつけてください。

参加していないが機会があれば参加したい方が、どのくらいの頻度でボランティア活動に参加したいかについては、全体では、「行事などがあるとき、不定期に」が47.0%と最も多く、次いで、「月に数日程度」が22.7%、「月1回程度」が19.5%となっています。

年齢別にみると、「週一日以上」、「月に数日程度」、「月1回程度」を合わせた『月に1回程度以上』は、60歳代以上で5割以上となっています。また、50歳代以下では、「行事などがあるとき、不定期に」が5割以上となっており、30歳代以下と50歳代で全体に比べて特に多くなっています。



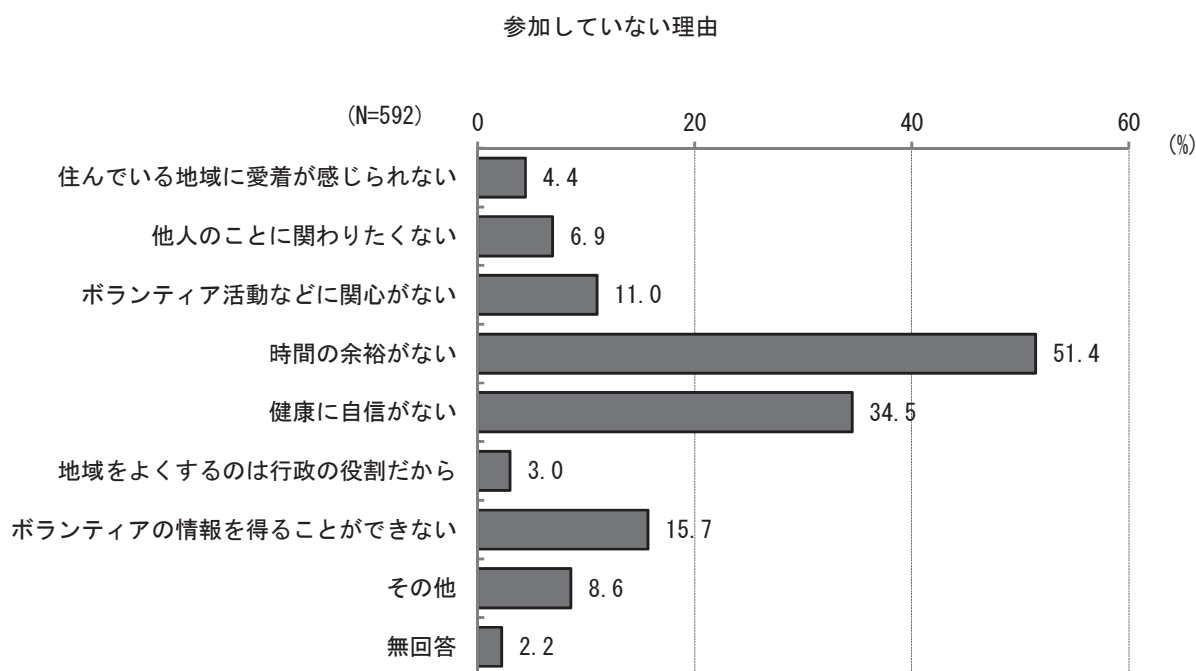
〔4〕 参加していない理由

問31 問28で「参加していない」を選んだ方におたずねします。

それはどのような理由からですか。当てはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

参加していない理由については、「時間の余裕がない」が51.4%と最も多く、次いで、「健康に自信がない」が34.5%、「ボランティアの情報を得ることができない」が15.7%となっています。

一方、「ボランティア活動などに関心がない」は11.0%と少なくなっています。

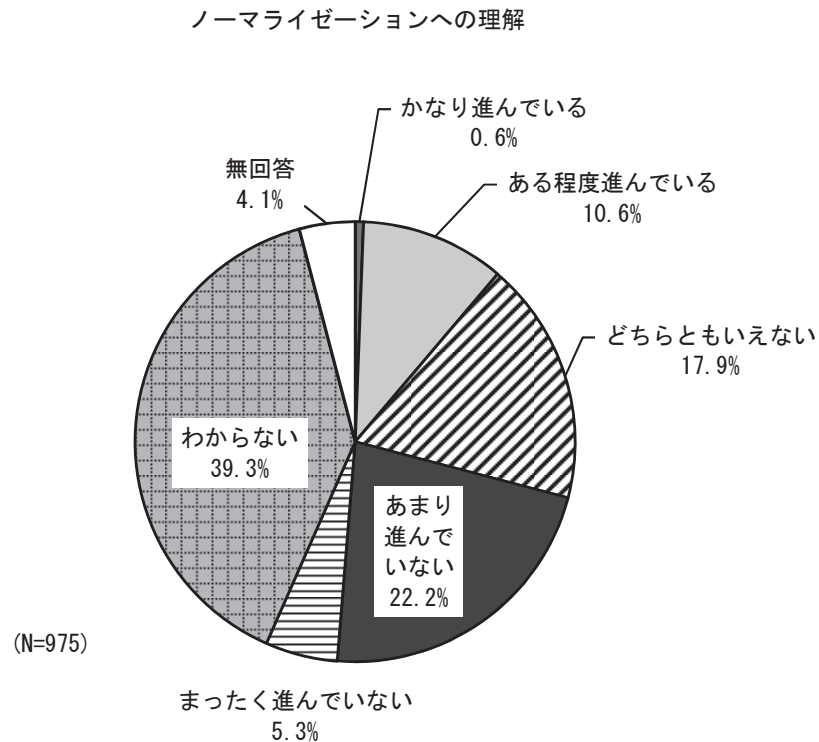


7 社会全体や城陽市の福祉について

〔1〕ノーマライゼーションへの理解

問32 城陽市において、「障がいのある方や体力が衰えた高齢者、認知症高齢者などが、他の人たちと同じ条件で生活ができる成熟した社会に改善していこう」というノーマライゼーションの考え方について、市民の理解や実践はどの程度だと思いますか。当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

ノーマライゼーションの考え方についての城陽市民の理解や実践はどの程度だと思うかについては、「かなり進んでいる」と「ある程度進んでいる」を合わせた『進んでいる』が11.2%、「あまり進んでいない」と「まったく進んでいない」を合わせた『進んでいない』が27.5%となっています。

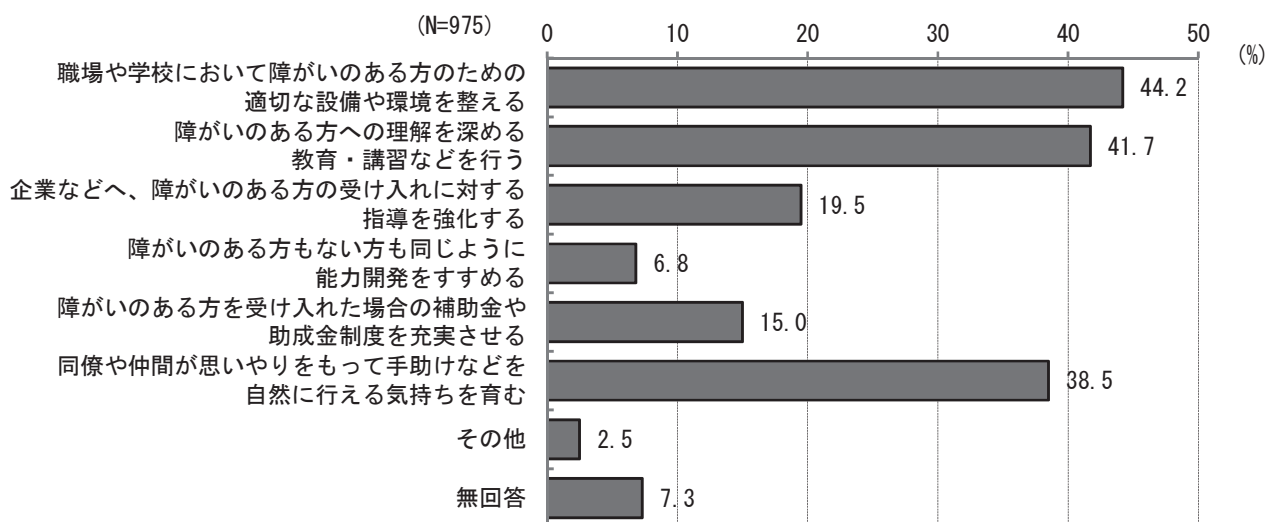


〔2〕 障がいのある方と共生するために必要なこと

問33 障がいのある方と一緒に働いたり、学習したりするためには、どのようなことが必要だと思いますか。当てはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

障がいのある方と一緒に働いたり、学習したりするために必要なことについては、「職場や学校において障がいのある方のための適切な設備や環境を整える」が44.2%と最も多く、次いで、「障がいのある方への理解を深める教育・講習などを行う」が41.7%、「同僚や仲間が思いやりをもって手助けなどを自然に行える気持ちを育む」が38.5%、「企業などへ、障がいのある方の受け入れに対する指導を強化する」が19.5%となっています。

障がいのある方と共生するために必要なこと

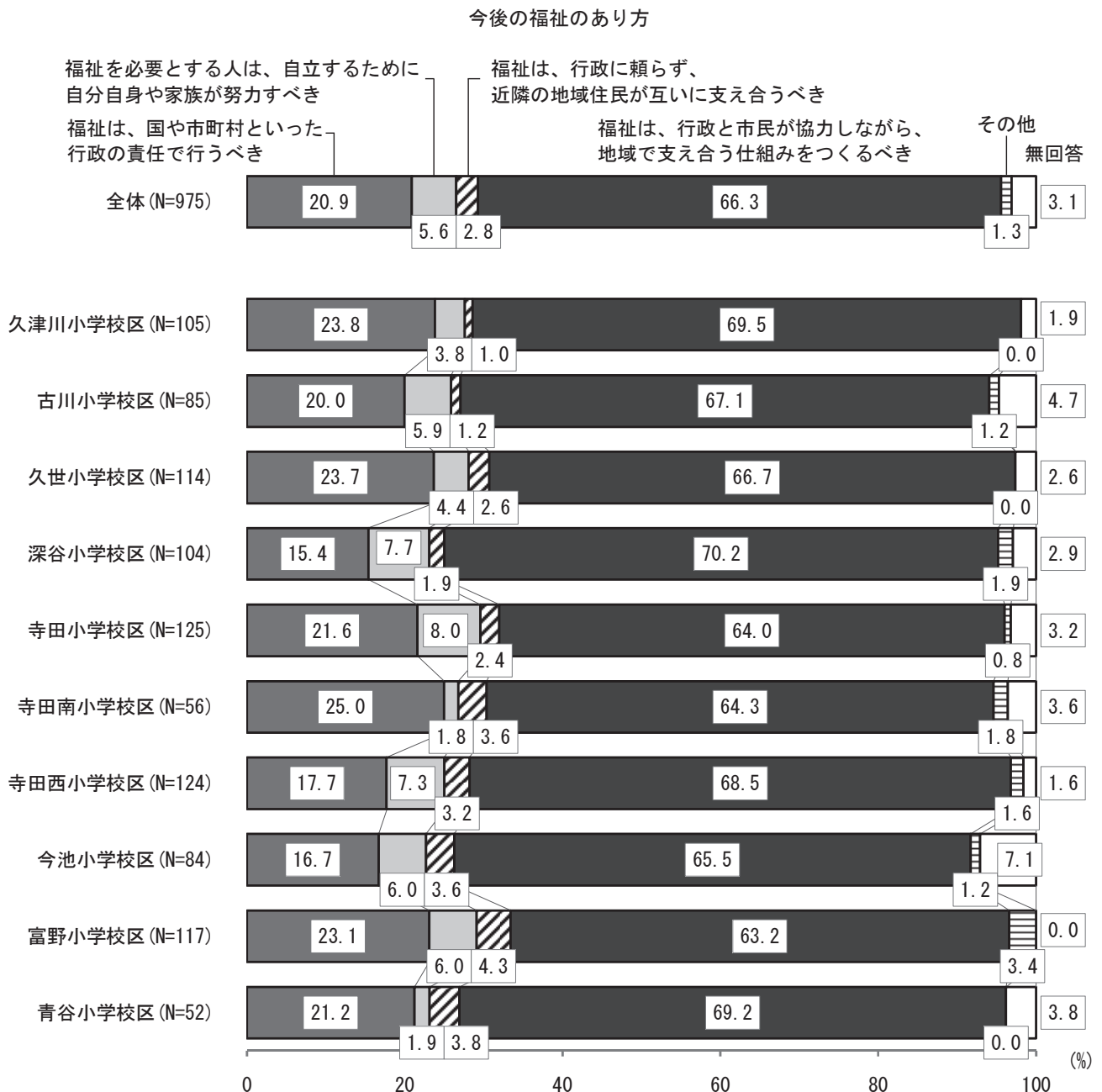


〔3〕今後の福祉のあり方

問34 城陽市の今後の福祉のあり方について、あなたはどのようにお考えですか。お考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

城陽市の今後の福祉のあり方については、全体では、「福祉は、行政と市民が協力しながら、地域で支え合う仕組みをつくるべき」が66.3%と最も多く、次いで、「福祉は、国や市町村といった行政の責任で行うべき」が20.9%となっています。一方、「福祉を必要とする人は、自立するために自分自身や家族が努力すべき」や「福祉は、行政に頼らず、近隣の地域住民が互いに支え合うべき」はわずかにとどまっています。

居住地域別にみると、地域によって傾向が異なります。

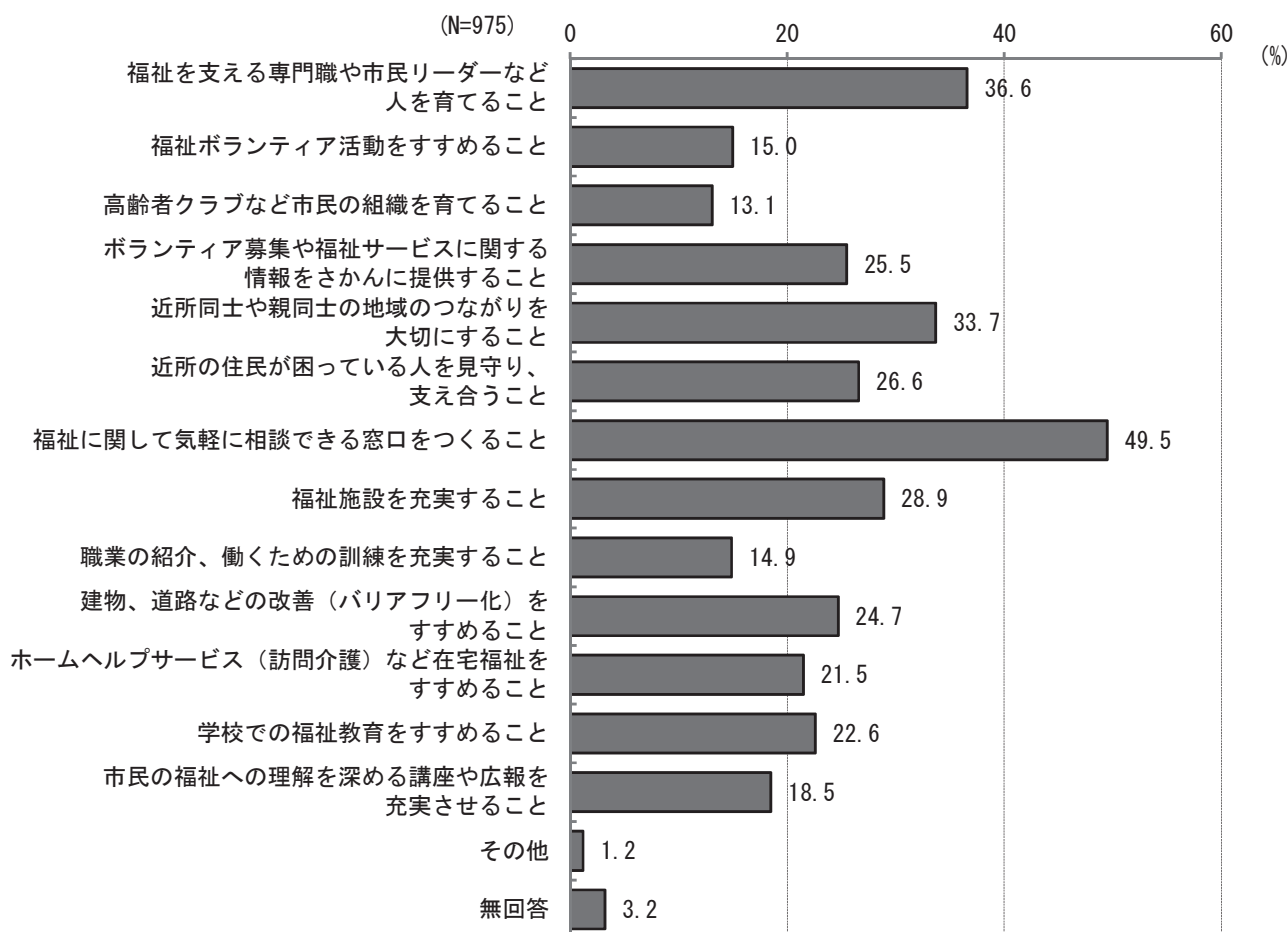


〔4〕互いに安心して暮らすために大切なこと

問35 城陽市で皆が支え合いながら安心して暮らすためには、特にどのようなことが大切だと思いますか。当てはまるものを4つまで選んで○をつけてください。

城陽市で皆が支え合いながら安心して暮らすために大切だと思うことについては、「福祉に関して気軽に相談できる窓口をつくること」が49.5%と最も多く、次いで、「福祉を支える専門職や市民リーダーなど人を育てること」が36.6%、「近所同士や親同士の地域のつながりを大切にすること」が33.7%、「福祉施設を充実すること」が28.9%となっています。

互いに安心して暮らすために大切なこと



城陽市地域福祉に関する
市民アンケート調査結果報告書

城陽市 福祉保健部

平成 29 年(2017 年) 7 月 発行

〒610-0195 城陽市寺田東ノ口 16 番地、17 番地

電話 0774-56-4030
